バ

# 埼玉純真短期大学

## 埼玉純真短期大学

# シラバス

(講義概要)



2020年度



## 保育士

### 覆 修 系 統 図

#### 専門教育科目

子ども家庭福祉 子ども家庭支援論 

子どもの健康と安全

社会的養護II 子育て支援 保育実習I(保育所) 保育実習指導I(保育所)

社会福祉 保育原理 社会的養護I 子どもの保健 保育内容総論 保育実習I(施設) 保育実習指導I(施設)

保育実習I(保育所) \*1 保育実習指導II \*1 択 保育実習I(施設) \*1 保育実習指導Ⅲ #1 カウンセリングⅡ

2年 必

学校経営と管理 幼児教育方法論 教育相談と幼児理解 教育実習(幼稚園)Ⅰ 教育実習(幼稚園)Ⅱ

1年

選

択

教職教養演習I

教職教養演習Ⅱ

教育実習(幼稚園)I ※2

カウンセリングI

共通科目

必

保育内容(環境)指導法 保育内容(言葉)指導法 保育内容(音楽表現)指導法保育内容(造形表現)指導法 保育内容(身体表現)指導法 保育内容応用指導法 教職実践演習(幼) ※3 保育実践演習 ※3

幼児教育者論 ※3 教育原理 ※3

こども学 ※3

育ちと学びの心理学 ※3

教育課程と保育の計画・評価 保育内容(健康)指導法 保育内容(人間関係)指導法

特別支援教育 ※3

保育者のための社会人基礎講座

子どもと健康 ※3 子どもと人間関係 ※3 子どもと環境 ※3

子どもと言葉 ※3

子どもと表現 ※3

音楽I

教養教育科目

Hotelegen Hotelegen Hotelegen

入門ゼミ I ※3

必 入門ゼミ I \*3

修 日本語表現 I \*\*3

日本語表現Ⅱ ※3

英語コミュニケーションI \*\*3 英語コミュニケーションⅡ ※3

生涯スポーツ・レクリエーション 1 ※3

体育講義・女性のからだと健康 ※3

心理学入門 ※3 コンピュータ基礎演習 I

ボランティア概論 ボランティア実習

択點

暮らしと環境 ふるさと学

コンピュータ基礎演習Ⅱ

生涯スポーツ・レクリエーションⅡ レクリエーション概論

キャリアデザイン 異文化理解

※1 選択必修

※2 1.2年にまたがる

※3 卒業必修

### 学園設立の目的

本学園は時代の要望に即応し、高い知性と豊かな情操とをもって、社会、家庭に 歓迎され、敬愛される良識ある女性を訓育する目的として設立されたものである。 従って、次の学園訓を掲げる。

# 物広 .

節度を持った行動をすること物事の本質を見定め、考え、判断し、広い視野に立ち、枝葉末節に拘泥することなく、

# \* 精お人

煮

20

精神性の高さで行動することお互いを高め合い、他者をして犯すべからざる人を魅了し、良き師、良き友を得て、

# 学園訓

志に準じて行動すること利害得失を捨てたときに、心の底から生まれる多くの人に支えられていることに感謝し、

奉仕

#### 埼玉純真短期大学 こども学科における学習成果

埼玉純真短期大学は、学園訓「気品・知性・奉仕」を建学の精神とし、健康にして 良識ある人格高き社会の指導的人物養成を目的としています。この学園訓に則り、本学 こども学科は信頼される保育者養成を目的として教育課程を編成しています。ここでは、 信頼される保育者として活躍できるように、幅広い教養と専門的知識や技術を身に つけた良き社会人、良き職業人としても自覚と責任を持った行動で社会に貢献できる ように授業科目を配置しています。

これらの授業科目を通して身につけさせたいと考えていることは、①保育の現場で必要な専門的知識や技術であり、②これらの知識や技術を発揮するための理解力・受容力・忍耐力・行動力・自己研鑽力などであり、③これらの力を活かすために、相手を思いやり、良好な人間関係を構築するための表現力やコミュニケーション能力であり、④これらの能力を総合して、子どもを取り巻く環境の問題などを積極的に捉え、地域社会へ貢献できる力などであるとし、教授・学習に取り組んでいます。

このこども学科における「学習成果」は、学習成果評価指標のとおり「機関レベル」、「教育課程レベル」と「授業科目レベル」の3段階レベルで測定しています。例えば、コミュニケーション力養成の成果測定は、「授業科目レベル」では1年次教養必修科目の「日本語表現I」で基礎的日本語力の測定のために「日本語検定(日本語検定委員会)」を採用し、「教育課程レベル」では、社会人としての行動・表現力測定のための「人財チェックシート」で成果を測定し、実習や就職活動においての成果に結びつける等です。

同時に、こども学科としては、学期ごとの成績評価に対しての学生自身の自己評価と 担任との面談指導を通して新たな目標設定を行い、学生自身が学習成果をはっきりと 認識した上で、学習のPDCAサイクルによる学習計画を立てられるようにしています。 このようにすべての科目を履修する過程を経て、最終的には学位や資格取得・就職 などの結果において学習成果が評価されることになります。

## 目 次

I.1年生履修科目

1- 50

Ⅱ. 2年生履修科目

51 - 99

#### I.1年生履修科目

入門ゼミI	髙橋 努	• • • • • • • • •	1
	加藤 房江		
	金 美珍		
	持田 京子		
入門ゼミⅡ	髙橋 努		2
	加藤 房江		
	金 美珍		
	持田 京子		
日本語表現 I	細田 香織	• • • • • • • • •	3
	山畑 昭司		
日本語表現Ⅱ	細田 香織		4
	山畑 昭司		
心理学入門	池田 夏葉		5
ボランティア概論	伊藤 道雄		6
ボランティア実習	伊藤 道雄		7
手話	今西 理枝子		8
暮らしと環境	平井 厚志		9
	金子 智昭		
ふるさと学	藤田 利久		10
日本国憲法	高乗 正臣		11
英語コミュニケーション I	岡島 勇太		12
	小野 安昭		
英語コミュニケーションⅡ	岡島 勇太		13
	小野 安昭		
コンピュータ基礎演習 I	小松 和弘		14
コンピュータ基礎演習 Ⅱ	小松 和弘		15
生涯スポーツ・レクリエーション I	金 美珍		16
生涯スポーツ・レクリエーションⅡ	平井 厚志		17
体育講義・女性のからだと健康	村松 知香		18
キャリアデザイン	藤田 利久		19
	小澤 俊太郎		
	金子 智昭		
	平井 厚志		
異文化理解	鈴木 一代		20
	藤田 利久		
社会福祉	泉水 祐太		21
保育原理	丸山 アヤ子		22
幼児教育者論	持田 京子	• • • • • • • • •	23
	金子 智昭		
社会的養護 I	髙橋 努		25
教育原理	藤田 利久	• • • • • • • • •	26
	槙 拓治		
こども学	丸山 アヤ子		27
育ちと学びの心理学	布施 由起	• • • • • • • • •	28
子どもの保健	金井 純子	• • • • • • • • • •	29

教育課程と保育の計画・評価	金子 智昭	• • • • • • • • •	30
保育内容総論	持田 京子		32
保育内容(健康)指導法	金 美珍		33
保育内容(人間関係)指導法	齋藤 光男	• • • • • • • • •	34
特別支援教育	伊藤 道雄		35
保育者のための社会人基礎講座	薩埵 裕子		36
	藤田 利久		
子どもと健康	金 美珍	• • • • • • • • •	37
子どもと人間関係	布施 由起		38
子どもと環境	持田 京子		39
	布施 由起		
	小礒 伸一		
	後藤 雅浩		
子どもと言葉	細田 香織	• • • • • • • • •	40
子どもと表現	小澤 和恵	• • • • • • • • •	41
	小澤 俊太郎		
	金 美珍		
	小日向 千秋		
音楽I	小澤 俊太郎		42
	高野 恵允		
	浅見 彩賀		
	小川 弥輪		
	鈴木 順子		
	野本 裕美子		
	松井 ひかる		
音楽Ⅱ	小澤 俊太郎		43
	高野 恵允		
	浅見 彩賀		
	小川 弥輪		
	鈴木 順子		
	野本 裕美子		
	松井 ひかる		
カウンセリング I	布施 由起	• • • • • • • • • • • • • • • • • • • •	44
教職教養演習 I	平井 厚志	• • • • • • • • •	45
	山畑 昭司		
教職教養演習Ⅱ	平井 厚志	• • • • • • • • • • • • • • • • • • • •	46
	山畑 昭司		
保育実習 I(施設)	髙橋 努	• • • • • • • • •	47
	原口 政明		
保育実習指導 I (施設)	髙橋 努	• • • • • • • • • • • • • • • • • • • •	48
	原口 政明		
教育実習(幼稚園) I	持田 京子	• • • • • • • • • • • • • • • • • • • •	49
	金子 智昭		
教育実習(幼稚園)Ⅱ	持田 京子	• • • • • • • • • • • • • • • • • • • •	50
	金子 智昭		

#### Ⅱ.2年生履修科目

レクリエーション概論	金 美珍	• • • • • • • • •	51
子ども家庭福祉	原口 政明		52
学校経営と管理	伊藤 道雄		53
子ども家庭支援論	原口 政明		54
子ども家庭支援の心理学	布施 由起		55
子どもの理解と援助	池田 夏葉		56
子どもの食と栄養	庄司 豊		57
	庄司 久美子		
保育内容(環境)指導法	小礒 伸一		58
	後藤 雅浩		
保育内容(言葉)指導法	細田 香織		59
保育内容(音楽表現)指導法	小澤 和恵		60
保育内容(造形表現)指導法	小日向 千秋		61
保育内容(身体表現)指導法	村松 知香		62
保育内容応用指導法	小澤 和恵		63
保育内容応用指導法	持田 京子		64
保育内容応用指導法	小日向 千秋		66
幼児教育方法論	持田 京子		67
	金子 智昭		
乳児保育 I	加藤 房江		69
乳児保育Ⅱ	加藤 房江		70
子どもの健康と安全	鈴木 雅子		71
特別支援保育	齋藤 光男		72
社会的養護Ⅱ	髙橋 努		73
子育て支援	髙橋 努		74
音楽Ⅲ	小澤 俊太郎		75
	高野 恵允		
	浅見 彩賀		
	小川 弥輪		
	野本 裕美子		
	松井 ひかる		
音楽IV	小澤 和恵	• • • • • • • • •	76
	小澤 俊太郎		
	浅見 彩賀		
	小川 弥輪		
	野本 裕美子		
	松井 ひかる		
カウンセリング Ⅱ	布施 由起	• • • • • • • • • •	77
教育相談と幼児理解	原口 政明	• • • • • • • • •	78
教職実践演習(幼)	小澤 和恵他	• • • • • • • • •	79
保育実践演習	伊藤 道雄	• • • • • • • • • • • • • • • • • • • •	80
保育実践演習	小澤 和恵	• • • • • • • • • • • • • • • • • • • •	81
保育実践演習	小澤 俊太郎	• • • • • • • • • • • • • • • • • • • •	82
保育実践演習	加藤 房江	• • • • • • • • • • • • • • • • • • • •	83
保育実践演習	金子 智昭		84

保育実践演習	金 美珍		85
保育実践演習	髙橋 努		86
保育実践演習	原口 政明	• • • • • • • • •	87
保育実践演習	布施 由起	• • • • • • • •	88
保育実践演習	細田 香織		89
保育実践演習	丸山 アヤ子	• • • • • • • • •	90
保育実践演習	持田 京子	• • • • • • • •	91
保育実習 I (保育所)	加藤 房江	• • • • • • • •	92
	丸山 アヤ子		
保育実習指導 I (保育所)	加藤 房江	• • • • • • • • •	93
	丸山 アヤ子		
保育実習Ⅱ(保育所)	加藤 房江	• • • • • • • • • •	94
	丸山 アヤ子		
保育実習指導Ⅱ	加藤 房江	• • • • • • • • • • • • • • • • • • • •	95
	丸山 アヤ子		
保育実習Ⅲ(施設)	髙橋 努	• • • • • • • • • •	96
保育実習指導Ⅲ	髙橋 努	• • • • • • • • • • •	97
教育実習(幼稚園) I	持田 京子	• • • • • • • • • • • • • • • • • • • •	98
	金子 智昭		
教育実習(幼稚園)Ⅱ	持田 京子	• • • • • • • • •	99
	金子 智昭		

# I.1年生履修科目



卒業必修	保育士必修	幼稚園教諭必修	選択
授業科目名: 入門ゼミ I ナンバリング: 1001		単位数:1単位 (半期)演習	担当教員名: 髙橋努、加藤房江、 金美珍、持田京子
			担当形態:クラス分け

- 1. 建学の精神「気品」「知性」「奉仕」の理解し、具体的な行動指針を意識して学習と生活に 活かすことができる。
- 2. 自己の目標を設定することができる。
- 3. 学習の基礎・基本、そして大学での学び方を知り、実践できる。

#### 授業の概要

本学における2年間の生活と学びの基礎として、建学の精神の理解や学修の基礎と基本を学ぶ。

企画・立案・練習(1時間) ワークシートの記入(1時間)

ワークシートの記入(1時間)

振り返りシートの記入(1時間) 振り返りシートの記入(1時間)

ワークシートの記入(1時間)

ワークシートの記入(1時間)

事前学習と事後活動(1時間)

ワークシートの記入(1時間) ワークシートの記入(1時間)

※毎回「実習に必要な漢字テ

スト」勉強を行う。

調べ学習課題(1時間)

レポート作成(2時間)

授業計画 授業時間外の学習

第1回:オリエンテーション

第2回:大学での学び方

第3回:学校行事の企画と運営(スポーツ大会の準備)

第4回:自分を知る① どんな自分になりたいか

第5回:自分を知る② 大学生活をデザインする

第6回:学びの技術を知る① 大学の講義のスタイル

第7回:学びの技術を知る② レポートの書き方

第8回:教養としての日本文化①

第9回:教養としての日本文化②

第10回: 社会人としてのマナー①

第11回:社会人としてのマナー②

第12回:学外研修 「ホスピタリティを学ぶ」

第13回:教育者・保育者として、環境について考える①

第14回:教育者・保育者として、環境について考える②

第15回:課題と発展学習の発見

授業の方法 講義と発表、ディスカッション。

テキスト

特に指定しない。適宜プリント等を配布する。

参考書・参考資料等

定期試験:レポート

課題に関する資料をプリント等で配布する。

学生に対する評価

課題・提出物(50%)、発表内容・授業参加態度(50%)などを総合的に評価する。

履修上の注意

社会人としてのマナーを身につけるため、毎回の授業はスーツで参加すること。 授業内で実習に必要な漢字テストを行うのでしっかりと予習をすること。

国語辞典(電子辞書可)を必ず携帯すること。

真摯な態度で授業に臨むこと。

実務経験の有無 無 実務経験

実務経験を活かした教育内容

**— 1 —** 

保育士必修	幼稚園教諭必修	選択
	単位数:1単位	担当教員名:
	(半期)演習	髙橋努、加藤房江、
		金美珍、持田京子
		担当形態:クラス分け
	保育士必修	単位数:1単位

- 1. 本学での学習、生活を一層充実させるために、自己の目標に向けた学び方を習得し、実践できる。
- 2. 将来、本学の出身者として「気品」「知性」「奉仕」の精神をしっかりと身につけた一人の社会人として活躍することができるよう、生涯にわたる《自分磨き》の方法を学び、実践できる。
- 3. 問題意識を高め、情報収集力と発信力を身につけることができる。

#### 授業の概要

自己の目標に向けた学び方を習得するとともに実践に移せるようにする。また、本学の建学の精神を理解し実体のある行動として表現できるようにする。

#### 授業計画

第1回:学校行事の企画と運営①(純真祭の準備) 第2回:学校行事の企画と運営②(純真祭の準備)

第3回:自分について考える① 自分について話を聞く 第4回:自分について考える② 自分の強みを理解する

第5回: 社会人基礎力を身につける① 第6回: 社会人基礎力を身につける② 第7回: コミュニケーションの図り方

第8回: キャリアデザインとは 第9回: 将来設計図を作成する 第10回: 保育・教育の環境設定① 第11回: 保育・教育の環境設定②

第12回: 「読める・書ける・話せる」ために① 第13回: 「読める・書ける・話せる」ために② 第14回: 「読める・書ける・話せる」ために③

第15回:まとめ 定期試験:レポート

#### 授業時間外の学習

企画・立案・準備(1時間) 企画・立案・準備(1時間) 調査と課題追求(1時間) 関査と課題追求(1時間) ワークシート記入(1時間) 実践とワークシート記入(1時間) 実践とワークシート記入(1時間) ワークシート記入(1時間) ワークシート記入(1時間) ワークシート記入(1時間) 事前調査と体験(1時間) 事前調査と体験(1時間) 課題の準備と復習(1時間) 課題の準備と復習(1時間) 課題の準備と復習(1時間) 課題の準備と復習(1時間)

#### ※毎回行なわれる小テスト勉強

#### 授業の方法

講義とディスカッション、発表。

#### テキスト

特に指定しない。適宜プリント等を配布する。

#### 参考書 · 参考資料等

課題に関する資料をプリント等で配布する。

#### 学生に対する評価

課題・提出物(50%)、発表内容・授業参加態度(50%)などを総合的に評価する。

#### 履修上の注意

社会人としてのマナーを身につけるため、基本的にスーツで参加すること。

毎回、小テストと課題を出すので、予習と復習をすること。

国語辞典(電子辞書可)を必ず携帯すること。

何よりも真摯な態度で授業に臨むこと。

実務経験の有無 無 実務経験

卒業必修	保育士必修	¥	幼稚園教諭必修 選択		選択
授業科目名:			単位数:1単位		
日本語表現 I ナンバリング : 1003			(半期)演習		香織、山畑昭司 形態:クラス分け

- 1. 日本語検定試験に合格する日本語力を身につけることができる。
- 2. 保育者に求められる日本語力についての学びを説明することができる。
- 3. 積極的に参加して課題を遂行するとともに、自己を振り返り、それを学びに生かすことができる。

#### 授業の概要

二年後に保育者となることを想定しながら、どのような日本語力が求められるか考え、それらの実践力を培う。また、日本語検定試験合格を目標に、敬語・漢字・文法・語彙・読解等の学習を行い、日本語の基礎を身につける。

#### 授業計画

第1回:オリエンテーション、保育者に求められる日本語能力

第2回:辞書の使い方(辞書比べ),検定試験について

第3回:日本語検定 過去問にチャレンジ(苦手分野を知る)

第4回:検定試験勉強 ① 苦手分野の基礎を押さえる

第5回:検定試験勉強② テキストを解きながら学習を進める

第6回:検定試験勉強 ③ テキストを解きながら学習を進める

第7回:第一回 日本語検定試験

第8回:日本語検定の振り返り(秋の受検に備えるべきこと)

第9回:レポートの書き方(書き方,注意点) 第10回:手紙の書き方・暑中見舞いの書き方

第11回:美しく丁寧な字の書き方

第12回:暑中見舞いを書く

第13回:敬語

第14回:秋の日本語検定や実習に向けて、自らの課題を考える

第15回:授業の「振り返り」を基に自分の学びをレポートにまとめる

定期試験:筆記

授業の方法 講義と演習を組み合わせながら進める。ディスカッションも行う。

テキスト 『日本語表現Ⅰ(入門編)』日本語検定委員会編 東京書籍

参考書・参考資料等 適宜プリントを配布する。

学生に対する評価 小テスト (20%)、提出物・発表 (20%)、試験 (60%) を判断して評価する。

#### 履修上の注意

- ・主体的に学習に臨むこと。
- ・「学習の記録」の提出を求めるので、毎時間振り返りを行うとともに、自己の学習の足跡として大切に保管しておくこと。
- ・出席と授業参画は当然のことと自覚しておくこと。

実務経験の有無 有 実務経験 細田:元高等学校国語科教諭 山畑:元中学校国語科教諭

#### 実務経験を活かした教育内容

国語科教諭の経験を活かして、学生の実態に合わせた分かりやすい指導で、日本語力の向上を図る。

授業時間外の学習

<毎回1時間程度>

○検定試験に向けた自主学習

○苦手分野の自主学習

○小テスト対策

筆記試験対策

卒業必修	保育士必修	幼稚園教諭必修		Ş	選択
授業科目名: 日本語表現Ⅱ			単位数:1単位 (半期) 演習		教員名: 香織、山畑昭司
ナンバリング:1004					形態:クラス分け

- 1. 「話す」「聞く」「書く」「読む」を中心に、保育にかかわる実践的な日本語力を身につけ ることができる。
- 2. 実習日誌の書き方や基本的事項について、日本語表現の観点からも確認しながら書くことが できる。
- 3. 日本語検定試験(目標級)に合格できる。

#### 授業の概要

保育者に求められる「他者が読んで分かりやすい文章の書き方」や、発声・発音の仕方等に ついて演習し、様々な観点から保育者に求められる日本語力を高める。実習日誌の書き方の基 本を日本語表現の観点からも確認する。また、秋に行われる「日本語検定試験」に合格する力 を養う。

#### 授業計画

第1回:保育者の発声と自己紹介の方法,自己紹介実践

第2回:前期の幼稚園実習日誌を用いた学習(グループで、間違えた | <毎回1時間程度>

漢字の取り出し、直された部分の交流と学び合い)

第3回:絵本の読み聞かせについて

第4回:実習日誌の意義と書く時の注意点

第5回:他者の書いた実習日誌から学ぶ(グループワーク)

第6回:施設実習を想定した実習日誌の書き方のポイント

第7回: 伝わりやすい文章の書き方とは

第8回:意見文の読み比べを通して、伝わる文章のポイントを知る

第9回:テーマを選択し、文章を書く 第10回:文章の推敲を行い、清書する

第11回:文章を読み合い、良い点と直すとよりよくなる点について

互いに考え、交流する

第12回:現場で敬語を使う場面を想定したロールプレイ

第13回:俳句・短歌・詩の創作

第14回:俳句・短歌の歌合わせ会 創作についてのレポート 第15回:これまでの授業の「振り返り」をレポートにまとめる

定期試験:筆記

#### 授業の方法

講義と演習を組み合わせながら進める。グループワークを取り入れることもある。 毎回の提出プリントは確認ののち、赤ペンを入れて返却する。

『日本語表現 I (入門編) 』日本語検定委員会編 東京書籍 テキスト

#### 参考書・参考資料等

適宜プリントを配布する。

#### 学生に対する評価

提出物(小テスト含む)・発表(40%)、試験(60%)を判断して評価する。

#### 履修上の注意

- ・主体的に学習に臨むこと。
- ・授業の最初に2人ずつ相互読み聞かせを行う。当たっている学生は必ず下読みをして準備す
- ・「学習の記録」の提出を求めるので、毎時間振り返りを行うとともに、自己の学習の足跡とし て大切に保管しておくこと。

実務経験の有無 実務経験 細田:元高等学校国語科教諭 山畑:元中学校国語科教諭

#### 実務経験を活かした教育内容

国語科教諭の経験を活かして、学生の実態に合わせた分かりやすい指導で、日本語力の向上を図る。

#### 授業時間外の学習

○検定試験に向けた自主学習

○要約文を作る

保育士必修	幼稚園教諭必修 選択		
	単位数:2単位 担	当教員名:池田夏葉	
	(半期) 講義 担	当形態:単独	
	保育士必修		

- 1. 心理学の基礎知識を身につけることができる。
- 2. 心理学の基本的な諸概念を理解できる。
- 3. 物事を多面的に理解しようとする姿勢を身につけることができる。

#### 授業の概要

心理学の分野は広く多岐に渡っているが、それぞれの分野のエッセンスを紹介する。

#### 授業計画

第1回:オリエンテーション

第2回:心理学史と概説

第3回:脳と生理心理学

第4回:感覚と知覚

第5回:認知心理学

第6回:情動・小テスト

第7回:発達①

第8回:発達②

第9回:発達③

第10回:学習と教育

第11回:社会と集団

第12回:人格と精神疾患

第13回: 臨床心理・小テスト

第14回:知能と心理検査

第15回:まとめ 定期試験:筆記

#### 授業時間外の学習

- ・心理学史について教科書や 参考文献からまとめる。
- ・脳のしくみについて教科書からわかったことをまとめる。
- ・感覚や知覚に関する実験に ついて調べ、まとめる。
- ・子どもの身体運動能力、認 知、言葉の発達について調 べてまとめる。
- ・学習理論について教科書から概要をまとめる。
- ・臨床心理学について教科書 から興味を持った内容につ いて概要をまとめる。
- ・授業後には配布したプリントや教科書、参考文献を読み、それぞれの分野の理解を深めること。
- ・授業の予習・復習には1~2 時間程度の時間が必要であ

授業の方法 講義。毎回授業の最後に小レポートを書く。その内容を次の授業でフィードバックする。 テキスト

『たのしく学べる乳幼児の心理. 改訂版』 櫻井茂男, 岩立京子編著 福村出版

#### 参考書 • 参考資料等

授業でプリントを配布する。また、参考書や参考資料は適宜授業中に紹介する。

#### 学生に対する評価

定期試験の成績(40%)、小テスト(30%)、小レポート(15%)及び受講態度等(15%)

#### 履修上の注意

実務経験の有無 有 実務経験 病院・クリニック勤務(公認心理師、臨床心理士)

#### 実務経験を活かした教育内容

子どもの心理臨床の経験を活かし、具体的な事例を紹介できるよう授業を行う。

卒業必修	保育士必修	幼稚園教諭必修 選択	
授業科目名:	保育士資格取得のため	の 単位数:2単位 担当教員名:伊藤道雄	
ボランティア概論	選択科目	(半期) 講義 担当形態: 単独	
ナンバリング:1006			
系 列	教養科目		
教科目	外国語、体育以外の科目		

- 1. 自ら課題を選択する生き方がボランティア活動であることを知り、進んで実践できる。
- 2. 阪神淡路大震災以来広まったボランティア活動の意義やかかわる者の生き方を理解できる。
- 3. ボランティア活動を行うために、調べ、計画、実施、成果・反省を行い、他者に自らの成果を説明できる。

#### 授業の概要

ボランティアの意義や歴史、種類(領域)、課題等の基本的な事柄を学び、自ら課題を見つけ、調べ、まとめ、発表する活動を行い、ボランティア活動を理解する。

#### 授業計画

第1回:オリエンテーション、ボランティア活動の実施状況調査

第2回:ボランティア活動とは、ボランティア活動の動機

第3回:ボランティア活動の理念・思想

第4回:ボランティア活動の意義

第5回:歴史の中に出現するボランティア(戦前)

第6回:戦争とは何か

第7回: 歴史の中に出現するボランティア (戦後)

第8回:人はなぜボランティアをするのか(動因・モチベーション)

第9回:「公共」はだれが担うのか(コミュニティ活動)

第10回:法人とボランティア団体

第11回:情報がネットワーク社会とボランティア

第12回:地域の課題を発見する

第13回:市民の視点からの解決を探る

第14回:教育・福祉とボランティア

第15回:災害とボランティア

定期試験:筆記

#### 授業時間外の学習

- 今までの自分のボランティア 活動をまとめる。(1時間)
- 2. 自分の動機を振り返りまとめ る。 (1 時間)
- 思想家や宗教とボランティアの関係を調べる。(1時間)
- 5. 祖父母等に戦争体験を聞く。

(1時間)

7. ボランティア活動のモチベー ションを推察する。

(1時間)

10. NPO 法人を予め調べる。

(1時間)

- 11. 情報社会のボランティア活動の内容調べ (1時間)
- 12. 地域の課題調べ (1時間)
- 14. 教育・福祉の活動内容を 調べ。 (1時間)

15. これまでの学習内容を

まとめる。 (1時間)

※数字は授業回を表す

授業の方法 基礎的な項目は、テキストを中心に進め、その後調べ学習・発表形式で進める。

#### テキスト

『学生のためのボランティア論』 岡本栄一・菅井直也・妻鹿ふみ子 社会福祉法人大阪ボランティア協会

#### 参考書・参考資料等 適宜紹介

#### 学生に対する評価

定期試験の成績(50%)、提出物(40%)、受講態度等(10%)で評価する。

#### 履修上の注意

選択教科でもあり、積極的に学習しようとする者・実際のボランティア活動を希望しようとする者を 望む。

実務経験の有無 無 実務経験

卒業必修	保育士必修	幼稚園教諭必修選択
授業科目名:	保育士資格取得のため	かの 単位数:1単位 担当教員名:伊藤道雄
ボランティア実習	選択科目	(半期) 実習 担当形態: 単独
ナンバリング:1007		
系 列	教養科目	
教科目	外国語、体育以外の	

- 1. ボランティアとは何かを知り、なぜするのか、どのようにするのか、そのための具体的な取り組みはどのように行うのか(活動の立案、安全な実施、終了後の自己評価、次への改善)を実際のボランティア活動を通して理解できる。
- 2. 実際のボランティア活動を行う中から、自らのボランティア観を立案し、ボランティアを自ら選択する生き方が理解できる。
- 3. 実際に行ったボランティア活動の概要、活動の意義や自らの生き方等を授業の中で説明できる。

#### 授業の概要

実際に実施したボランティア活動の発表・討議を中心に授業を構成する。また、特別支援学校の活動に参加し、ボランティア活動を体験・実施する。

#### 授業計画

第1回:どのようなボランティア活動があるかを知る。

第2回:実施する団体を調べ、「参加許可→報告」の書類を理解する。

第3回:団体の状況を調べ、何を目的に行うかを明らかにする。

第4回:ボランティア活動の状況を調べ、園を理解し、特徴を知る。

第5回:ボランティア活動の状況を調べ、ボランティアの使命を知る。

第6回:ボランティア活動の状況を調べ、課題を理解し、問題点を知る。 第7回:実施したボランティア活動を整理し、成果をまとめ発表する。

第8回:実施したボランティア活動を整理し、成果をまとめ発表する。

第9回:実施したボランティア活動を整理し、成果をまとめ発表する。

第10回:特別支援学校等の視察を行いボランティア活動の配慮を知る。

第11回:特別支援学校等の視察を行いボランティア活動の配慮を知る。

第12回:地域の課題の発見からボランティア活動の発見を探る。

第13回:障害のある人とボランティア活動を考える。

第14回:災害ボランティアを考える。

第15回:海外のボランティア活動を考える。

定期試験:レポート・意見発表

#### 授業時間外の学習

- 短大の掲示板やインターネットでさがす。(1時間)
- |3. 市役所(役場)に聞いたり、

ネットで調べる。(1時間)

- 4. 団体等とアポをとる(1時間)
- 6. 必要な用紙の準備(1時間間)
- | 7. 図書館・ネット調べ(1 時間)
- 8. 用紙に書けるところをあらかじめ埋めておく。(1時間)
- 13. お礼を兼ねて団体に出向いて証明を受ける。 (1時間) 実施後「活動の記録(1)(2)」を作成・提出する。 (30分) 「ボランティア活動の記録に実施団体の証明を受ける。 (30分)

※数字は授業回を表す

#### 授業の方法

講義形式の授業は実施しない。教員から指導を受けて実施するボランティア活動をさがし、事前に所定の「ボランティア参加許可願」を提出する。ボランティアを実施する過程で「活動の記録(1)(2)」を作成し、実施後提出する。

#### テキスト なし

参考書・参考資料等 プリント等随時紹介する。

#### 学生に対する評価

活動内容の記録・意見発表(40%)、調べ学習発表(40%)、学習態度等(20%)による。

#### 履修上の注意

ボランティア実習を履修する学生は、「ボランティア概論」の履修の単位取得が必須条件である。 24時間のボランティア活動が期限までに終了出来ないときは不合格となるので、定期試験の時期を考慮 して、計画的にできるだけ早い時期の実施に留意する。

実務経験の有無 無 実務経験

卒業必修	保育士必修	保育士必修 :		5	選択	
授業科目名:	保育士資格取得のため	(D)	単位数:1単位	担当	教員名:今西理枝子	
手話	選択科目		(半期) 演習	担当形態:単独		
ナンバリング:1008						
科目	教養科目					
教科目	外国語、体育以外の	)科目	1			

- 1. 手話で会話ができる。
- 2. 聴覚障害者を理解できる。
- 3. 聴覚障害者を理解できる。

#### 授業の概要

視覚的にものをとらえる工夫や様々な手段を使い伝えることを学び手話の基本を身につける。

#### 授業計画

第1回:自己紹介をしてみよう I

第2回:自己紹介をしてみようⅡ

第3回: あいさつをしてみよう

第4回:手話がわからなかった時

第5回:数字や時間の表現を覚えよう

第6回:趣味のことを話そう

第7回: 行きたい場所の表現方法を覚えよう

第8回:特別講義「聴覚障害者の生活

第9回:病気やけがで困ったとき

第10回:天気と乗り物の表現を覚えよう

第11回:買い物とお金の表現を覚えよう

第12回:ろう者の生活を知ろう

第13回:災害に関する手話を学ぼう

第14回:反対語を覚えよう

第15回: 今まで学んだ手話を活かして話してみよう

定期試験:読み取り・筆記

#### 授業時間外の学習

復習には1時間程度の時間 が必要である。

事前に自己紹介やあいさつ の内容を考えておく。授業後 は練習をする。

事前に自分の趣味や行きたい場所について考えておく。 授業後は練習をする。

特別講義を踏まえて、聴覚 障がい者の生活の実態につい て気になることを調べる。

天気、乗り物、買い物、お 金の表現について練習する。

災害が起こった時に聴こえない人たちとの関わりかたについて学ぶ。

これまでに習った手話を思い起こし、話す練習をする。

准看護学校指導、埼玉県通訳養成講習会講師

#### 授業の方法 手話演習

#### テキスト

『今すぐはじめる手話テキスト「聴さんと学ぼう!」』 一般財団法人全日本ろうあ連盟

#### 参考書・参考資料等

『私たちの手話』 一般財団法人全日本ろうあ連盟

実務経験

#### 学生に対する評価

定期試験の成績(80%)及び受講態度等(20%)を判断して評価する。

#### 履修上の注意

実務経験の有無

①手話は目で見る言語です。私語を慎み、講師の手の動き、顔の表情に集中して授業を受けること。 ②授業中は、頭の中にある日本語の文法や音声を忘れ、手話を手話のまま受け止めることに集中する

③「わかる/わからない」といった意思表示は、目で見える形ではっきり示すこと。

実務経験を活かした教育内容

有

通訳養成等の講師経験を活かし聴こえない人とのコミュニケーションができるよう様に指導する。

卒業必修		保育士必修		幼稚園教諭必修	;	選択
授業科目名:	保	育士資格取得のための	り	単位数:2単位	担当	教員名:
暮らしと環境		選択科目		(半期) 講義	平井	厚志、金子智昭
ナンバリング:1009					担当	形態:複数
科目	1100	教養科目				
教科目	2	外国語、体育以外の科目				

- 1. 現代社会の暮らしや我々を取り巻く環境について探求し、その歴史的意義を理解できる。
- 2. 地域社会に根づく暮らしや環境が子どもの育ちに与える影響を理解できる。
- 3. 講義や学外授業で得た知見を発表し、自らの考えを説明することができる。

#### 授業の概要

我々を取り巻く暮らしや環境について、学外授業などを通して具体的に理解し、とりわけ子 どもの育ちに及ぼす影響という観点から考察を深めていく。

#### 授業計画

第1回:現代の日本の暮らしと環境について

第2回:学外授業の概要と個人テーマの設定

第3回:個人テーマに関する調べ学習(1)

第4回:個人テーマに関する調べ学習(2)

第5回:発表資料の作成

第6回:中間発表

第7回:学外授業(1)

第8回: 学外授業(2)

第9回:学外授業(3)

第10回: 学外授業 (4)

第11回: 学外授業 (5)

第12回: 学外授業 (6)

第13回: 学外授業のまとめ

第14回:発表資料の作成

第15回:発表 教員からの講評

定期試験:レポート

#### 授業時間外の学習

自分の興味関心のある暮らしと環境に関する諸問題について、新聞、雑誌、インターネットなどの情報を活用しながら調べ、資料を収集する。また、中間発表に向けて、発表資料を作成する。(予習・復習に1~2時間程度の時間が必要である)

学外授業(第7回~第12回)では、その都度、授業を通して学んだことをノートにまとめる。(1日1時間程度の時間が必要である)

学外授業のまとめの発表に向けて、グループで発表資料を作成する。また、これまでの授業を振り返り、レポートにまとめる。(予習・復習に1~2時間程度の時間が必要である)

授業の方法 講義、学外授業、グループ発表を行う。レポートにはコメントを記入して返却する。

#### テキスト

適宜プリントを配布する。

#### 参考書・参考資料等

講義の中で紹介する。

#### 学生に対する評価

レポート(60%)、発表(20%)、受講態度(20%)を判断して評価する。

#### 履修上の注意

本授業は、6月末(予定)に学外授業を行う。そのため、授業の履修は、上記の学外授業に参加できることが条件である。学外授業の詳細は、年度初めのオリエンテーションの際に説明する。

実務経験の有無 無 実務経験

卒業必修	保育士必修	幼稚園教諭必修選択
授業科目名:	保育士資格取得のため	のの 単位数:2単位 担当教員名:藤田利久
ふるさと学	選択科目	(半期) 講義 担当形態:単独
ナンバリング:1010		
系 列	教養科目	
教科目	外国語、体育以外の	

- 1. 郷土に関心を持ち、郷土を知る方法を身につけることができる。
- 2. 郷土を資料などで調べる態度を身につけることができる。
- 3. 郷土の識者に話を積極的に聴く態度を身につけることができる。
- 4. 郷土を自らで積極的に体験する態度を身につけることができる。

#### 授業の概要

"Think global, act local" や "Think globally act locally" という標語をよく目にする。近代日本を築いた明治の偉人はまさにこれを実行した人々だと考えられる。みなさんが子どもたちに保育を通して人間教育をする場合に、この考え方は重要な要素のひとつだと言えよう。授業ではみなさんの生活基盤である郷土を見て、聴いて、知って、考え、伝えることを通して、身近な郷土を愛することの重要性を学び、行動できるようにしていく。

#### 授業計画

第1回:オリエンテーション(授業の進め方と学生との約束事確認)

第2回:故郷を学ぶことの必要性と意義

第3回:羽生の歴史と人物(羽生という町、歴史と文化と人物)

第4回:グループ討議・まとめと発表

第5回:行田の歴史と人物(行田という町、歴史と文化と人物)

第6回:グループ討議・まとめと発表

第7回:加須の歴史と人物(加須という町、歴史と文化と人物)

第8回:グループ討議・まとめと発表

第9回:熊谷・深谷の歴史と人物(熊谷・深谷の歴史と文化と人物)

第10回:グループ討議・まとめと発表

第11回:見学・現地講義<神社・仏閣・記念館・その他の施設等>①

第12回:見学・現地講義<神社・仏閣・記念館・その他の施設等>②

第13回:見学・現地講義<神社・仏閣・記念館・その他の施設等>③

第14回: 見学・現地講義<神社・仏閣・記念館・その他の施設等>④

第15回:見学・現地講義<神社・仏閣・記念館・その他の施設等>⑤ 持参して記録するとともに、事前に

定期試験:筆記、レポート

#### 授業時間外の学習

#### (毎回 90 分程度)

この授業では、外部から講師を招いて行うので、事前学習は必須となる。

次週の講演予定者の地域・ 分野 についての調べ、A4用紙(PCで 作成)で提出をすること。

施設見学や現地での講義では、必ずメモを取り、学習したことをまとめること。

見学当日は、メモ帳・カメラ等を 持参して記録するとともに、事前に 質問事項を用意しておくこと。

#### 授業の方法

地域の方々を講師として招いての講座や施設見学などの活動を中心に行う。このため、講義の順が変更となったり、集中講義(学生と相談の上)とする場合もある。

テキスト 『地域学の可能性』 彩の国さいたまひとづくり広域連合

参考書・参考資料等 その都度、紹介する。

#### 学生に対する評価

授業参画度(50%)、小レポート(30%)、最終レポート(20%)などを総合的に判断して評価する。

#### 履修上の注意

この授業は自分の目で見て、耳で聴いて、体験的に学び、確かめることが多くなるので、事前に学生 と話し合いながら見学などの予定を決め、場合によっては集中講義となる。そのため、交通費や見学料 などの自己負担分が発生する場合もある。

|実務経験の有無 | 無 | 実務経験

卒業必修	保育士必修	幼稚園教諭必修 選択
授業科目名:		単位数:2単位 担当教員名:高乗正臣
日本国憲法		(半期) 講義 担当形態: 単独
ナンバリング:1011		

- 1. 日本国憲法が採用する立憲主義の考え方を理解できる。
- 2. 日本国憲法の基本原理を理解し、物事を法的・論理的に考える力(legal mind)を修得できる。
- 3. 人権の意味と性質、人権保障の基本原則とその制約原理について説明できる。

#### 授業の概要

権力制限規範としての憲法の意義について説明し、日本国憲法の基本原理、特に保育者として 理解しておくべき人権保障の意義と限界について具体的事例を題材にして解説する。

#### 授業計画

第1回:法学の基礎―法とは何か、法の目的、法と道徳

第2回:憲法の基礎一わが国の法のしくみ、法の段階構造

第3回:人権とは何か―人権の種類と性質、人権の制約原理

第4回:外国人の人権一参政権、政治活動の自由、公務就任権

第5回:子ども・未成年者の人権一子どもの権利条約

第6回:保育をめぐる法律問題(1)—保育判例(1)(2)

第7回:新しい人権―プライバシーの権利、自己決定権、判例解説

第8回:私人間の人権保障―私的自治の原則と公序良俗、判例解説

第9回:法の下の平等—相対的平等と合理的差別、判例解説

第10回:自由に考え、表現する自由―表現の自由の意義とその限界

第11回:最低限度の生活を営む権利─生存権の性質、判例解説

第12回:教育を受ける権利—権利の性質、教育権の所在

第13回:保育をめぐる法律問題(2)—保育判例③④

第14回:統治のしくみ(1)―国会、内閣の地位と権能

第15回:統治のしくみ(2)—裁判所、司法権の範囲と限界

定期試験:筆記

#### 授業時間外の学習

事前にテキストを熟読しておくことは勿論、新聞、雑誌、テレビ、インターネットなどを通して、次回の授業のテーマとなる問題について資料を集め、自分の見解や疑問点を整理しておくこと。

予習には2時間程度の時間が 必要である。

授業の後、保育者として人権 問題について憲法の視点から意 見を述べられるようノートを整 理しておくこと。復習には1時 間程度の時間が必要である。

保育・教育に携わる者として 憲法の意味を考え、自分の意見 を述べられるよう準備しておく こと。

授業の方法 原則として毎回授業で取り上げたテーマに関する「小テスト」を実施する。重要なテーマについては「レポート」を課し、次回の授業の際に提出を求める。これらにはコメントを記して返却する。

#### テキスト 『保育者のための法学・憲法入門』 高乗正臣 成文堂

#### 参考書 • 参考資料等

適宜指示する。必要に応じて、プリント、資料を配付する。授業では、受講者全員に「学習用の小型六法」を貸与する。

#### 学生に対する評価

授業中の質疑応答・発言(20%)、小テスト・レポート(30%)、定期試験の成績(50%)を判断して評価する。

#### 履修上の注意

常に将来保育者になるという意識を持って授業に取り組み、積極的に発言すること。質問については、 メールで受けつける。

実務経験の有無 無 実務経験

卒業必修	保育士必修	幼稚園教諭必修	選択
授業科目名: 英語コミュニケーシ		単位数:1単位 (半期)演習	担当教員名: 岡島勇太、小野安昭
ョン I ナンバリング: 1012			担当形態:クラス分け

- 1. 自分の考えを簡素な英語表現を用いて伝える力を身につけることができる。
- 2. 保育現場で必要となる基本的な英語を聞き取って相手の言う事が理解できる。
- 3. 保育現場で必要な事柄を基礎的な英語で説明できる。

#### 授業の概要

保育の現場において、海外出身の保護者や園児と英語によるコミュニケーションをとる必要性が増している。その状況を踏まえ、保育現場に必要な基礎的な英語を学習する。

性が増している。その状況を踏まえ、保育現場に必要な基礎的な英語を学習する。						
授業計画	授業時間外の学習					
第1回: Orientation オリエンテーション (授業の説明等)	授業前は、1時間程度の予習					
第2回:Unit 1 First Step to Childcare English①	が必要である。各 Unit の英文					
第3回:Unit 1 First Step to Childcare English②	の音声を繰り返し聞き、英文					
第4回: Unit 2 Welcome to Minato Nursery School! ①	を音読し、わからない単語を					
第5回: Unit 2 Welcome to Minato Nursery School! ②	調べておくこと。					
第6回: Unit 3 Time and Numbers①						
第7回: Unit 3 Time and Numbers②						
第8回: Unit 4 Directions①	授業後は、1時間程度の復習					
第9回: Unit 4 Directions②	が必要である。各 Unit の講義					
第10回: Unit 5 Davy Meets His Classmate Takashi①	内容を復習すること。また、					
第11回: Unit 5 Davy Meets His Classmate Takashi②	英文の聞き取りと、音読を行					
第12回:Unit 6 Dropping Davy Off and Picking Him Up①	うこと。					
第13回:Unit 6 Dropping Davy Off and Picking Him Up②						
第14回: Unit 7 Jobs at Nursery School①						
第15回: Unit 7 Jobs at Nursery School②						
L. Comp. No. 1. Comp.						

授業の方法 基礎知識の講義、練習問題や発音練習の演習、英会話のペアワークなど。

テキスト 『保育の英会話 Childcare English』 赤松直子、久富陽子 萌文書林

参考書・参考資料等 適宜指示する。

#### 学生に対する評価

定期試験:筆記

小テストの成績(30%)、定期試験の成績(50%)、受講態度等(20%)を判断して評価する。

#### 履修上の注意

指定教科書、辞書を毎回持ってくること。授業前に教科書の英文の音声を繰り返し聞き、英文を音読 し、わからない単語は意味を調べておくこと。やむを得ない理由が無い限りは毎回授業に出席し、積極 的な姿勢で参加すること。

実務経験の有無 有 実務経験 小野:元チュニジア特命全権大使

実務経験を活かした教育内容

小野:海外駐在経験を活かし、学生の英語によるコミュニケーション能力を伸ばせるよう授業を行う。

卒業必修	保育士必修	幼稚園教諭必修		選択
授業科目名:		単位数:1単位	担当	教員名:
英語コミュニケーシ		(半期) 演習	岡島	勇太、小野安昭
ョンⅡ			担当	形態:クラス分け
ナンバリング:1013				

- 1. 自分の考えを簡素な英語表現で相手に過不足なく伝える力を身につけることができる。
- 2. 保育現場で必要となる基本的な英語を聞き取って相手の言う事がしっかりと理解できる。
- 3. 保育現場で必要な事柄を基礎的な英語で正確に説明できる。

#### 授業の概要

英語コミュニケーションIで身につけた基本的な英語を聞き取れる力や、自分の考えを簡素

#### な英語表現を用いて伝える力を発展させる学習をする。 授業時間外の学習 授業計画 第1回: Orientation オリエンテーション (授業の説明等) 授業前は、1時間程度の予 第2回: Unit 8 Lunchtime① 習が必要である。各 Unit の英 第3回: Unit 8 Lunchtime②

第4回: Unit 9 Toilet Dialog① 第5回: Unit 9 Toilet Dialog②

第6回: Unit 10 Fighting① 第7回: Unit 10 Fighting②

第8回: Unit 11 Injuries and Illnesses①

第9回: Unit 11 Injuries and Illnesses②

第10回: Unit 12 Telephone Calls① 第11回: Unit 12 Telephone Calls②

第12回:Unit 13 Field Trip① 第13回: Unit 13 Field Trip② 第14回: Unit 14 Baby Care

第15回: Unit 15 Graduation Day

定期試験:筆記

文の音声を繰り返し聞き、英 文を音読し、わからない単語 を調べておくこと。

授業後は、1時間程度の復 習が必要である。各 Unit の講 義内容を復習すること。また、 英文の聞き取りと、音読を行 うこと。

授業の方法 基礎知識の講義、練習問題や発音練習の演習、英会話のペアワークなど。

テキスト 『保育の英会話 Childcare English』 赤松直子、久富陽子 萌文書林

参考書・参考資料等 適宜指示する。

#### 学生に対する評価

小テストの成績 (30%) 、定期試験の成績 (50%) 、受講態度等 (20%) を判断して評価する。

#### 履修上の注意

指定教科書、辞書を毎回持ってくること。授業前に教科書の英文の音声を繰り返し聞き、英文を音読 し、わからない単語は意味を調べておくこと。やむを得ない理由が無い限りは毎回授業に出席し、積極 的な姿勢で参加すること。

実務経験の有無 有 実務経験 小野:元チュニジア特命全権大使

実務経験を活かした教育内容

小野:海外駐在経験を活かし、学生の英語によるコミュニケーション能力を伸ばせるよう授業を行う。

卒業必修		保育士必修		幼稚園教諭必修	17.5	選択
授業科目名:	教	員の免許状/保育士賞	格	単位数:2単位	担当	教員名:小松和弘
コンピュータ基礎演習I	取	取得のための必修科目		(半期) 演習	担当形態:単独	
ナンバリング:1014						
科 目/系 列		/教養科目				
施行規則に定める		/外国語、体育以外	トの利	4目		
科目区分又は事項等						
/教科目						

- 1. 保育園・幼稚園で最低限必要となる I Tスキルを習得できる。
- 2. 保育園、幼稚園で使用される、一般的な文書を作成できる。
- 3. 携帯端末を活用した、データのやり取り方法を習得できる。

#### 授業の概要

Word、Excelの基本操作を学び、スマートフォンの広義な扱いやデータの取り扱い、また文書の作成を修得する。

#### 授業計画

第1回:ガイダンス、授業で使う各種環境設定

第2回:Webメールの基本、携帯でのメール確認、Word:基本操作

第3回:検索サイトのさまざまな検索方法、Word:表組み

第4回:自己紹介シートの作成、Word:画像の扱い

第5回:Word:地図の作成(図形の調整等)、ショートカットキー

第6回: Excel: 基本操作、簡単な関数

第7回: Excel: 基本的な表・グラフ

第8回: Word: テンプレートを使った文書の作成

第9回: Word: 修飾文字の作成、表組に合わせた文書作成

第10回:Word:フォーマル、招待文書の作成

第11回:総合的なドキュメントの作成:基本

第12回:総合的なドキュメントの作成:応用1

第13回:総合的なドキュメントの作成:応用2

第14回:これまでのまとめ

第15回:発表、作品内容の確認

定期試験:実技、レポート

#### 授業の方法 演習、講義。

#### テキスト なし

#### 参考書·参考資料等 随時配付

#### 学生に対する評価

授業態度(50%)、発表(30%)、課題(20%)などを判断して評価する。

#### 履修上の注意

実務経験の有無

授業時間中にその場で授業の理解度を把握するための支援システムを使用している。

授業は演習が中心となるので目的意識を持って主体的に参加すること。技術を高めるためにも日々の 練習が重要である。特に事前・事後における学習は必ず行うこと。

企業等へのIT研修実施

実務経験を活かした教育内容

有

企業研修の経験を活かし、実社会で活用できるよう授業を行う。

実務経験

#### 授業時間外の学習

#### ■予習

Webメール、携帯でのメール確認、Wordの基本操作、表組み、画像の扱い、Excelの基本操作、関数、表・グラフの作成方法、Wordの文書作成、装飾文字の作成、招待文書の作成方法などについて予習。 →各回1時間程度

#### ■復習

各回、終了後に学習した内容 を再度確認する。

→各回1時間程度

卒業必修	保育士必修	幼稚園教諭必修選択			
授業科目名:	保育士資格取得のため	の 単位数:2単位 担当教員名:小松和弘			
コンピュータ基礎演習Ⅱ	選択科目	(半期)演習 担当形態:単独			
ナンバリング:1015					
系 列	教養科目				
教科目	外国語、体育以外0	外国語、体育以外の科目			

- 1. 保育園・幼稚園・一般企業に就職した際、すぐに実践できる書類の作成技術を習得できる。
- 2. プレゼンテーションソフトを使った発表資料を作成できる。
- 3. 情報発信を目的としたホームページを作成できる。

#### |授業の概要

書類作成のコツ、様式、写真・画像操作の応用。基本的なプレゼンテーション方法の習得。

#### 授業計画

第1回:書類作成(基本の復習)、バックアップ環境の再構築

第2回:書類作成(実践)、Excel:簡単な関数、サイト全体設計

第3回:書類作成(実践)、ホームページ作成(文字、装飾)

第4回:書類作成(実践)、ホームページ作成(ページ、画像の扱い)

第5回:書類作成(実践)、ホームページ作成(リンク)

第6回:ホームページ作成(コンテンツ1)

第7回:ホームページ作成(コンテンツ2)

第8回:ホームページ作成(コンテンツ3)

第9回:PowerPoint:基本操作、ホームページ作成①(コンテンツ)

第10回: PowerPoint:装飾・画像、ホームページ作成② (まとめ)

第11回: PowerPoint:動きのある表現、ホームページ作成③

第12回: PowerPoint: 全体作成、ホームページ作成④

第13回: PowerPoint作成①、ホームページ作成⑤

第14回: PowerPoint作成②、ホームページ作成⑥

第15回: PowerPointの発表

定期試験 実技、レポート

#### 授業の方法 演習、講義。

#### テキスト なし

#### 参考書・参考資料等 随時配付

#### 学生に対する評価

授業態度(50%)、発表(30%)、課題(20%)などを判断して評価する。

#### 履修上の注意

授業時間中にその場で授業の理解度を把握するための支援システムを使用している。

授業は演習が中心となるので目的意識を持って主体的に参加すること。技術を高めるためにも日々の練習が重要である。特に事前・事後における学習は必ず行うこと。

実務経験の有無 有 実務経験 企業等へのIT研修実施

#### 実務経験を活かした教育内容

企業研修の経験を活かし、実社会で活用できるよう授業を行う。

#### 授業時間外の学習

#### ■予習

Word の操作、文書作成、Excel の操作法などについて予習。

→各回1時間程度

#### ■復習

各回、終了後に学習した内容 を再度確認する。

→各回1時間程度

卒業必修	保育士必修	幼稚園教諭必修 選択
授業科目名:		単位数:1単位 担当教員名:金美珍
生涯スポーツ・レクリ		(半期) 実技 担当形態: 単独
エーション・I		
ナンバリング:1016		

- 1. 各スポーツ種目における基本的技術を身につけ、試合におけるルールを知ることができる。
- 2. 仲間と協力しながら各スポーツ種目を行える主体性を身につけることができる。
- 3. スポーツの楽しさを授業で味わい、主体的に生涯スポーツに取り組むことができる。

#### 授業の概要

健康の維持ならびに体力向上のため必要な運動に対する積極的な態度を身につけると共に、 生涯にわたって運動やスポーツを自ら実践することができる能力を身に付けることを目的とする。

#### 授業計画

第1回:オリエンテーション

第2回:体力・形態測定及び評価

第3回:レクリエーションゲーム①

第4回:バレーボール①基本練習

第5回:バレーボール②応用練習

第6回:バレーボール③チームゲーム

第7回:ウォーキングとその効果について

第8回:バドミントン①基本練習

第9回:バドミントン②シングルスゲーム

第10回:バドミントン③ダブルスゲーム

第11回:フォークダンス

第12回:卓球①基本練習

第13回:卓球②ダブルスのリーグ戦方式のゲームム

第14回:卓球③ダブルスのリーグ戦方式のゲーム

第15回:レクリエーションゲーム②

定期試験:レポート

#### 授業時間外の学習

- ・バレーボールの試合を観戦 したり、参加するなど、積 極的にバレーボールに携わ ること。(1 時間)
- ・事前に、卓球のシングルス・ ダブルスのゲームの仕方を 学んでおくこと。 (1 時間)
- ・毎回習得する技術・戦術に ついて調べ、振り返る。ま た、バドミントン、卓球の ルールについて調べる。 (1時間)
- ・ストレッチ運動を続けるこ と。 (1時間)

#### 授業の方法 体育館での実技、グループ対戦

テキスト なし(必要な資料を適宜配布する)

#### 参考書 · 参考資料等

授業内で適宜紹介する。

#### 学生に対する評価

授業態度・参画度(60%)、授業記録ノートの提出(30%)、期末レポート(10%)を判断して評価する。

#### 履修上の注意

- ・運動が上手い・下手よりも運動を楽しもうとする前向きな姿勢で授業に臨むこと。
- ・必ず大学指定のジャージと運動シューズで出席すること。

実務経験の有無 無 実務経験

卒業必修		保育士必修		幼稚園教諭必修	Ş	選択
授業科目名:	教	員の免許状/保育士資	格	単位数:1単位	担当	教員名:平井厚志
生涯スポーツ・レクリ	I	取得のための選択科目		(半期) 実技	担当	形態:単独
エーション・Ⅱ						
ナンバリング:1017						
科 目/系列		/教養科目				
施行規則に定める		/外国語、体育以外	- の 和			
科目区分又は事項等						
<b>/</b> 教科目						

- 1. 各スポーツ・レクリエーションの種目を理解し、基本的スキルを身につけることができる。
- 2. 各スポーツ・レクリエーションの種目を、生涯に渡り実践する力を身につけることができる。
- 3. スポーツ・レクリエーションの種目を幼児へ指導する能力を身につけることができる。

#### 授業の概要

学生一人ひとりが健康の保持増進と生涯スポーツに親しむことができるように、スポーツ・レクリエーションの実践を通して、体力の向上と技術獲得を目指す。合わせて関連する種目について、幼児の運動遊びの指導法を学ぶ。

#### 授業計画

第1回:オリエンテーション

第2回:バスケットボール①基本練習

第3回:バスケットボール②応用練習

第4回:バスケットボール③ゲーム

第5回:器械運動・運動遊び(マット運動・跳び箱) ①

第6回:器械運動・運動遊び(マット運動・跳び箱) ②

第7回:フライングディスク①基本練習

第8回:フライングディスク②ゲーム(ディスクゴルフ)

第9回: フライングディスク③ゲーム(アルティメット)

第10回:フットサル①基本練習

第11回:フットサル②ゲーム

第12回:フットサル③ゲーム

第13回:ユニホッケー①

第14回:ユニホッケー②

第15回:球技 定期試験:レポート

#### 授業時間外の学習

- 種目の特性・ルール・技術・ 戦術について web 等で 調べ ておく。(合計 7 時間程度)
- ・子どもの身体的特徴・運動 技能の獲得段階を他教科と 関連して学んでおく。

(そのつど専門教科学習後)

・スポーツ・レクリエーションの種目と幼児の運動遊びの関連を理解し、指導方法について調べ学習を行う。 (合計8時間程度)

授業の方法 体育館での実技、グループ対戦、ICT活用(動作の確認・例示)

テキスト なし(必要な資料を適宜配布する)

#### 参考書・参考資料等

授業内で適宜紹介する。

#### 学生に対する評価

授業態度・参画度(60%)、授業記録ノート(30%)、期末レポート(10%)を判断して評価する。

#### 履修上の注意

- ・運動に親しもうとする前向きな姿勢で授業に臨むこと。
- ・幼児園・保育所・施設でスポーツ・レクリエーション種目の指導ができるよう、意欲的に参加すること。
- ・必ず大学指定のジャージと運動シューズで出席すること。

実務経験の有無 有 実務経験 元高等学校体育科教諭、元指導主事

#### 実務経験を活かした教育内容

教諭と指導主事の経験を活かして、学生の実技指導を行うとともに・運動遊びの指導ができるスキルを身につけるよう授業を行う。

保育士必修	Ź	幼稚園教諭必修	:	選択
		単位数:2単位	担当	教員名:村松知香
		(半期) 講義	担当	形態:単独
	保育工业修	<u> </u>	単位数:2単位	保育工必修     切稚園教諭必修       単位数:2単位     担当       (半期) 講義     担当

- 1. 女性のからだと健康について基本的な知識を習得できる。
- 2. 健康について、自らの日常生活と関連させて考えることができる。
- 3. 自らの健康について考え、学習した内容を実生活に生かそうとすることができる。

#### 授業の概要

現代を取り巻く環境や社会において健康に生きていくための知識を習得し、さらに女性特有の健康問題について理解を深める。

#### 授業計画

第1回:健康とは

第2回: 生活習慣病とその予防

第3回:生活習慣

第4回: 欲求・ストレスとうつ病

第5回:身体と性意識・性行動

第6回:意思決定・行動選択

第7回:感染症·性感染症

第8回:妊娠・出産・リプロダクティブヘルス/ライツ①

第9回: " ②

第10回: 喫煙・飲酒・薬物乱用 第11回: 医薬品と医療サービス

第12回:結婚生活とライフサイクル

第13回:中高年期

第14回:性に関する諸課題について(外部講師による講演)

第15回:まとめ 定期試験:筆記

#### 授業時間外の学習

女性のからだや健康について関心を持ち、自分の興味関心に沿って、資料を収集する。(1時間)

授業を通して分からなかったことや疑問に感じたことは、授業後に調べ学習を行う。(2時間)

授業で取り上げられたトピックや内容について、自らの日常生活と関連づけて考え、 今後より良い生活を送るために取り組むべきことを模索する。

#### (1 時間)

外部講師の講演を踏まえて、気になったことを調べる。

(1 時間)

これまでの授業を振り返り、まとめ学習を行う。

(5 時間)

#### 授業の方法 講義、演習

テキスト

#### 参考書 · 参考資料等

適宜資料を配布する。

#### 学生に対する評価

定期試験(60%)、授業内発表・小レポート(20%)、受講態度(20%)を判断して評価する。

#### 履修上の注意

実務経験の有無 無 実務経験

卒業必修	保育士必修	幼稚園教諭必修		Š	選択
授業科目名: キャリアデザイン ナンバリング: 1020	保育士資格取得のための 選択科目		女 : <b>2</b> 単位 別)演習	藤田	教員名: 利久、小澤俊太郎、 智昭、平井厚志
				担当开	形態:複数
系 列	教養科目				
教科目	外国語、体育以外の	外国語、体育以外の科目			

- 1. キャリアを広い視野で考えることができる。
- 2. 男女共同参画社会での働き方の理解ができる。
- 3. キャリア形成の基本的考え方を修得することができる。
- 4. 他者理解と良好な人間関係を構築する方法を修得することができる。

#### 授業の概要

この授業では、人生という長い時間軸の中で職業生活や市民生活を含めたキャリア形成を図る基本を学び、学生一人ひとりのキャリア形成に役立てる知識や考えを習得することを目標とする。同時に「男女共同参画社会におけるキャリアとは何か」を学生同士のディスカッションを通して自らで考えることも目標とする。

また、埼玉県私立短期大学協会と国立女性教育会館の共催であることから、専攻分野の異なる他大学の学生との交流を通して、他者を理解し、良好な人間関係を構築することを体験的に学ぶ。

#### 授業計画

第1回: 事前学習指導: プログラムオリエンテーション

第2回:キャリアとは何か

第3回:講義「教育・保育におけると幼稚園教諭・保育士の役割」

第4回:「ビジネスマナー(キャリアを通して考える)」

第5回:個人ワークとグループ・ワーク「キャリアとは何か」

第6回:「キャリア形成における社会参画(参加から参画へ)」

第7回:「戦前における女性の生き方とは」

第8回:グループ討議「男女共同参画時代を理解する」

第9回:グループ・ワーク「統計から女性のキャリアを考える」

第10回:男女共同参画と女性のキャリア形成

第11回:「複合型キャリアとは」

第12回:グループ・ワーク「問題解決をめざし、社会をつくっていく」

第13回:「キャリアを考える-社会活動キャリアの事例に学ぶ」

第14回:講義・グループ・ワーク「キャリア形成のための情報収集」

第15回:討議・まとめ「自分のキャリアを考える」

(合宿授業終了後、まとめと発表 (最終課題:制作とプレゼン))

定期試験:レポート

#### 授業時間外の学習

学内では毎回90分程度、研修中でも毎回60分程は必要。

合宿での集中授業の事前と事後 は大学で授業を実施する。

この合宿授業参加までにキャリ アについて事前学習を課す。

合宿中は、毎日、授業中に出された課題や不明な点を会館内図書館やWebサイトなどを利用して事後学習として解決する。

グループワークでの授業が主と なるので毎日のテーマに関しての 事前・事後学習をすること。

プレゼンテーション資料作成と 発表を行うので、キャリアについて 学んだことを図書館やWebで調 べ、発表に備えることが重要。

#### 授業の方法

授業方法は、書籍や資料を参考にしながらグループワークとプレゼンテーションを基本とする。 国立女性教育会館での1泊2日(令和2年9月15・16日)の合宿授業(県内短大と合同)

テキスト 国立女性教育会館と埼玉私立短期大学協会からの各講師作成のプリント資料。

#### 参考書・参考資料等 授業中に事前学習・事後学習における参考書などを指示をする。

#### 学生に対する評価

授業における参画度(50%)、レポート(30%)、最終課題(プレゼンテーション)(20%)を総合的に判断して評価する。

#### 履修上の注意

合宿費として、宿泊代(1泊)と食事代(4食)を含めて、5,000円程度が必要となる。 (ただし、資料代などについては埼玉県私立短期大学協会と本学からの補助がある。)

この授業は、国立女性教育会館と埼玉県私立短期大学協会との連携で開催されるユニーク授業で、講師も埼玉県内の短大や女性会館の先生であり、他大学の学生と共に学びながら行う合宿授業である。

県内の各短短期大学からの参加人数により参加人数には制限があるが、参加した場合は授業での積極的な取り組みや交流を心がけて欲しい。合宿授業の事前・事後には本学で授業を実施する。

実務経験の有無 無 実務経験

卒業必修		保育士必修	幼稚園教諭必修		Ş	選択
授業科目名:	仔	R育士資格取得のための。	カ	単位数:1単位	担当	教員名:
異文化理解		選択科目		(半期) 演習	鈴木	: 一代、藤田 利久
ナンバリング:1021					担当	形態:複数
系 列		教養科目				
教科目		外国語、体育以外の	)科[			

- 1. 異文化理解の重要性の認識ができる。
- 2. 自文化と異文化の共通点と相違点の理解ができる。
- 3. 自文化の発信のための知識と技術が習得できる。
- 4. 他文化の受容への積極的取り組みができる。

#### 授業の概要

この授業では、アジア(インドネシアを主に)と欧米(ドイツ・アメリカを主に)の文化を 事例としてとりあげ、日本の文化と比較検討する。これにより異文化理解への基礎知識や態度 を学ぶとともに、自文化をいっそう深く理解し、異文化に対する理解と共に自文化の再発見を 試みる。

なお、希望者は連携協定を締結しているインドネシア、バリ州のサラスワティ外国語大学と 国立ガネシャ教育大学や幼児教育機関への訪問と交流に優先的に参加することができる。

#### 授業計画

第1回:オリエンテーション

第2回:文化とは:異文化とはなにか、自文化とはなにか

第3回:グローバル化社会のさまざまな人々

第4回:グローバル化社会の問題点

第5回:文化とひとのこころ1:自己と文化、集団主義と個人主義

第6回:文化とひとのこころ2:偏見、ステレオタイプ、差別

第7回:異文化接触とカルチュア・ショック

第8回:文化的アイデンティティ (国際結婚の子どもを例に)

第9回:異文化間コミュニケーション

第10回:インドネシアの文化の理解:グループワーク(発表準備)

第11回:インドネシア (バリ) 文化の理解:グループワーク (発表)

第12回:ドイツ・アメリカ文化の理解:グループワーク(発表準備)

第13回:ドイツ・アメリカの文化の理解:グループワーク(発表)

第14回:日本、インドネシアおよびドイツ・アメリカの共通点と相違点|他文化への尊敬の気持ちを持っ

第15回:まとめ

定期試験:発表、レポート

#### 授業時間外の学習

(毎回 60~90 分)

日常生活のなかで、テレビや新聞記事・Webサイトなどを通して、 異なる文化的背景をもつ人々や 子どもたちへの理解を深めること。 これらはグループワークでの意見 交換に必要となる。

Webサイトや書籍などで各自が 興味をもつ国の文化、歴史、教 育、言語などについ積極的に調 べ、それを基に発言することで、 グループワークが成立する。

海外研修では、自文化の誇りと他文化への尊敬の気持ちを持って接することが重要である。 交流のために日本の伝統文化 (茶道や舞踊など)の練習する。

授業の方法 講義とグループワークで行い、場合によって研修旅行を実施する。

#### テキスト

鈴木の研究成果に基づいた資料を必要に応じて配布する。

#### 参考書 · 参考資料等

オリエンテーションの際、授業中に適宜紹介する。

#### 学生に対する評価

授業参画度 (50%) 、発表 (20%) 、レポート (30%) を総合的に判断して評価する。

#### 履修上の注意

海外研修旅行への参加には、保護者の理解と研修費用(研修場所により異なる)が必要となる。 詳細については、オリエンテーションあるいは授業中に説明する。

海外研修旅行については保護者説明会を実施する。

実務経験の有無 無 実務経験

卒業必修	保育士必修	幼稚園教諭必修 選択
授業科目名:	保育士資格取得のため	のの 単位数:2単位 担当教員名:泉水祐太
社会福祉	必修科目	(半期) 講義 担当形態:単独
ナンバリング:2101		
系 列	保育の本質・目的に	に関する科目
教科目	社会福祉	

- 1. 現代社会における社会福祉の意義と歴史的変遷について理解できる。
- 2. 社会福祉と児童福祉及び児童の人権や家庭支援との関連性について理解できる。
- 3. 社会福祉の制度や実施体系等について理解できる。
- 4. 社会福祉における相談援助や利用者の保護にかかわる仕組みについて理解できる。

#### 授業の概要

社会福祉の意義、歴史的変遷、制度や実施体系、相談援助や利用者保護にかかわる仕組みを理解する。その上で、子どもの人権や家庭・家族支援の重要性について理解を深め、保育士の役割について考える。

#### 授業計画

第1回:現代社会における社会福祉の意義と歴史的変遷

第2回:社会福祉の一分野としての児童家庭福祉

第3回:児童の人権擁護と社会福祉

第4回:家庭支援と社会福祉

第5回:社会福祉の制度と法体系

第6回:社会福祉行財政と実施機関

第7回:社会福祉施設等

第8回: 社会福祉の専門職・実施者

第9回: 社会保障および関連制度の概要

第10回:相談援助の意義と原則

第11回:相談援助の方法と技術

第12回:社会福祉における利用者の保護にかかわるしくみ

第13回: 少子高齢化社会への対応

第14回:地域福祉推進とネットワーク

第15回: 社会福祉の諸外国の動向

定期試験:筆記

#### 授業時間外の学習

授業前に必ずテキストを一 読しておくこと。

また、新聞記事やニュース 等から社会福祉に関する記事 (特に児童福祉)を読む習慣 をつけること。

福祉に関する公的なデータ を調べ、現状について理解を 深めるよう努める。

予習、復習については30分~1時間くらいが必要である。

授業の方法 テキストを中心に授業を展開し、グループ討議や調べ学習を基にしての発表などを行う。 テキスト

『新基本保育シリーズ4 社会福祉』公益財団法人児童育成協会監修 中央法規出版

参考書・参考資料等 授業内で適宜配布する。

#### 学生に対する評価

筆記試験(50%)、アサインメントの提出(25%)、小テスト(25%)を総合的に評価する。

#### 履修上の注意

- ・授業前に、テキストを一読してまとめておくこと。
- ・模擬授業等を行うので、提出物等は期限内に提出すること。

実務経験の有無 有 実務経験 児童養護施設勤務(心理士)

#### 実務経験を活かした教育内容

実際の現場での様子や考え方等を教授する。

卒業必修	保育士必修	幼稚園教諭必修 選択	選択	
授業科目名:	保育士資格取得のため	の 単位数:2単位 担当教員名:丸山 アヤ子	-	
保育原理	必修科目	(半期) 講義 担当形態: 単独		
ナンバリング:2103				
系 列	保育の本質・目的に	こ関する科目		
教科目	保育原理			

- 1. 保育の意義・目的及び保育に関する法令や制度について理解できる。
- 2. 保育所保育指針における保育の基本について理解できる。
- 3. 保育思想と歴史的変遷や保育の現状と課題について理解できる。

#### 授業の概要

保育の意義、保育所保育指針における保育の基本について理解した上で、保育の目的・内容と方法の基本について理解を深める。保育の思想と歴史的変遷、保育の現状と課題についても理解し、考察できるようにする。

#### 授業計画

第1回:オリエンテーション: 保育の意義と概念

第2回:日本の保育の方向性と保育実践の基礎となる発達観

第3回:保育の関係法令と「幼稚園教育要領」保育所保育指針」の変遷

第4回:保育所保育に関する基本原則

第5回:保育所保育指針に基づく保育と保育計画

第6回:養護と教育の一体性保育の教育の5領域

第7回:幼児期の終わりまでに育って欲しい姿

第8回:1歳以上3歳未満児の保育内と遊び

第9回:3歳以上児の保育と遊び

第10回:保育の思想と歴史的変遷

第11回:日本や諸外国の保育の思想と歴史

第12回:現代における日本の保育の現状と課題

第13回:子育て支援と地域との連携

第14回:これからの保育と課題

第15回:まとめ:保育者の役割と責務

定期試験:筆記

#### 授業時間外の学習

- ①事前学習:1~2時間
- ・授業前に必ずテキストや参 考書を一読しておくこと。
- 新聞記事やニュース等から 子どもに関する記事を読む 癖をつけること。
- ・保育に関する公的なデータ を調べ、現状について理解 を深めるよう努める。
- ・グループワークに必要な資料を事前の学習でまとめておくこと。

②事後学習:1~2時間

配布されたレジュメはきちんとファイルし、見直しておく。

#### 授業の方法 講義・演習・グループワーク等を取り入れる。

#### テキスト

改訂版 Workで学ぶ保育原理 佐伯一弥 企画・著 わかば社

『幼稚園教育要領解説書』文部科学省 フレーベル館

『保育所保育指針解説書』厚生労働省 フレーベル館

『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説書』内閣府・文部科学省・厚生労働省 フレーベル館

#### 参考書 · 参考資料等

『平成29年度告知 幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園・教育保育要領 <原本>』 内閣府・文部科学省・厚生労働省 チャイルド社 必要に応じて適宜プリントを配布する。

#### 学生に対する評価

提出物(30%)、受講態度・グループワーク(30%)、定期試験の成績(40%)を判断して評価する。 履修上の注意

配布されたレジュメはきちんとファイルする。事前に発表する等、調べ積極的姿勢で学ぶこと。

実務経験の有無有実務経験

|元保育士・所長、児童センター長、福祉こども課

#### 実務経験を活かした教育内容

公立保育所、児童センター、福祉こども課の経験を活かし、保育(幼稚園・保育所・こども園)の歴史や役割、保育の現状と課題や保育者の役割と責務について研究し、多様な保育があることを理解し、現場で通用する保育実践者の育成を図る。

卒業必修		保育士必修		幼稚園教諭必修		選択	
授業科目名:	教	教員の免許状/保育士資格 単位数:2単位 担		担当	教員名:		
幼児教育者論	取	7得のための必修科目		(半期) 講義 持		田京子、金子智昭	
ナンバリング:2104					担当	形態:クラス分け	
科 目/系 列		教育の基礎的理解に	- 関っ	<b>上</b> る科目			
施行規則に定める		教職の意義及び教員	の役	と割・職務内容	(チー	-ム学校運営への対応を	
科目区分又は事項等		含む。)					
/教科目		/保育者論					

- 1. 保育に関する関係法令や現代の社会的課題について学び、保育者の役割や社会的意義について理解できる。
- 2. 保育者の職務内容や専門性について理解し、保育者になるための自己課題とその解決方法を 説明できる。
- 3. 子どもの育ちを促すうえで、保育者同士・保護者・専門機関・地域住民など様々な人々と協働することの重要性を理解できる。

#### 授業の概要

幼児期は、人間形成の基礎がつくられる大切な時期であり、遊びや生活を通した幼児期の様々な体験は、子どもの豊かな感性を育て「生きる力」の土台となる。保育者は、このような人間発達の初期経験に携わる重要な役割を担っている。本講義では、保育を取り巻く社会的変化や課題を捉えたうえで、保育職の社会的意義、保育者の職務内容、保育者に求められる役割や資質能力等について理解を深かめる。さらに、進路選択に向けた自己課題を確立しそれに向けた解決方法を見い出すことで、自己研鑽に励もうとする意欲的な姿勢を身につける。

#### 授業計画

第1回:オリエンテーション

一授業の進め方の説明、保育・保育者とは何かー

第2回:保育者の使命と制度上の位置づけ

ー法令(教育基本法、学校教育法、児童福祉法など)、保育者の歴史 と保育観の変化-

第3回:保育者の服務とマナー

-服務上の規準や倫理要綱、挨拶・言葉遣いなどのマナー-

第4回:保育を取り巻く現状と課題

一統計資料から幼稚園・保育所・認定こども園の実態を読み解く

第5回:保育者の職務内容①

-「保育者」の視点から1日の職務内容を捉える(映像)-

第6回:保育者の職務内容②

- 「子ども」の視点から1日の園生活を捉える(映像)-

第7回:保育者の資質と専門性①:子ども理解と対応

-子ども理解と即興的対応-

第8回:保育者の資質と専門性②:遊びと保育環境の創造

- 児童文化財の作成、保育環境の創造と工夫-

第9回:保育者の資質と専門性③:保育計画の立案と実践

-指導計画、保育の循環(PDCAサイクル)-

第10回:保育者の資質と専門性④:成長し続ける保育者

職員間の協議と研修の重要性、反省的実践家としての保育者像ー

#### 授業時間外の学習

- ・教科書を熟読して授業に臨 み、授業後は授業内容や自 分の考えをノートにまとめ て整理しておくこと。
- ・図書館の資料、新聞、イン ターネットなどから、保育 を取り巻く社会の現状や課 題を調べてまとめること。
- ・児童文化財の作成にあたって、その意義を考えること。 また作成後は、優れた発表 ができるように各自で練習 を重ねておくこと。
- ・近隣の小学校との連携授業では、各自が責任と自覚を持って教材準備に臨むこと。また交流後は、省察を通して自分の指導や子どもの言動を丁寧に振り返り、その際の気づきをまとめること。
- ・本授業での学習内容を踏ま えて、自分なりの理想の保育 者像を持てるようにすること。

予習・復習には1~2時間程度 の時間が必要である。 第11回:保育者の資質と専門性⑤:協働する保育者

-子育て支援、専門機関や地域との連携、小学校との接続-

第12回:近隣の小学校との交流準備

-指導計画の立案と教材準備、児童文化財の発表準備-

第13回:近隣の小学校との交流授業

- 小学生との交流授業、児童文化財の発表-

第14回:近隣の小学校との交流授業の振り返り

-グループで成果発表と協同討議

第15回:授業のまとめ

ー学習の振り返り、理想の保育者像、今後の自己課題と解決方法ー

#### 授業の方法 講義と演習、発表

#### テキスト

『コンパクト版保育者養成シリーズ 保育者論』矢田貝公昭編 一藝社

#### 参考書・参考資料等

『幼稚園教育要領』(最新版)、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』(最新版) 『保育所保育指針』(最新版)

#### 学生に対する評価

作品・課題 (50%) 、レポート (25%) 、受講態度等 (25%) を判断して評価する。

#### 履修上の注意

保育者を志す学生であることを常に意識し、主体的に授業に参加する。

実務経験の有無 | 有 | 実務経験

元幼稚園教諭、保育所巡回指導員

#### 実務経験を活かした教育内容

幼稚園勤務、公立保育所、私立保育園の巡回指導員の経験を活かして、保育者に求められる基礎的な 知識と技術、現代社会における保育者の課題、クラスづくりなどを学生が具体的に考え、実践、評価で きる授業を行う。

保育士必修	幼稚園教諭必修	選択	
保育士資格取得のための	ア 単位数:2単位 担当教員名: 高	所橋努	
必修科目	(半期)講義 担当形態:単独	3	
保育の本質・目的に	保育の本質・目的に関する科目		
社会的養護 I	社会的養護 I		
	保育士資格取得のための 必修科目 保育の本質・目的に	保育士資格取得のための 必修科目 保育の本質・目的に関する科目	

- 1. 児童福祉施設における保育士の役割や、仕事の内容など「社会的養護」を学ぶ意義を理解できる。
- 2. 現代の子どもたちがかかえる、虐待の問題や、施設で生活する子どもたちの実情を理解できる。
- 3. 子どもの権利、障害児の実情などを理解できる。

#### 授業の概要

保育士の活躍する職場は、保育所だけでなく、乳児院、児童養護施設、障害児施設、障害者支援施設等多岐にわたっており、これら施設は、児童福祉法に規定された児童福祉施設として保育士の活躍の場として大きな位置を占めている。これらの施設利用者や施設について理解を深め、現代社会における社会的養護の意義と歴史的変遷や制度、実施体系等について学び、子どもの人権擁護をふまえた社会的養護の基本および現状と課題について理解を深める。

#### 授業計画

第1回: 社会的養護の理念と概念

第2回:社会的養護の歴史的変遷

第3回:子どもの人権擁護と社会的養護

第4回:社会的養護の基本原則

第5回:社会的養護における保育士等の倫理と責務

第6回:社会的養護の制度と法体系

第7回:社会的養護の仕組みと実施体系

第8回:社会的養護とファミリーソーシャルワーク

第9回:社会的養護の対象と支援のあり方

第10回:家庭養護と施設養護

第11回: 社会的養護にかかわる専門職

第12回:社会的養護に関する社会的状況

第13回:施設等の運営管理の現状と課題

第14回:被措置児童等の虐待防止の現状と課題

第15回:社会的養護と地域福祉の現状と課題

定期試験:筆記

#### |授業の方法

テキストを中心とした、講義形式で授業を行う。

各授業の予習を各自がしっかりと行い、事前の調べ学習、レポート作成等アサインメントの提出が重要である。また、授業ノートをきちんと作成すること。(ノートの提出・確認を実施する。)

#### テキスト

『社会的養護 I 』 公益財団法人児童育成協会 監修/相澤仁、林浩康 編集 中央法規

#### 参考書・参考資料等

授業内で指示する。

#### 学生に対する評価

筆記試験(50%)、アサインメントの提出(25%)、小テスト(25%)を総合的に評価

#### 履修上の注意

- ・保育実習I(施設)及び保育実習指導I(施設)につながる大切な授業である。
- ・施設種別の理解を深めるため、アサインメントなど積極的に調べ学習を行うこと。
- ・授業ごとに、小テストを実施。授業の振り返りに役立てること。

実務経験の有無 有 実務経験 施設勤務(社会福祉士)

#### 実務経験を活かした教育内容

施設での相談業務経験を活かし、児童福祉施設の現状や職員としての心構えなどを習得できるよう視聴覚教材なども活用して授業を行う。

# 授業時間外の学習

授業前に調べ学習等で事前 学習をしっかり行い、授業に 備えること。(2時間)

また、特に日頃から児童福祉に関するニュースをチェックしておくことが重要である。

卒業必修	保育士必修	幼	選択		
授業科目名:	教員の免許状/保育士資	<b>ř</b> 格 単	単位数:2単位	担当教員名:	
教育原理	取得のための必修科目		(半期) 講義	藤田利久、槙拓治	
ナンバリング:2106				担当形態:複数	
科 目/系 列	教育の基礎的理解は	教育の基礎的理解に関する科目/教育の基礎的理解に関する科目			
施行規則に定める	教育の理念並びに教	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想			
科目区分又は事項等	/教育原理				
/教科目					

- 1. 教育に興味と関心を持ち、教育の基本概念から教育の意義や目的が理解できる。
- 2. 歴史的観点から教育や学校の変遷が理解できる。
- 3. 教育者による教育の思想を理解し、子どもと学校・家庭の教育へのかかわりが理解できる。

#### 授業の概要

教育とは何か、について教育の歴史や思想において、それらがどのように取り扱われ、幼児教育や学校の役割や営みがどのように捉えられ、変遷してきたのかを理解する。このことを踏まえ現代における教育とは何かを考えていく。

#### 授業計画

第1回:オリエンテーション・教育原理で学ぶこと

第2回:教育とは何か(目的・意義)

第3回:教育の変遷 (日本) 第4回:教育の変遷 (西洋)

第5回:教育の拡大と充実 (教育制度)

第6回:教育の場と機会 (教育と法)

第7回:幼児教育機関と小学校の連携(現代の教育課題)

第8回:望まれる教師と役割(歴史的教育家)

第9回: 幼児教育に期待されること (家庭や社会と学校の連携)

第10回:何をいかに教えるか(学習指導の内容と方法)

第11回: 子供の理解(成長と発達)

第12回:「教育とは何か」相互教授A(4名)とフィードバックテスト

第13回:「教育とは何か」相互教授B(4名)とフィードバックテスト

第14回:「教育とは何か」の模造紙作成(グループワーク)

第15回:「教育とは何か」の模造紙発表(グループワーク)

#### 定期試験

授業時間外の学習

(毎回 60~90 分必要)

テキストと配布資料を必ず読 んでおくこと。

図書館やWebサイトで配布課題を調べておくこと。

教育関連の重要条文を覚える ように事後学習をすること。

現代の教育問題を自分なりに取り上げておくこと。

課題の人物と業績を調べてお くこと。

幼児教育の現代的課題を抜き 出しておくこと。

子供の成長と発達に合わせた 教育についての考えを書き出し ておくこと。

担当部分の相互教授資料を完成させて、プレゼンテーションの準備をしておくこと。

授業の方法 講義とグループワーク(相互教授など)を実施し、学生中心の学習活動を主とする。その 中から湧いた疑問に対して、学生同士でさらに話し合い、それに教師が回答する形式で授業を進める。

テキスト 『幼児期から児童期への教育』国立教育政策研究所編、ひかりのくに株式会社発行

## 参考書・参考資料等

幼稚園教育要領(最新版)、保育所保育指針(最新版)

幼保連携型認定こども園教育・保育要領(最新版)

保育所保育指針・幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育・保育要領・解説とポイント(最新版)

小学校教職課程学生ハンドブック(東京都教育委員会)

教育小六法(最新版)(市川 須美子編、学陽書房)他 関連する書籍などは授業中に提示する。

## 学生に対する評価

小テスト (10%) ・発表資料 (25%) ・発表 (15%) ・参画度 (30%) ・レポート (20%) などで評価する。

#### 履修上の注意

アクティブ・ラーニング形式の授業、学生で作りあげる方式の授業なので、事前事後学習を怠らないことや欠席しないことなど、自らが積極的に授業に臨む姿勢と意欲が重要である。

実務経験の有無 | 有 | 実務経験 | 槙:元高等学校社会科教諭、元指導主事

### 実務経験を活かした教育内容

慎: 高等学校教諭、指導主事の経験を活かし、教育の実践について具体的な事例から講義する。

卒業必修	保育士必修	幼稚園教諭必修 選択
授業科目名:	保育士資格取得のための	の 単位数:2単位 担当教員名:丸山アヤ子
こども学	必修科目	(半期) 講義 担当形態:単独
ナンバリング:2201		
系 列	保育の対象の理解に	こ関する科目
教科目		

- 1. 「子ども」についての概念を理解できる。
- 2. 保育所・幼稚園において展開される日々の活動が「保育のねらい」に基づくものであること の認識を深めることができる。
- 3. 日本の伝統文化である「行事」の継承と保育者としての役割を理解することができる。

#### 授業の概要

心理学、社会学、文化人類学等、様々な見地から「こども」を概観し「こどもの文化」を捉えた上で、「昔遊び」「わらべうた」など実際に保育で取り入れたい内容を実践的に学ぶ。また、現代の「こども」を取り巻く問題、保育者の役割や保育の課題等について考える。

授業計画

第1回:オリエンテーション

第2回:こども学での「学び」

第3回:子ども学の領域と子どもという概念

第4回:私が子どもだった頃

第5回:行事への理解 I:幼稚園教育要領・保育所保育指針で考える

第6回:行事・活動への理解Ⅱ:季節を考慮した行事・活動とは

第7回:行事・活動への理解Ⅲ:グループ発表① 第8回:行事・活動への理解Ⅳ:グループ発表②

第9回:グループ発表振り返り

第10回:子ども主体の保育~子どもの発想から学ぶ「さんぽ」①

第11回:子ども主体の保育~子どもの発想から学ぶ「さんぽ」②

第12回:「保育の仕事は素晴らしい!」保育者の役割とは

第13回:「保育日誌」の構造と書き方

第14回:日本の伝統文化の継承と課題:子どものおもちゃと保育 第15回:こどもの発達と保育「保育者として必要な資質とは何か」

定期試験:筆記

授業の方法 講義とグループワークを中心に授業をすすめる

## テキスト

『幼稚園教育要領解説書』文部科学省 フレーベル館

『保育所保育指針解説書』厚生労働省 フレーベル館

『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説書』厚生労働省 フレーベル館

#### 参考書 • 参考資料等

適宜プリントを配布する。

#### 学生に対する評価

課題(授業内)の提出物(40%)、レポート(20%)、定期試験(筆記)(30%)、授業への関心や参加意欲(10%)を総合的に評価する。

# 履修上の注意

目的意識を持って授業に臨むこと。

- 授業ではほぼ毎回課題を出すので、きちんと整理してファイルしておくこと。自分の考えを整理し、 文章で伝える力を身に付けること。

実務経験の有無 有 実務経験

元保育士・所長、児童センター長、福祉こども課

#### 実務経験を活かした教育内容

公立保育所や児童センター、福祉こども課の経験を活かし、保育所・幼稚園において展開される日々の活動の保育計画(実習指導案)における「ねらい」、「活動内容」、「留意点」を明確にし、学生に伝え、プロとしての実践者育成を図る。活動(行事)のグループ発表や子育て支援を研究し実践する。

授業時間外の学習

①予習時間:1~2時間

子どもと触れ合う機会を多く持 ち、自分が子どもだった頃との 違いを調べておくこと。

②予習時間:2~3時間

日頃から絵本や紙芝居を図

書館で調べておくこと。

③復習時間:30分

毎回のプリントは、未記入が

無いようにすること。

卒業必修		保育士必修	幼稚園教諭必修		<b>Y</b>	選択
授業科目名:	教員の免許状/保育士資格		格	単位数:2単位	担当	教員名:布施由起
育ちと学びの心理学	取	取得のための必修科目		(半期) 講義	担当	形態:単独
ナンバリング:2202						
科 目/系 列		教育の基礎的理解に関する科目/保育の対象の理解に関する科			象の理解に関する科目	
施行規則に定める 科目区分又は事項等 /教科目		幼児、児童及び生徒 /保育の心理学	きの心	身の発達及び	学習の	の過程

- 1. 幼児、児童及び生徒の心身の発達に関わる外的・内的要因、発達理論を理解し、幼児教育・保育における発達理解の意義を説明できる。
- 2. 乳幼児期から青年期における運動、言語、認知、社会性の発達の具体的内容を説明できる。
- 3. 学習の形態、概念、その過程等、学習に関する基礎的知識を理解しており、乳幼児の発達を 踏まえた主体的学習を支える指導の在り方について説明できる。

#### 授業の概要

幼児教育・保育の実践のためには、人間の生涯発達について理解し、乳児期、幼児期、児童期、青年期の運動、言語、認知、社会性の発達について具体的に理解していることが重要である。本授業では、まず子どもの心身の発達に関わる外的・内的要因、発達理論について学び、幼児教育・保育における発達理解の意義について学ぶ。その上で、乳幼児期の身体機能、運動機能、情緒、自己、言語、認知、社会性の発達について、その過程や特徴について学び、幼児教育・保育における子どもの発達への援助について考える。さらに、学習の形態、概念、その過程など学習に関する基礎的知識を学び、乳幼児期の心身の発達を踏まえた主体的な学習活動を支える指導の在り方についても実践的に考えていく。

#### 授業計画

第1回:幼児教育・保育における発達理解の意義と発達理解の方法

第2回:乳幼児の発達に関わる外的・内的要因と理論

第3回:生涯発達における発達段階と課題

第4回: 胎児期・新生児期の発達

第5回:乳幼児期の身体機能、運動機能の発達

第6回:乳幼児期の愛着、情緒、自己の発達

第7回:乳幼児期の言語の発達 第8回:乳幼児期の認知の発達

第9回:乳幼児期の社会性の発達

第10回: 児童期の運動、言語、認知、社会性の発達 第11回: 青年期の運動、言語、認知、社会性の発達

第12回:成人期から老年期の発達

第13回 : 乳幼児期の発達と学習-学習形態、概念、過程-

第14回:幼児の主体的学習を支える指導とかかわり

-動機づけ、集団づくり、学習評価、指導の在り方-

第15回:個人差や発達課題に応じた指導と援助

#### 定期試験

授業の方法 講義、グループでの演習やワーク。

#### テキスト 授業において指示する。

#### 参考書 · 参考資料等

『実践・発達心理学〔第2版〕』青木紀久代編 みらい

#### 学生に対する評価

授業態度(20%)、小レポート(20%)、小テスト(10%)、定期試験(50%)

#### 履修上の注意

・受講にあたっては、教科書、参考文献等を参考に事前事後の学習を行い、グループでの演習には積極的に取り組むこと。

実務経験の有無無実務経験

実務経験を活かした教育内容

### 授業時間外の学習

- ・授業前に教科書、参考文献 等をもとに学習し、関心の ある点、疑問点を整理して おく。疑問点については、 調べておく。
- ・授業後は参考文献等により 関心のあるテーマについて の理解をさらに深め、学習 した内容についてまとめて おく。
- ・授業前後には、合わせて 1時間程度の自主学習を要 する。

卒業必修	保育士必修	幼稚園教諭必修 選択			
授業科目名:	保育士資格取得のため	のの 単位数:2単位 担当教員名:金井純子			
子どもの保健	必修科目	(半期) 講義 担当形態:単独			
ナンバリング:2205					
系 列	保育の対象の理解は	保育の対象の理解に関する科目			
教科目	子どもの保健				

- 1. 子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義が理解できる。
- 2. 子どもの身体的な発育・発達と保健、心身の健康状態とその把握について理解できる。
- 3. 子どもの疾病とその予防法及び他職種間の連携・協働の下での適切な対応について理解できる。

#### 授業の概要

子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義や子どもの身体的な発育・発達と保健、子どもの心身の健康状態とその把握及び保護者との連携、子どもの疾病とその予防法及び他職種間の連携・協働の下での適切な対応について学ぶ。

# 授業計画

第1回:子どもの定義と保育保健

第2回:保育保健の意義

第3回:子どもの健康と統計

第4回:子どもの健康と地域における保健活動と虐待防止

第5回:子どもの成長と発達(1)生理機能の発達

第6回:子どもの成長と発達(2)身体発育

第7回:子どもの成長と発達(3)運動・精神機能の発達

第8回:子どもの心身の健康状態とその把握

第9回:子どもの健康観察と心身の不調

第10回:子どもの病気と予防(1)総論

第11回:子どもの病気 (2)感染症

第12回:子どもの病気(3)アレルギー疾患

第13回:子どもの病気(4)子どもに多い病気

第14回:子どもの病気(5)予防接種

第15回:学習まとめ

定期試験:筆記

# 授業時間外の学習

母子手帳をもとに、自分の 生育と健康について考え、レ ポートにまとめる。

日頃から、子どもの健康に 関する情報に目を向け、自分 なりの考えを持つ。

事前に各回の授業に関連するテキストの内容を熟読し、 授業後はまとめ学習をする。

授業を通して分からなかった事や疑問に感じた事は、授業後に調べ学習を行う。

予習、復習には1時間以上が 必要である。

# 授業の方法 講義、DVD視聴、グループワーク、小テスト。

#### テキスト

『保育を学ぶ人のための子どもの保健』 堀浩樹編著 建帛社

## 参考書·参考資料等

厚労省最新ガイドライン等のプリント配布、母子手帳

#### 学生に対する評価

定期試験(50%)、課題提出(30%)、小テスト(10%)、受講態度(10%)

#### 履修上の注意

新聞、雑誌、テレビ等の子どもに関するニュースに関心を持つと授業が理解しやすい。

実務経験の有無 無 実務経験 病院勤務(看護師)

#### 実務経験を活かした教育内容

看護師としての経験を活かし、子どもの病気への具体的な対応方法、予防について授業を行う。

卒業必修	保育士	必修	幼稚園教諭必修	C.	選択	
授業科目名:	教員の免許が	代/保育士資格	単位数:2単位	担当	教員名:金子智昭	
教育課程と保育の	取得のた	めの必修科目	(半期) 講義	担当	形態:単独	
計画·評価						
ナンバリング:2301						
科 目/系 列	教育の基	一礎的理解に関	する科目/保育	の対象	ゆの理解に関する科目	
施行規則に定める	教育課程	の意義及び編成	成の方法 (カリ:	キュラ	ラム・マネジメントを含	
科目区分又は事項等	ts。)	t. )				
/教科目	/保育の	計画と評価				

- 1. 保育・教育課程の意義や編成方法を理解できる。
- 2. 学校・地域や子どもの実情に応じて、柔軟に指導計画を編成できる。
- 3. 学校経営において、指導計画の編成 (Plan)・実施 (Do)・評価 (Check)・改善 (Action) という 一連のサイクルを推進することの重要性を説明できる。

#### 授業の概要

保育・教育課程の意義や必要性を理解し、保育実践の具体的事例を基に幼稚園・保育所・認定こども園における保育者の役割について考察を深めていく。指導計画は、保育実践だけでなく責任実習においても不可欠なものとなるため、細かい部分まで思慮に富んだ指導計画を作成していく。また、実際に立てた指導計画に基づき、グループでマイクロティーチングを行うことで、保育を客観的に評価する視野を養うとともに、指導計画を適切に修正していくカリキュラム・マネジメントの意義を実践的に学んでいく。

#### 授業計画

第1回:オリエンテーション

一授業の進め方の説明、保育・教育課程とは何かー

第2回:保育・教育課程の意義

一法令(幼稚園教育要領、保育所保育指針等)から読み解く

第3回:保育・教育課程の歴史的変遷

保育所保育指針・幼稚園教育要領の改訂の流れと教育観ー

第4回:保育・教育課程の全体構造

-保育・教育課程の体系化、指導計画の種類と位置づけ-

第5回:長期の指導計画

子ども主体の指導計画の編成を現職者の保育記録から学ぶー

第6回:短期の指導計画

-週案と日案の編成方法と具体的事例-

第7回:部分指導案の編成方法

-部分指導案の各観点の記載方法と具体的事例-

第8回:年齢別の部分指導案の編成:乳児

乳児の部分指導案の配慮と留意点および作成ー

第9回:年齢別の部分指導案の編成:幼児

- 幼児の部分指導案の配慮と留意点および作成-

第10回:保育評価の基礎理解

保育評価の種類、保育所児童保育要録と幼稚園幼児指導要録、

PDCAサイクルによるカリキュラム・マネジメントー

第11回:マイクロティーチングの準備

-各班で模擬保育のテーマ設定および部分指導案の作成-

第12回:マイクロティーチングの実施(1回目)

模擬保育の実践と反省、修正指導案の編成

|第13回:マイクロテイーチングの実施(2回目)

-1回目の修正指導案に基づき、再度、模擬保育の実践と反省-

第14回:マイクロティーチングの成果発表

- グループの成果発表と全体討議-

第15回:授業のまとめ

-学習の振り返り、保育・教育課程の課題と展望-

定期試験

# 授業時間外の学習

- ・教科書を熟読して授業に臨 み、授業後は授業内容や自 分の考えをノートにまとめ て整理しておくこと。
- ・第8・9回目は、各自が考えた制作やレクリエーションの部分指導案を作成する。そのため、図書館やインターネットなどを活用して、事前に資料を収集しておくこと。
- ・第10~第15回目は、円滑な 保育実践が行えるように、 各グループで討議を重ね、 計画的に教材準備や模擬保 育の練習を進めること。

予習・復習には 1~2 時間程度 の時間が必要である。 授業の方法を教科書や配布プリントに基づいて、講義、討論、グループワークを行う。

テキスト 『保育課程・教育課程総論』柴崎正行・戸田雅美・増田まゆみ編 ミネルヴァ書房

## 参考書・参考資料等

『幼稚園教育要領』(最新版)、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』(最新版) 『保育所保育指針』(最新版)

# 学生に対する評価

定期試験の成績(60%)、課題(30%)、受講態度等(10%)を判断して評価する。

# 履修上の注意

教育・保育課程を編成し指導計画を作成するということは、教育実践における道しるべとして重要な 意味をもつ。教育現場に出た際のことを見据え、積極的に講義に参加して欲しい。

実務経験の有無 有 実務経験 元保育所勤務(保育補助員)

# 実務経験を活かした教育内容

保育所での保育経験を活かし、保育現場の実態に即した授業を行う。

卒業必修		保育士必修		幼稚園教諭必修	Ş	選択
授業科目名:	保育士資格取得のための		カ	単位数:2単位	担当	教員名:持田京子
保育内容総論		必修科目		(半期) 演習	担当	形態:単独
ナンバリング:2302						
系 列		保育の内容・方法に関する科目				
教科目 保育内容総論						

- 1. 保育所保育指針における「保育の目標」「育みたい資質・能力」「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と「保育内容」の関連を理解できる。
- 2. 保育所保育指針の各章のつながりを読み取り、保育の全体的な構造を理解できる。
- 3.子どもの生活や社会的背景や保育内容の歴史的変遷を踏まえ、保育内容の基本的な考え方を子どもの発達や実態に備えて、保育の過程(計画・実践・記録・省察・評価・改善)につなげて理解できる。

#### 授業の概要

保育内容の歴史、保育所保育指針における「保育の目標」等の保育所保育指針の考え方とその構造を理解した上で「保育内容」と関連付けて、具体的に保育を展開する方法を、講義及び演習によって学ぶ。

# 授業計画

第1回:保育所保育指針に基づく保育の目標と保育内容の理解

第2回:保育の歴史的変遷とその社会的背景についての理解

第3回:子どもの発達や生活に即した保育内容の基本的な考え方

第4回:養護及び教育が一体的に展開する保育内容

第5回:子どもの主体性を尊重する保育

第6回:環境を通して行う保育

第7回:生活や遊びによる総合的な保育について

第8回:個と集団の発達を踏まえた保育

第9回:家庭や地域、小学校などとの連携を踏まえた保育

第10回:特別な配慮を要する子どもの保育

第11回:様々なニーズを踏まえた保育

第12回: 多文化共生の保育 第13回: 保育計画を立案する

第14回:保育計画を実践する

第15回:実践した保育を振り返る (PDCA)

定期試験:レポート

# 授業時間外の学習

(毎回事後にまとめる 30分程度)

- 1.保育所保育指針の熟読(60分程度)
- 2. 我が国の園の歴史調べ(60 分程度)
- 3. 保育所保育指針の熟読(60分程度)
- 4. 園調べ(60 分程度)発表
- 5. 環境を通して行う保育の意味の考察(60分程度)
- 6.5の考察を<u>まとめ提出(60分)</u>
- 7. 園の生活や遊び調べ(60分)
- 8. 実習の個と集団指導の考察(60分)
- 9. 地域・小学校との連携調べ(40分)
- 10.特別な配慮を要する子どもの保育の調査(60分程度)発表
- 11. 子育て支援施設調査(90 分程度)
- 12. 多文化保育調べ(50 分程度)
- 13. 保育計画立案・準備(90分)
- 14. 保育計画立案・実践準備(90分)

#### 実践発表

15. 実践を振り返りPDCAについて理解 しレポートにまとめる(120分)提出

# 授業の方法 演習。

#### テキスト

『保育内容総論』横山文樹 編著 大学図書 その他資料 随時配布

#### 参考書 • 参考資料等

『平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領』文部科学省・厚生労働省・内閣府 チャイルド社 その他配布資料

# 学生に対する評価

- 小テスト(20%)、実践発表(30%)、受講態度等(20%)、レポート(30%)を判断して評価する。 最終上の注音

予習・復習を必ず行い、内容を理解した上で授業に臨むこと。積極的に授業に参加して活発な発言や 演習を行うこと。

実務経験の有無有実務経験元幼稚園教諭、保育所巡回指導員

# 実務経験を活かした教育内容

幼稚園勤務、公立保育所、私立保育園の巡回指導員の経験を活かして、保育者に求められる基礎的な知識と技術、現代社会における保育士の課題、クラスづくりなどを学生が具体的に考え、実践、評価できる授業を行う。

卒業必修	保育士必修		幼稚園教諭必修	17.7	選択
授業科目名:	教員の免許状/保育士賞	単位数:1単位	担当	教員名:金美珍	
保育内容(健康) 指導法	取得のための必修科	I	(半期)演習	担当	形態:単独
ナンバリング:2303					
科 目/系 列	領域及び保育内容の /保育の内容・方法			目	
施行規則に定める 科目区分又は事項等 /教科目	保育内容の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。 /保育内容演習			用を含む。)	

- 1. 幼児の健康、安全、環境及び動き等を視野に入れた保育構想の重要性を理解できる。
- 2. 具体的な健康保育を想定した指導案を作成することができる。
- 3. 模擬保育とその振り返りを通して、健康保育を改善する視点を身に付けることができる。

#### 授業の概要

幼稚園教育要領「健康」のねらいと内容及び内容の取扱いについて理解し、健康な心と体を育て自ら健康で安全な生活を作り出す力を養うために必要な知識・技術を身に付ける。特に指導案の作成、模擬保育の実施、情報機器の活用を通して、乳幼児期の健康に関わる生活習慣や心身の発育・発達、運動発達の特徴の理解を深め、適切な指導方法を身に付ける。

#### 授業計画

第1回:保育における「健康」とは

第2回:基本的生活習慣の形成を支える援助について

第3回:健康管理と安全能力を育む援助について

第4回:健康指導、安全指導を中心とした具体的な保育場面を想定し

た指導

第5回:健康指導、安全指導の実態

第6回: 幼児の動機づけや意欲などを配慮した健康指導、安全指導の

在り方

第7回:幼児理解と保育の視点を基盤とした評価

-指導案の作成と模擬保育を通して-

第8回:多様な動きの経験を促す援助について

第9回:領域「健康」における心身の発達を踏まえた環境構成と援助

第10回:運動遊びを中心とした具体的な保育場面を想定した指導

第11回:運動遊び指導の実際-指導案の作成と模擬保育を通して-

第12回:幼児の動機づけや意欲などを配慮した遊びとしての健康指

の在り方ー指導案の作成と模擬保育を通して一

第13回:健康な心と体を育む保育の評価と改善

-情報機器の活用、教材の工夫-

第14回:健康な心身を育むことと小学校の生活や学習で生かされる力

第15回:領域「健康」をめぐる現代的課題と保育実践

定期試験:筆記

# 授業の方法 講義および演習

# テキスト

『幼稚園教育要領』(最新版)、『保育所保育指針』(最新版)

『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』(最新版)

『保育内容と方法』現代保育問題研究会編 - 藝社

# 参考書・参考資料等

『幼児期運動指針ガイドブック』 (平成27年7月10日 文部科学省)

『保育と幼児期の運動あそび』岩崎洋子他 萌文書林

# 学生に対する評価

定期試験の成績(40%)、指導計画の立案、模擬保育の実践(30%)、受講態度等(30%)を判断して評価する。

#### 履修上の注意

- ・授業にあたっては事前事後の学習を行い、グループでの演習には積極的に取り組むこと。
- ・レポートや課題提出は、期限を守ること。

実務経験の有無 無 実務経験

実務経験を活かした教育内容

# 授業時間外の学習

- ・子どもに読み聞かせたい「からだの動きや病気の予防に関する絵本」を図書館などで、1冊選び、伝えたい要点をまとめ、授業時に提出する。(1時間)
- ・各自の手洗い習慣を振り返り、「いつ・どのように手洗いを行っているか」をまとめ、授業時に提出する。(1時間)
- ・新聞などの関連記事に注目 し、「健康」について自分 なりの考えをまとめ、授業 時に提出する。(1時間)

卒業必修	保育士必修		幼稚園教諭必修		選択	
授業科目名:	教員の免許状/保育士賞	格	単位数:1単位	担当	教員名:齋藤光男	
保育内容(人間関係)	取得のための必修科目		(半期) 演習	担当	形態:単独	
指導法						
ナンバリング: 2304						
科 目/系 列		領域及び保育内容の指導法に関する科目 /保育の内容・方法に関する科目				
施行規則に定める 科目区分又は事項等 /教科目	保育内容の指導法 /保育内容演習	R機器及び教材:	の活力	用を含む。)		

- 1. 幼稚園教育要領における幼稚園教育である基本を踏まえ、領域「人間関係」のねらい及び内容を理解できる。
- 2. 幼児の発達や学びの過程を理解し、幼児の心情、認識、思考及び動き等を踏まえた環境の重要性を考え、保育構想に活用できる。
- 3. 指導案の作成、模擬保育やロールプレイなど、領域「人間関係」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を理解できる。

#### 授業の概要

幼稚園教育要領に示された領域「人間関係」のねらい及び内容について、幼児の発達や学びの過程を理解した上で、幼児の姿と保育実践とを関連させて理解を深める。指導案の作成、模擬保育の実施、情報機器の活用を通して、幼児の発達に合わせた主体的で深い学びを実現する保育を具体的に構想し、実践する方法を身に付ける。

#### 授業計画

第1回:幼稚園教育要領における領域「人間関係」

第2回:保育者との信頼関係、保育者の援助と園生活における安定感

第3回:自立心を育成する保育者の援助と環境構成

第4回:幼児同士の交流、いざこざと保育者の援助

第5回:自分の気持ちを調整する力を育成する保育者の援助

第6回:家庭、園、社会生活でのきまりをめぐる幼児の葛藤と保育者 の援助

第7回:ルールのある遊びをめぐる保育者の援助

第8回:個と集団の育ちを考えた保育者の援助のあり方、保育の展開

-指導案の作成と模擬保育を通して-

第9回:協同的な遊びの中での育ちを考えた保育の展開

-指導案の作成と模擬保育を通して-

第10回:行事のねらいと活動内容

-指導案の作成と模擬保育を通して-

第11回:幼小の交流活動における工夫と展開

第12回:小学校以降の生活や学習につながる力の育成

第13回:地域の人との関わりと子どもの成長

第14回:幼児期の経験をその後の成長につなげる長期的な援助計画

-情報機器の活用、教材の工夫-

第15回:領域「人間関係」をめぐる現代的課題

# 定期試験

授業の方法 ICTを活用し、協同学習を取り入れた演習。

テキスト 『事例で学ぶ保育内容 <領域>「人間関係」』無藤隆監修 萌文書林

# 参考書・参考資料等

『幼稚園教育要領』(最新版)、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』(最新版) 『保育所保育指針』(最新版)、『保育所保育指針・幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども 園教育・保育要領・解説とポイント保育所保育指針』(最新版)

# 学生に対する評価

授業態度(20%)、小レポート(30%)、定期試験(50%)

# 履修上の注意

受講にあたっては、教科書を参考に事前事後の学習を行い、演習には積極的に取り組むこと

実務経験の有無 有 実務経験 元小学校教諭。特別支援教育巡回教員

#### 実務経験を生かした教育内容

小学校教諭の経験を活かし、幼少の交流や連携などについて事例をあげながら授業を行う。

授業時間外の学習

・授業前に教科書を読み、 疑問点については調べてお く。

(週1時間以上)

- ・授業後は教科書や授業で配 布したプリントをもとに、 内容を確認し、学習した内 容についてまとめておく。 (週1時間以上)
- ・日常的な子どもたちの様子で気になったところは記録し、演習等に活かせるようにしておく。

卒業必修		保育士必修	幼稚園教諭必修			選択
授業科目名:	教	員の免許状/保育士資	格	単位数:2単位	担当	教員名:伊藤道雄
特別支援教育	取得のための必修科目			(半期) 講義	担当	形態:単独
ナンバリング:2315						
科 目/系 列	教育の基礎的理解に	こ関う	<b>ける科目/保育</b>	の内容	容・方法に関する科目	
施行規則に定める	に定める 特別の支			5幼児、児童及	び生征	走に対する理解
科目区分又は事項等						
/教科目						

- 1. 視覚障害、聴覚障害、知的障害、肢体不自由病弱等を含む障害のある幼児・児童及び生徒の学習上又は生活上の困難について基礎的な知識を身につけることができる。
- 2. 発達障害や軽度の知的障害等特別な支援を必要とする幼児児童及び生徒の支援の方法を例示できる。
- 3. 特別の教育的ニーズが必要な児童等の学習上又は生活上の困難とその組織上の対応を理解できる。

#### 授業の概要

障害のある子どもの生きにくさと良さを理解し、支援・指導の在り方を体験的に理解し見識 を広げる。

#### 授業計画

|第1回:オリエンテーション・特別支援教育の理念を知る

第2回:肢体不自由の理解と指導・支援(車椅子の体験)

第3回: 肢体不自由の理解と指導・支援(特性の理解)

第4回:就学指導の手続きを理解し、相談等の支援の在り方を知る

第5回:視覚障害児の理解と指導・支援(白杖の体験)

第6回:視覚障害児の理解と指導・支援(盲ろう者の特性の理解)

第7回:聴覚障害児の理解と指導・支援(ろう学校の教育)

第8回:聴覚障害児の理解と指導・支援(手話の活用の体験①)

第9回:聴覚障害児の理解と指導・支援(手話体験②、手記)

第10回: 聴覚障害のある人々の生き方とその支援(まとめ)

第11回:知的障害児の理解と指導・支援(特別支援学校の教育)

第12回:知的障害児の理解と指導・支援(特性の理解とテスト等)

第13回:自閉症スペクトラム障害の理解と支援(特性の理解)

第14回: 注意欠陥多動性障害・学習障害児の理解と指導・支援 (特性の理解)

第15回:障害はないが特別なニーズを必要とする子の理解と指導・ 支援(特性の理解)

※個別の教育支援計画と個別の指導計画、支援システム

※早期発見・早期支援、保護者の心理と障害受容

定期試験:筆記

#### 授業時間外の学習

- ・特別支援教育の理念を調べる(1時間)
- ・肢体不自由児の課題を調べる(1 時間) 肢体不自由児の特性をまとめ る・就学の制度を調べる(1 時間)
- ・視覚障害者の課題を調べる(1 時間) 視覚障害者への配慮調べ(1 時間
- ・聴覚障害者の課題を調べる(1 時間) 手話の理解と活用を調べる(1 時間) 手話の理解と活用をまとめる(1 時間)
- ・支援の活用を図る(1時間)
- ・知的障害者の課題を調べる(1 時間) 知的障害者の配慮を調べる(1 時間)
- ・自閉症児の課題を調べる(1 時間)
- ・ADHD児の課題を調べる(1時間)
- ・学習障害児の課題を調べる(1時間)

授業の方法 講義、発表(毎回、課題をレポートし発表する。予習が必要。)、体験的活動。

# テキスト

『はじめての特別支援教育~教職を目指す大学生のために~』 柘植雅義編 有斐閣アルマ

#### 参考書・参考資料等 適宜配布する。

#### 学生に対する評価

定期試験の成績(50%)、提出物や発表・調べ学習(50%)等総合的に評価する。

#### 履修上の注意

実習において子どもたちの実態把握を十分しておいてほしい。

実務経験の有無 有 実務経験 元小学校教諭、元指導主事

# 実務経験を活かした教育内容

教諭や担任の経験を活かし、障害のある子のかかわり方やよりよい指導方法の授業を行う。

卒業必修		保育士必修		幼稚園教諭必修	CA.	選択
授業科目名: 保育者のための社会		教員の免許状/保育士資格 取得のための必修科目		単位数:2単位 (半期)演習		教員名: 裕子、藤田利久
人基礎講座	4/					形態:複数
ナンバリング:2319 科 目/系 列						
施行規則に定める 科目区分又は事項等						
/教科目						

- 1. 職業意識に根差した行動ができる。
- 2. TPOを心得た適切な敬語や表現での会話や文書作成ができる。
- 3. 全般的なコミュニケーション力を身につけることができる。

## 授業の概要

より良い保育・教育を行うためには、保護者や同僚、地域など周囲の人々の協力が重要となる。そのためにも職業意識や社会人としての常識を身につけることが重要となる。この授業では信頼される保育者を目指して、正しい言葉遣いや立ち居振る舞いなどを含めて良識ある社会人・職業人としての基礎を学ぶ。

#### 授業計画

第1回:オリエンテーション 授業の進め方と社会人としての心得 等

第2回:第 1章 信頼される保育者の要件

第3回:第2章 あいさつ・おじぎなどマナーの基本

第4回:第 3章 第2章を踏まえ、保育者にふさわしい服装

第5回:第 4章 言葉づかい: (声を出して正しい言葉づかいを)

第6回:第 5章 電話応対: (電話のマナーを意識した電話応対)

第7回:第 6章 来客応対:基本の流れで、来客応対の実際)

第5章と第6章の応用: (ロールプレイ)

第8回:第 7章 訪問:訪問の流れ(ロールプレイ中心)

第9回:第 8章 文書:文書の基本(目的に応じた文書作成)

第10回:第9章 コミュニケーションの基本1:(聴くことの大切さと態度)

第11回:第10章 コミュニケーションの基本2: (話す注意点と重要性)

第12回:第11章 コミュニケーションの基本3: (クレーム対応事例から)

第13回:第12章 保護者とのコミュニケーション

(グループワークで話合い、ロールプレイ)

第14回:第13章 保育の場における保育者間の人間関係

(グループでの話し合いと結果発表)

第15回:第14章~第17章 実習にあたって

定期試験:筆記

# 授業時間外の学習

(毎回90分程度)

基本ワークの課題などを済ませて、授業準備をしておく。

グループワークで積極的に参加 するために事前に自分の考えを まとめておく。

ロールプレイの課題は、状況を想 定し準備をしておく。

文書作成では、目的を設定し、それに応じた文書を作成する。

事例の場合は、その対応・対処方 法と理由を準備をしておく。

課題は、毎回、仕上げておき、授 業終了後は自分の答えとの違いを 確かめる。

# 授業の方法

学生自らで学びとり、身につけること、つまり態度変容を目標としているので、学生主体で授業を進める。実務現場から外部講師を招く授業も行うので、その都度準備が必要となる。

テキスト 『信頼される保育者のためのコミニュケーションスキル』藤田利久編著 西文社

#### 参考書・参考資料等 授業の中でその都度紹介

#### 学生に対する評価

発表(20%)、提出課題(30%)、小テスト(20%)、定期試験(30%)を総合的に判断して評価する。 履修上の注意

学生の皆さん一人ひとりが授業実施の中心となるため、出席はもとより毎回課題を仕上げて授業に臨むことが重要となる。自覚をもって信頼される保育者となるよう積極的な態度で学ぶ態度が重要である。

実務経験の有無 有 実務経験 藤田:元民間会社総務課人事係

薩埵:元民間会社秘書・実務技能検定に関する 研修講師

実務経験を活かした教育内容

藤田:新入社員教育などを通した社会人基礎力の育成の経験を活かし、講義する。

薩埵:業務から得た社会人としての常識を具体的に講義する。

卒業必修	保育士必修	幼稚園教諭必修 選択
授業科目名:	教員の免許状/保育士資	資格 単位数:1単位 担当教員名:金美珍
子どもと健康	取得のための必修科目	(半期) 演習 担当形態: 単独
ナンバリング:2320		
科 目/系 列	領域及び保育内容の /保育の内容・方法	の指導法に関する科目 法に関する科目
施行規則に定める 科目区分又は事項等 /教科目	領域に関する専門的 ・健康 /保育内容の理解と	

- 1. 領域「健康」のねらい及び内容を理解し、子どもの健康な姿とその発達について理解できる。
- 2. 幼児の安全な生活と怪我や病気の予防を理解できる。
- 3. 幼児の運動発達の特徴と意義を理解できる。

#### 授業の概要

健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活を作り出す力を養う領域「健康」の指導の基盤となる知識、技能を身に付ける。具体的には、幼児の心身の発達、基本的生活習慣、安全な生活、運動発達等において、幼児期には大人と違った特徴や意義があることを踏まえ、その相違が指導方法にも関連していることについて理解する。

#### 授業計画

第1回:乳幼児期の健康問題(健康の定義と乳幼児期の健康の意義)

第2回:乳幼児期の健康問題(乳幼児を取り巻く生活環境と健康)

第3回:乳幼児期の身体的発達の特徴

第4回:乳幼児期の生理的機能の発達

第5回:乳幼児期の生活習慣の獲得

第6回:乳幼児期の生活リズムの形成とその意義

第7回:幼児の安全教育と危険(リスクとハザード)

第8回:子どもの安全への意識や態度を育むことの重要性と安全管理

第9回:幼児期に起こりやすい怪我や事故の特徴

第10回:応急処置の基礎及び病気の予防

第11回:乳幼児期の運動能力の特徴(運動コントロール能力の発達)

第12回:乳幼児期の運動能力と特徴(多様な動きの意味及び両者の関係)

第13回:日常生活における運動

第14回:遊びとしての運動

第15回:子どもにとっての遊びとして行う運動の在り方

定期試験:筆記

# 授業の方法 講義

#### テキスト

『幼稚園教育要領』(最新版)、『保育所保育指針』(最新版)

『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』(最新版)

『子どもの元気を取り戻す保育内容「健康」』池田裕恵編 杏林書院

## 参考書・参考資料等

『保育と幼児期の運動あそび』岩崎洋子他 萌文書林

#### 学生に対する評価

定期試験の成績(50%)、授業への取り組み・討論への貢献度(30%)、レポート(20%)を判断して評価する。

# 履修上の注意

- ・授業にあたっては事前事後の学習を行い、グループでの演習には積極的に取り組むこと。
- ・レポートや課題提出は、期限を守ること。

実務経験の有無 無 実務経験

実務経験を活かした教育内容

#### 授業時間外の学習

- ・豊かな暮らしが子どもの発達 にどう影響しているかについ て、プラス面とマイナス面の 双方から考え、まとめ、授業 時に提出する。(1時間)
- ・健康的な生活リズムについて、 子どもたちにわかりやすく伝 えられる絵本や紙芝居、ペー プサート等の教材を作成し て、授業時に提出する。(1時 間)
- ・保育の内容としてふさわしい 伝承遊びを挙げ、その意義、 遊び方についてまとめ、授業 時に提出する。(1時間)

卒業必修	保育士必修	绉	幼稚園教諭必修		選択	
授業科目名:	教員の免許状/保育士資	格	単位数:1単位	担当	教員名:布施由起	
子どもと人間関係	取得のための必修科		(半期) 演習	担当	形態:単独	
ナンバリング:2321						
科 目/系 列		領域及び保育内容の指導法に関する科目 /保育の内容・方法に関する科目				
施行規則に定める 科目区分又は事項等 /教科目	・人間関係	領域に関する専門的事項 ・人間関係 /保育内容の理解と方法				

- 1. 乳幼児を取り巻く人間関係の現代的特徴とその社会的背景について説明できる。 2. 乳幼児期における人と関わる力の発達について、家族、保育者、子ども同士、地域との関係 という観点から説明できる。
- 3. 乳幼児の自立心、協同性、道徳性・規範意識などの育ちについて、人間関係の発達と関連さ せて説明できる。

#### 授業の概要

乳幼児期の人間関係は、子どもの自立心、協同性、道徳性・規範意識を育てる基盤となって いる。本授業では、現代の乳幼児の人間関係の発達に影響を与えている社会的要因や背景につ いて理解し、幼児教育・保育で保障すべき教育内容、幼児教育・保育の今日的課題に関する知識を身に付ける。特に、領域「人間関係」の指導の基盤となる基礎理論として、関係発達論的 視点について学び、家族、保育者、子ども同士、地域の人との関わりなど多くの他者との関係や、遊びや生活などの活動を通して、幼児期の人と関わる力が育つことを理解する。また、人 との関わりを通して育まれる自立心、協同性、道徳性の発達について学び、人と関わる力を育 てる保育者の役割について考える。

#### 授業計画

第1回:現代社会と乳幼児の人間関係

第2回:人と関わる力を育てる幼児教育・保育の今日的課題

第3回:乳幼児における人間関係の発達

―家族、 保育者、 子ども同士、 地域の人とのかかわりから‐

第4回:家族とのかかわりと人と関わる力の発達

第5回:保育者とのかかわりと人と関わる力の発達

第6回:子ども同士のかかわりと人と関わる力の発達

第7回 : 集団での活動を通した人と関わる力の発達

第8回:地域の人とのかかわりと人と関わる力の発達

第9回: 幼児期の遊びを通した人と関わる力の発達

第10回: 幼児期の生活を通した人と関わる力の発達

第11回:乳幼児期の自立心の発達-自我の芽生え、自己の発達-

第12回:幼児期の協同性の発達-集団活動、行事等を通して-

第13回:幼児期の道徳性・規範意識の発達-葛藤経験を通して-

第14回 : 幼児期に育みたい資質・能力と人間関係

第15回:人と関わる力を育てる保育者の役割

定期試験:筆記

# 授業時間外の学習

- 授業前に提示する事前課題 を教科書、参考文献等をも とに行い、関心のある点、 疑問点を整理しておく。疑 問点については、調べてお <。
- ・授業後は参考文献等により 関心のあるテーマについて の理解をさらに深め、学習 した内容についてまとめて おく。
- ・授業前後には、合わせて 1時間程度の自主学習を要 する。

# 授業の方法 講義、グループでの演習やワーク。

『保育内容 人間関係-基礎的事項の理解と指導-』田代和美・榎本眞美編 建帛社 『幼稚園教育要領』(最新版)、『 保育所保育指針』(最新版)

『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』(最新版)

# 参考書・参考資料等

『保育所保育指針・幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育・保育要領・解説とポイ ト』(最新版)

# 学生に対する評価

授業態度(20%)、小レポート(20%)、小テスト(10%)、定期試験(50%)

#### 履修上の注意

・受講にあたっては、教科書、参考文献等を参考に事前事後の学習を行い、グループでの演習には積極 的に取り組むこと

実務経験の有無 実務経験 無

実務経験を活かした教育内容

卒業必修 保育士必修 幼稚園教諭必修 選択 担当教員名: 授業科目名: 単位数:1単位 教員の免許状/保育士資格 持田京子、布施由起、 小礒伸一、後藤雅浩 子どもと環境 取得のための必修科目 (半期) 演習 担当形態: オムニバス ナンバリング:2322 領域及び保育内容の指導法に関する科目 科 目/系 列 /保育の内容・方法に関する科目 施行規則に定める 領域に関する専門的事項 科目区分又は事項等 環境 /教科目 /保育内容の理解と方法

授業の到達目標及びテーマ

- 1. 領域「環境」のねらい及び内容を理解し、子どもと環境の意義と重要性が理解できる。
- 2.様々な環境(人的環境・物的環境・社会的環境など)について理解し、子どもを取り巻く環境の現状を知り、適切な環境について考えることができる。
- 3. 生物や自然との関わりの事象に対する子どもの興味・関心の発達について説明できる。

# 授業の概要

領域「環境」の指導で必要となる感性を養い、子どもと環境との関わりの発達について学ぶ 子どもを取り巻く環境の現状や課題を理解し、適切な環境について考えることができるよう

# 授業計画

第1回:オリエンテーション (担当:持田) 第2回:領域「環境」のねらいと内容 (担当:持田)

(担当:持田) 第3回:子どもにとっての人的環境・物的環境

第4回:子どもにとっての社会的環境 (担当:布施)

第5回:子どもの発達と環境との関わり(心理学的観点から)

(担当: 布施)

第6回:子どもの発達と環境との関わり (認知的観点から)

(担当: 布施)

第7回:現代社会の子どもを取り巻く環境とその課題

(担当:持田)

第8回:現代社会の子どもを取り巻く環境とその課題

(グループワーク) (担当:持田)

第9回:現代社会の子どもを取り巻く環境とその課題

(グループ発表) (担当:持田)

第10回:子どもと生物・自然との関わり

(植物・動物の不思議) (担当:小礒)

第11回:子どもと生物・自然との関わり(自然物の遊び)

(担当:小礒)

第12回:子どもと生物・自然との関わり(植物の栽培)

(担当:小礒)

第13回:子どもと生物・自然との関わり(生物の飼育)

(担当:後藤)

第14回:子どもと生物・自然との関わり(自然体験)

(担当:後藤)

第15回:まとめ (担当:持田)

定期試験:レポート

# 授業の方法 講義と演習

『幼稚園教育要領』(最新版)、 『保育所保育指針』(最新版)

『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』(最新版)

『保育実践に生かす保育内容「環境」』著者 上田修 保育出版社

## 参考書・参考資料等

『農と都市近郊の田園暮らし』後藤 雅浩著 毎日新聞社

必要に応じて図書館で植物図鑑や動物図鑑を調べる。

#### 学生に対する評価

提出物や口頭発表 (30%)、栽培や飼育などの参加態度 (20%)、定期試験 (50%) を判断して評価する。

## 履修上の注意

子どもを取り巻く様々な環境に興味・関心をもって取り組むこと

実務経験の有無 有 実務経験 持田:元幼稚園教諭、保育所巡回指導員

# 実務経験を活かした教育内容

持田 : 幼稚園勤務の経験、現在に至る公立保育所、私立保育園の巡回指導の経験を活かして、保育者に 求められる基礎的な知識と技術、現代社会における保育士の課題、クラスづくりなどを「環境」を視点 として学生が具体的に考え、実践、評価できる授業を行う

授業時間外の学習

毎回の課題の予習と復習 (1 時間)

・次週のテーマについての 調べ学習(1時間)

グループワークの準備とまと め(1時間)

グループ発表の準備(1時間)

卒業必修	保育士必修	幼稚園教諭必修		Ş	選択
授業科目名:	教員の免許状/保育士資格		単位数:1単位 担当		教員名:細田香織
子どもと言葉	取得のための必修科目		(半期) 演習	担当形態:単独	
ナンバリング:2323					
科 目/系 列		領域及び保育内容の指導 /保育の内容・方法に関			
施行規則に定める 科目区分又は事項等 /教科目	領域に関する専門的 ・言葉 /保育内容の理解と				

- 1. 言葉のもつ意義と機能を理解できる。
- 2. 言葉に対する感覚を豊かにする実践について理解できる。
- 3. 言葉を育て、想像する児童文化財の意義について理解し、実践力を身につけることができる。

# 授業の概要

「言葉」の意義と機能について理解した上で、子どもの言葉を育て、言葉に対する感覚を豊かにする教材や実践に関する知識を身につける。

#### 授業計画

第1回: 言葉にはどのような力があるか―意見の交流から―

第2回:言葉の意義と機能

第3回:言葉の獲得―乳児期から小学校前まで―

第4回:小1プロブレムと幼・保で育てる「言葉」について

第5回:読み聞かせ・素話・紙芝居・幼年童話の魅力と意義

第6回: 読み聞かせ研究の現在と実践家の書籍から

第7回:読み聞かせの実際―現場での実践ビデオから学ぶ―

第8回: 昔話の構造と魅力

第9回: 昔話を互いに紹介し合おう

第10回: 子守歌・童謡 (メロディーを伴った言葉の力)

第11回: 『センス・オブ・ワンダー』 に学ぶ

一子どもの世界を理解し共感し共に探索する姿勢

第12回:言葉の感覚を豊かにする実践とは①

-新聞記事等を基に、事例に学ぶ-

第13回:言葉の感覚を豊かにする実践とは②

-自ら実践を考えてみよう―

第14回:言葉の感覚を豊かにする実践とは③

-実践案を交流しよう-

第15回: 言葉の感覚を豊かにする実践を踏まえた部分指導案作成

定期試験:筆記

## 授業の方法

ICTの活用、グループ活動、クラスでの意見交流等も行いながら授業を進める。

#### テキスト たし

#### 参考書 · 参考資料等

『子どもとことば』岡本夏木著 岩波書店

『ことばと発達』岡本夏木著 岩波書店 他

『センス・オブ・ワンダー』レイチェル・カーソン著 上遠恵子訳、新潮社 他 『幼稚園教育要領』(最新版)、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』(最新版)

学生に対する評価

定期試験の成績(40%)、提出物(30%)、受講態度(30%)を判断して評価する。

#### 履修上の注意

互いに意見を出したり発表したりする活動が多い。主体的に参加し、準備等も行うこと。

実務経験の有無 無 実務経験

実務経験を活かした教育内容

# 授業時間外の学習

毎回40分~60分程度

- ・絵本リストを作成する。各 自、紹介された絵本のみな らず、たくさんの絵本を追 加できるよう図書館を利用 して読み、書き入れること。
- ・単元に合わせて準備してく ること等、宿題が課される。 忘れず調べたり用意したり すること。
- ・日常から自らの「言葉」環境についても内省し、「言葉」についての感覚を磨き、実践に生かせるよう努めること。

卒業必修	保育士必修	幼稚園教諭必修	選択
授業科目名: 子どもと表現 ナンバリング: 2324	教員の免許状/保育士資 取得のための必修科目	格 単位数:1単位 (半期)演習	担当教員名: 小澤和恵、小澤俊太郎、 金美珍、小日向千秋
7 7 7 7 7 1 2021			担当形態:オムニバス
科 目/系 列	領域及び保育内容の /保育の内容・方法		·目
施行規則に定める 科目区分又は事項等 /教科目	領域に関する専門的 ・表現 /保育内容の理解と		

- 1. 領域「表現」のねらい及び内容を理解し、子どもの表現の姿とその発達について理解できる
- 2. 身体・造形・音楽表現など、様々な表現の基礎的知識と技術を身につけ、子どもの表現活動に展開することができる。
- 3. 子どもの表現を受け止め、留意点と評価の方法が理解できる。

## 授業の概要

「表現」とは何かを学び、人間の成長にとって「表現」することの大切さとその発達過程について理解できるようにする。領域「表現」のねらい及び内容を理解し、身体・造形・音楽表現など、子どもが表現する様々な姿と方法を受け止め、子どもの表現活動を支援するための知識と技能、表現力を身につける。

*** = \$ ***		
授業計画		授業時間外の学習
第1回:オリエンテーション―「表現」とは何か	(担当:小澤和)	・毎回の課題の予習と復習
第2回:領域「表現」のねらいと内容	(担当:小澤和)	<ul><li>次週のテーマについての</li></ul>
第3回:子どもの発達と音楽表現	(担当:小澤俊)	調べ学習
第4回:子どもの音楽表現(遊び歌)	(担当:小澤和)	授業で紹介される音楽表現活
第5回:子どもの音楽表現(歌う活動)	(担当:小澤和)	動の習得
第6回:子どもの音楽表現(音を鳴らす活動)	(担当:小澤俊)	(それぞれ各回各1時間程度)
第7回:子どもの発達と造形表現	(担当:小日向)	授業で紹介される造形表現活
第8回: 造形表現の基礎技法	(担当:小日向)	動の準備と制作
第9回:子どもの造形表現(描く活動)	(担当:小日向)	(予習、復習に各回各1時間
第10回 : 子どもの造形表現(作る活動)	(担当:小日向)	程度)
第11回:子どもの発達と身体表現	(担当:金)	
第12回:子どもの身体表現(リズムと動き)	(担当:金)	授業で紹介される身体表現活
第13回:子どもの身体表現(音楽と動き)	(担当:金)	動の習得
第14回:子どもの身体表現(イメージと動き)	(担当:金)	(予習、復習に各回各1時間
第15回:子どもの身体表現(自由な動き)	(担当:金)	程度)
定期試験:レポート		

# 授業の方法 講義とグループワーク。

#### テキスト

『幼稚園教育要領』(最新版)、 『保育所保育指針』(最新版) 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』(最新版)

#### 参考書 · 参考資料等

『コンパクト版保育内容シリーズー音楽表現―』谷田貝公昭監修 一藝社

## 学生に対する評価

定期試験の成績(40%)、課題(30%)、受講態度等(30%)を判断して評価する。

# 履修上の注意

感性を豊かに、様々な表現活動を捉えるようにすること。

実務経験の有無 無 実務経験

実務経験を活かした教育内容

卒業必修	保育士必修	幼稚園教諭必修	選択
授業科目名:	教員の免許状/保育士資	格 単位数:1単位	担当教員名:小澤俊太郎、 高野恵允(恵美)、浅見彩賀、
音楽 I	取得のための必修科目	(半期)演習	小川弥輪、鈴木順子、野本裕美子、 松井ひかる
ナンバリング:2325			担当形態:クラス分け、オムニバス
科 目/系 列	大学が独自に設定す	「る科目/保育の内	容・方法に関する科目
施行規則に定める 科目区分又は事項等 /教科目			

# 授業の到達目標及びア

- 1.季節の歌(春・夏)の必修課題曲の弾き歌いができる。
- 2. (ピアノ初心者) バイエル72番以上、(ピアノ経験者) 3曲以上の楽曲を弾くことができる。
- 3. 基礎的な楽典を説明できる。

# 授業の概要

- 1. 合同授業 音楽の基礎となる楽典を学び、保育、幼児教育で使用される歌唱曲(童謡、遊び 歌など)を習得する。
- 2. 個人レッスン 幼児教育、保育現場で必要とされるピアノ演奏の基礎技術と知識の習得を目 指す。学生一人一人のレベル、能力に合わせてマンツーマンでレッスンを行う。

# 授業時間外の学習 授業90分のうち、45分を合同授業(担当:高野)、

45分を4クラスに分けて個人レッスン(担当:小澤、鈴木、野本、 松井、小川、浅見)

## 〈合同授業〉

第1回:オリエンテーション

第2回:楽典① 楽譜の基礎(五線・音部記号・小節線)

第3回:楽典② 音名、音符・休符の種類

第4回:楽典③ 拍と拍子の種類 第5回:楽典④ 調号と音階 第6回:楽典⑤ 長音階と短音階

第7回:「子どもの歌」弾き歌い(季節の歌-春) 歌詞の理解

第8回:「子どもの歌」弾き歌い(季節の歌-春) 歌い方の指導

第9回:手遊び・指遊び 教員による提示と個人練習 第10回:手遊び・指遊び 2人組に分かれての練習

第11回:「子どもの歌」弾き歌い(季節の歌-夏) 歌詞の理解

第12回:「子どもの歌」弾き歌い(季節の歌-夏) 歌い方の指導

第13回:「子どもの歌」弾き歌いのまとめ 春・夏の歌の復習

第14回:「子どもの歌」弾き歌いのまとめ 小テスト

第15回:「子どもの歌」弾き歌いテスト

定期試験:筆記・実技

〈個人レッスン〉

第1回:オリエンテーション

第2回~第15回: マンツーマンによるレッスン

# 〈合同授業〉

課題の楽典ワークの学習(1時間) 課題の楽典ワークの学習(1時間) 課題の楽典ワークの学習(1時間) 課題の楽典ワークの学習(1時間) 「子どもの歌」弾き歌いの練習 (1時間) 「子どもの歌」弾き歌いの練習(1時間) 手遊び・指遊びの練習(1時間) 手遊び・指遊びの練習(1時間) 「子どもの歌」弾き歌いの練習(1時間) 「子どもの歌」弾き歌いの練習(1時間) 「子どもの歌」弾き歌いの練習(1時間) 「子どもの歌」弾き歌いの練習(1時間)

課題の楽典ワークの学習(1時間)

〈個人レッスン〉

試験の準備と練習(1時間)

毎回のレッスンで課題となった 曲の練習(1日15分以上、1週

間に合計1時間以上)

## 授業の方法 合同授業と個人レッスン(ピアノ実技指導)

#### テキスト

個人レッスン 初級者は『バイエル』 既習者はレベルに合わせて選曲

『改訂 学生のためのコールユーブンゲンとコンコーネ』教芸音楽研究グループ編 教育芸術社 合同授業 『こどものうた100』小林美実監修 チャイルド社

# 参考書・参考資料等 個人レッスンでは個人の レベルに合わせた曲を紹介する。

#### 学生に対する評価

合同授業内での必修課題曲のマスター(30%)、小テスト(20%)

個人レッスンの受講態度(受講上の注意を守る)(20%)

個人レッスンの課題の習熟度(個人カルテ配布)と実技試験(30%)

# 履修上の注意

自己学習の予習、復習が大変重要である。

特に、今までにピアノ学習経験のない学生は努力する必要がある。

実務経験の有無 実務経験 ピアノ講師

## 実務経験を活かした教育内容

ピアノ講師の経験を活かし、各学生の能力に添って指導できるよう授業を行う。

卒業必修 保育士必修 幼稚園教諭必修 選択 担当教員名:小澤俊太郎、 授業科目名: 教員の免許状/保育士資格 単位数:1単位 高野恵允(恵美)、浅見彩賀、 小川弥輪、鈴木順子、野本裕美子、 音楽Ⅱ 取得のための必修科目 (半期) 演習 松井ひかる ナンバリング:2326 担当形態:クラス分け、オム ニバス 科 目/系 大学が独自に設定する科目/保育の内容・方法に関する科目 施行規則に定める 科目区分又は事項等 /教科目 授業の到達目標及びテーマ 1. 生活の歌、季節の歌 (秋・冬) 必修課題曲の弾き歌いができる。 2. (ピアノ初心者) バイエル96番以上、(ピアノ経験者) 3曲以上の楽曲を弾くことができる。 3. コールユーブンゲンを歌うことができる。 授業の概要 1. 合同授業 「音楽 I」で学んだ内容をもとに、ソルフェージュの力と正しい発声を身につけ て「子どもの歌」の弾き歌いを習得する。 2. 個人レッスン 幼児教育、保育現場で必要とされるピアノ演奏の基礎技術と知識の習得を目 指す。学生一人一人のレベル、能力に合わせてマンツーマンでレッスンを行う。 授業計画 授業時間外の学習 授業90分のうち、45分を合同授業(担当:高野)、 45分を4クラスに分けて個人レッスン(担当:小澤、鈴木、野本、 松井、小川、浅見) 〈合同授業〉 〈合同授業〉 第1回:オリエンテーション 第2回:ソルフェージュ① 正しい発声 第3回:ソルフェージュ② 正しい音程の取り方とは 第4回:ソルフェージュ③ コールユーブンゲンによる音程の取り方 コールユーブンゲン等課題曲の練 習(1時間) 第5回:「子どもの歌」弾き歌い(生活の歌) 「子どもの歌」弾き歌いの練習(1時間) 第6回:「子どもの歌」弾き歌い(季節の歌-秋) 歌詞の理解 「子どもの歌」弾き歌いの練習(1時間) 第7回:「子どもの歌」弾き歌い(季節の歌一秋) 歌い方の指導 「子どもの歌」弾き歌いの練習(1時間) 第8回:「子どもの歌」弾き歌い(季節の歌-冬) 歌詞の理解 「子どもの歌」弾き歌いの練習(1時間) 第9回:「子どもの歌」弾き歌い(季節の歌-冬) 歌い方の指導 「子どもの歌」弾き歌いの練習(1時間) 第10回:歌唱活動(アンサンブル) 音取り 歌唱アンサンブルの練習(1時間) 第11回:歌唱活動(アンサンブル) 部分練習・パート練習 歌唱アンサンブルの練習(1時間) 第12回:歌唱活動(合唱曲) 音取り 試験曲の練習(1時間) 部分練習・パート練習 第13回:歌唱活動(合唱曲) 試験曲の練習(1時間) 第14回:歌唱活動(合唱曲) 全体練習 試験曲の練習(1時間) 第15回:歌唱活動(合唱曲)の発表 定期試験:実技 〈個人レッスン〉 〈個人レッスン〉 第1回:オリエンテーション 毎回のレッスンで課題となった 第2回~第15回:マンツーマンによるレッスン 曲の練習(1日15分以上、1週 間に合計1時間以上) 授業の方法 合同授業と個人レッスン(ピアノ実技指導)

# テキスト

個人レッスン 初級者は『バイエル』 既習者はレベルに合わせて選曲

合同授業 『改訂 学生のためのコールユーブンゲンとコンコーネ』教芸音楽研究グループ編 教育芸術社 『こどのうた100』小林美実監修 チャイルド社

# 参考書・参考資料等 個人レッスンでは個人の レベルに合わせた曲を紹介する。

#### 学生に対する評価

合同授業内での必修課題曲のマスター(30%)、小テスト(20%)

個人レッスンの受講態度(受講上の注意を守る)(20%)、

個人レッスンの課題の習熟度(個人カルテ配布)と実技試験(30%)

# 履修上の注意

自己学習の予習、復習が大変重要である。

特に、今までにピアノ学習経験のない学生は努力する必要がある。

実務経験の有無 ピアノ講師 実務経験

# 実務経験を活かした教育内容

ピアノ講師の経験を活かし、各学生の能力に沿って指導できるよう授業を行う。

卒業必修	保育士必修	幼稚園教諭必修選択
授業科目名:	保育士資格取得のため	ゆの 単位数:2単位 担当教員名:布施由起
カウンセリング I	選択科目	(半期) 講義 担当形態: 単独
ナンバリング:2329		
系 列	保育の内容・方法は	こ関する科目
教科目		

- 1. カウンセリングの基礎的な理論や技法を理解できる。
- 2. ピアヘルピングに関する基礎的な知識・スキルを理解できる。
- 3. ピアヘルピングを実践することができる。

#### 授業の概要

カウンセリングの理論、技法、歴史やその種類について学ぶと共に、カウンセリングスキル を習得し、ピアヘルピングを実践するための力も身につける。

# 授業計画

第1回:イントロダクション ピアヘルパーとは

第2回:カウンセリングの定義と歴史

第3回:カウンセリングの種類

第4回:ピアヘルピングの関係領域

第5回:ピアヘルパーの仕事とピアヘルパーに求められる資質

第6回:ピアヘルピングのためのカウンセリングスキル①

第7回:ピアヘルピングのためのカウンセリングスキル②

第8回:ピアヘルピングのためのカウンセリングスキル③

第9回:ピアヘルピングのためのグループワーク①

第10回:ピアヘルピングのためのグループワーク②

第11回:児童期、青年期の発達

第12回:ピアヘルパーの心構えと留意点

第13回:ケーススタディ

第14回:ピアヘルピング体験

第15回:全体のまとめ

定期試験:レポート

# 授業時間外の学習

- ・教科書や授業内で配布したプリントをもとに、前回の内容を確認し、次回の学習内容についても確認しておくこと。
- ピアヘルピングの特徴について理解したことをまとめる。
- ・授業内で紹介する参考文献を 読み、カウンセリングスキル、 グループワークについて理解 を深める。
- ・ピアヘルピング活動の留意点 について、授業内で配布した プリント及び参考文献からま とめる。
- ピアヘルピング体験を振り返って、今後の課題についてまとめる。
- ・授業前後には、合わせて1時間程度の自主学習を要する。

授業の方法 講義、グループ演習、ロールプレイを行う。

#### テキスト

『ピアヘルパーハンドブック』 日本教育カウンセラー協会(編) 図書文化社

# 参考書・参考資料等

授業時にプリントを配布。また、参考文献等は授業時に紹介する。

# 学生に対する評価

授業参画 (30%) 、小レポート (20%) 、定期試験 (50%)

#### 履修上の注意

- ・授業にはまじめに取り組むこと。理由のない欠席は認めない。
- ・受講にあたっては事前事後の学習を行い、グループ演習やロールプレイには積極的に取り組むこと。

実務経験の有無 | 有 | |実務経験

クリニック勤務(臨床心理士、公認心理師)

## 実務経験を活かした教育内容

精神科クリニック勤務の経験を活かしてロールプレイを取り入れた実践的な授業を行う。

卒業必修	保育士必修	幼稚園教諭必修	選択
授業科目名: 教職教養演習 I		単位数:1単位 (半期) 演習	担当教員名: 平井厚志、山畑昭司
ナンバリング:2701			担当形態:複数

- 1. 公務員試験の流れや、勉強の方法、各自が受ける地域の試験内容について理解できる。
- 2. 公務員試験「一般教養」の各領域における内容と各自の力を確認し、苦手領域を克服できる。
- 3. 面接試験のポイントを把握し、模擬面接を通して回答力を身につけることができる。

#### 授業の概要

公立の保育所や幼稚園、認定こども園の保育士や幼稚園教諭に就職するには、各自治体が実施する職員採用試験に合格をしなければならない。試験内容は一般教養試験、専門教養試験、論作文、面接等である。本講義では、公立の保育士・幼稚園教諭を目指す学生を対象に、公務員試験受験の基礎知識・学習方法・一般教養の身につけ方、論文作成・面接の受け方を学ぶ。

# 授業計画

第1回: 公務員試験について、学習計画立案

第2回:一般教養(文章理解・国語・文学)

第3回:一般教養(資料解釈)

第4回:一般教養(思想・日本史・世界史)

第5回:一般教養(地理·芸術)

第6回:一般教養(政治・経済)

第7回:一般教養(社会)

第8回:一般教養(数学) 第9回:一般教養(物理・科学)

第10回:一般教養(生物・地学)

第11回:中間テスト・振り返りと今後の学習計画

第12回:一般教養(判断推理)

第13回:一般教養(数的理解)

第14回:小論文対策 第15回:面接対策 定期試験:筆記、レポート

#### 授業時間外の学習

・振り返りの小テストを行う ので、復習を行いテスト範 囲を勉強しておく。

(毎回 0.5 時間程度)

- ・高校時代の教科書、参考書を用いて、自学する。(各分野2時間程度)
- ・授業前に、テキスト中の授業予定分野の問題に必ず目を通して授業に臨む。 (毎回0.5時間程度)

#### 授業の方法

講義と主体的な「学び合い」を適宜織り交ぜて行う。パソコン教室で調べ学習を行ったり、グループ ワークを行ったりもする。

テキスト 『保育士・幼稚園教諭採用試験問題集 2021年度版』保育士試験研究会 実務教育出版

# 参考書・参考資料等

『スイスイわかる保育士試験』保育士採用試験情報研究会 一ツ橋書店

『市役所上・中級 教養・専門試験 過去問500 2021年度(公務員試験 合格の500シリーズ9)』 資格試験研究会 実務教育出版

学生に対する評価 小テスト (20%)、提出物・発表 (20%)、試験 (60%)

#### 履修上の注意

公務員試験希望者、群馬県私立幼稚園・認定こども園の統一試験を受験予定の学生を対象とする。 チューターズルーム・図書館を利用して積極的に予習・復習をすること。

積極的に勉強する意欲のある学生の受講を望む。

# 実務経験を活かした教育内容

元教員採用試験委員の経験を活かして、問題の解説・面接指導を行い、公務員試験受験希望者の実力 を養成する。

卒業必修	保育士必修	幼稚園教諭必修		<b>V</b>	選択
授業科目名: 教職教養演習Ⅱ			単位数:1単位 (半期) 演習		数員名: 享志、山畑昭司
ナンバリング:2702			(1791) [XII		%態:複数

- 1. 幼児教育者として専門的知識を身につけ、専門教養の問題を解くことができる力を身につけることができる。
- 2. 論文・作文のテーマを理解し、論理的に記述することができる。
- 3. 個人面接や集団面接、集団討論で、対応力を身につけることができる。

#### 授業の概要

本講義では、公立の保育士・幼稚園教諭を目指す学生を対象に専門教養科目の講義を行い、 公務員試験における専門教養を身につけるとともに、小論文・作文の実践をとおして書き方を 理解し、併せて個人面接や集団面接及び集団討論も行い、対応力を身につける。

授業計画 授業時間外の学習

第1回 : オリエンテーション・社会福祉関係の法律

第2回 : 専門科目①児童家庭福祉・社会的養護

第3回 : 専門科目②保育原理

第4回 : 専門科目③発達心理学・保育心理学

第5回 :専門科目④子どもの保健

第6回 :模擬試験

第7回: 専門科目⑤保育内容(音楽)

第8回 : 小論文対策① 第9回 : 小論文対策②

第10回:小論文対策③

第11回:専門科目⑥特別支援教育

第12回:面接対策① 第13回:面接対策② 第14回:面接対策③

第15回:まとめ

定期試験:筆記、レポート

・作文または小論文を授業以 外に1本書く。(授業実施

週各1時間程度)

・授業時に取り組むテキスト 中の問題以外を、各自で解 く。(毎時 0.5 時間程度)

・専門教養について、教科書 を参考にして過去問題に取 り組む。(毎時0.5時間程度)

授業の方法 講義と主体的な「学び合い」を適宜織り交ぜて行う。パソコン教室で調べ学習を行う。 論文作成の柱立てを学び、実際に書き込む。模擬面接を行い、相互評価を行う。

テキスト 『保育士・幼稚園教諭採用試験問題集 2021年度版』保育士試験研究会 実務教育出版 参考書・参考資料等

『スイスイわかる保育士試験』保育士採用試験情報研究会 一ツ橋書店

『市役所上・中級 教養・専門試験 過去間500 2021年度(公務員試験 合格の500シリーズ9)』 資格試験研究会 実務教育出版

学生に対する評価

小テスト (20%) 、提出物・発表 (20%) 、試験 (60%)

履修上の注意

公務員試験希望者

教職教養演習 I を未履修者も履修可

実務経験の有無 有 実務経験 平井:元公立学校教員採用試験委員

実務経験を活かした教育内容

元教員採用試験委員の経験を活かして、問題の解説・面接指導を行い、公務員試験受験希望者の実力を養成する。

卒業必修		保育士必修	幼稚園教諭必修		;	選択
授業科目名:	仴	R育士資格取得のため(	カ	単位数:2単位	担当	教員名:
保育実習 I (施設)		必修科目		(10日間) 実	髙橋	努、原口政明
ナンバリング:2803				習	担当	形態:複数
系 列		保育実習				
教科目		保育実習 I				

- 1. 児童福祉施設等における保育士の役割や、仕事の内容を体験することで理解できる。
- 2. 現代の子どもたちが抱える虐待の問題や、施設で生活する子どもたちの実情を理解できる。
- 3. 子どもの権利、障害児の実情などを知り、現場の状況から理解を深めることができる。

#### 授業の概要

保育所や児童福祉施設等の役割を理解し、子どもの観察や関わりを通して理解を深め、既習 の教科目の内容を踏まえて保育や保護者支援を総合的に理解する。さらに、保育計画や観察・ 記録なども理解し、専門職としての保育士の業務内容や役割・職業倫理などを具体的に理解する。

#### 授業計画

# 【前半】(施設理解、利用者理解)(1日目~5日目)

施設職員の指導のもとに、施設の概要や職員の業務について理解を深|校指定の配属先で原則宿泊に め、また、生活している乳幼児や児童及び利用者の生活支援・活動支|て実習を行う。 援を行うことにより、コミュニケーション技術の向上を図る。

コミュニケーションを図ることにより、施設を利用している乳幼児 1. 事前に配属先の施設に関 や児童及び利用者、地域とのかかわりや家族とのかかわりなど、様々 なことに目を向け、施設や乳幼児等の抱える問題等の理解を深める。

# 【後半】(利用者理解、保育士としての専門知識について考える) (6日目~10日目)

乳幼児や児童、及び利用者の生活サイクルにあわせ、施設保育士がど のような役割を持ち、どのように活動しているか実践を通して理解を などの学習が重要である。 深めていく。施設によっては、部分実習を行う場合がある。また、設 定した実習課題の達成に向けて積極的に実習に取り組む。

定期試験:レポート

# 授業時間外の学習

保育実習Ⅰ(施設)は、学

そのため、

- する情報を集める(1時間)
- 2. 配属先の利用者や児童に ついての情報を集め、理解 を深める(2時間)
- 3. 文献資料等を活用して理 解を深める(2時間)

授業の方法 児童福祉法にある児童福祉施設(保育所を除く)及び障害者施設等での実習。

#### テキスト

『施設実習ガイド-保育者として成長するための事前事後指導学習 - 』駒井美智子編著 萌文書林

- ・実習先でのオリエンテーション及び実習において、実習のしおり、実習生の心得等の資料を配布。
- チェックリストをもとに、事前準備等を行う。

#### 学生に対する評価

福祉施設における実習の評価(40%)、事前・事後学習で提出したレポート等(60%)

#### 履修上の注意

- ・履修登録時の記載漏れが多いので必ずチェックを忘れないこと。
- ・保育実習指導 I (施設) を必ず履修すること。
- ・入所施設での実習を効果的に行うために、事前に施設でのボランティア活動や関連文献を通して、施 設の機能、施設保育士の職務内容と役割・入所児童等について理解を深めるように努めること。
- ・10日間の実習を通して、施設保育士の役割をきちんと理解し、保育士としての専門性を見つけられ るよう、事前学習、事前準備をしっかりと行うこと。
- ・副読本として、本学の『実習の手引き』を使用する。

実務経験の有無 有 実務経験 髙橋:施設勤務(社会福祉士)

# 実務経験を活かした教育内容

髙橋: 施設での実習生指導の経験を活かし、実習日誌の記入方法や実習目標の考え方などを説明、実習 先の種別に合わせた目標設定ができるよう授業を行う。

卒業必修		保育士必修	幼稚園教諭必修		;	選択
授業科目名:	仴	R育士資格取得のため(	カ	単位数:1単位	担当	教員名:
保育実習指導 I (施設)		必修科目		(半期) 演習	髙橋努、原口政明	
ナンバリング:2804					担当	形態:クラス分け
系 列		保育実習				
教科目		保育実習指導 I				

- 1. 児童福祉施設等における保育士の役割や、仕事の内容を理解できる。
- 2. 現代の子どもたちが抱える虐待の問題や、施設で生活する子どもたちの実情を理解できる。
- 3. 子どもの権利、障害児の実情などを知り、理解を深めることができる。

#### 授業の概要

児童福祉施設等における実習の意義や目的・内容の理解を深め、自らの実習における課題、利用者の人権と最善の利益、プライバシー保護や守秘義務について理解する。また、実習の計画・実践・観察・記録・評価の方法や内容について具体的に理解し、事後指導等にて実習の総括と自己評価を行い、今後の実習に向けた課題、目標を明確にする。

#### 授業計画

第1回:オリエンテーション(実習の心得、マナー、実習先の確認等)

第2回:児童福祉施設について(振返り) (1)

第3回:児童福祉施設について(振返り)(2)

第4回: 実習目標の考え方と実習生調書の書き方(1)

第5回:実習目標の考え方と実習生調書の書き方(2)

第6回: 実習課題の考え方と作成

第7回:実習課題と実習計画について(1)

第8回:実習課題と実習計画について(2)

第9回:外部講師(施設職員)による出張セミナー(青嵐荘療育園)

第10回: 実習日誌について(1) 第11回: 実習日誌について(2)

第12回:ボランティア、実習先オリエンテーションについて

第13回: 活動案の考え方(5領域との関連について)活動案の作成|これら調べ学習が必須であり

第14回:活動案の作成 第15回:お礼状の書き方

定期試験:レポート

## 授業時間外の学習

保育実習 I (施設) がスム ーズに実施できるよう、以下 の学習が必要となる。

- 1. 配属先の施設に関する情報を集める(1時間)
- 2. 配属先の利用者や児童に ついての情報を集め、理解 を深める(2時間)
- 3. 文献資料等を参考に、児 童福祉施設の歴史的背景等 についても学習をする(2 時間)

これら調べ学習が必須であり 、図書館などを活用し率先し て学習すること。

授業の方法 児童福祉法にある児童福祉施設(保育所を除く)及び障害者施設等での実習に関わる授業。 講義を中心に調べ学習等を織り交ぜて行う。

#### テキスト

『施設実習ガイド - 保育者として成長するための事前事後指導学習 - 』駒井美智子編著 萌文書林 参考書・参考資料等

- ・授業内で適宜プリント等配布する(実習チェックリスト、施設パンフレット等)。
- ・配布物チェックリストをもとに、事前準備等を行う。

## 学生に対する評価

授業の中間で行う筆記テスト(50%)、提出課題(50%)

#### 履修上の注意

- ・保育実習 I (施設) も必ず履修すること。
- ・課題の提出等、期限を必ず守ること。
- ・施設実習は学生が自ら考え行動することで、体験から学びとってゆくプロセスが重要である。それぞれが問題意識をしっかりと持ち、積極的・主体的に準備を進めること。
- ・履修登録時、記載漏れが多いので、チェックを忘れずに行うこと。
- ・副読本として、本学の『実習の手引き』を使用する。
- ・10日間の実習を通して、施設保育士の役割をきちんと理解し、保育士としての専門性を見つけられるよう、事前学習、事前準備をしっかりと行い、実習課題を明確にすること。

実務経験の有無 有 実務経験 高橋:施設勤務(社会福祉士)

#### 実務経験を活かした教育内容

髙橋:施設での実習生指導の経験を活かし、実習日誌の記入方法や実習目標の考え方などを説明。実習 先の種別に合わせた目標設定ができるよう授業を行う。

卒業必修		保育士必修		幼稚園教諭必修		選択
授業科目名:	教	員の免許状取得のため	の	単位数:1単位		教員名: 京子、金子智昭
教育実習(幼稚園) I ナンバリング:2809	必修科目			(通年)演習	担当	形態:クラス分け
科目		教育実践に関する利	半目			
施行規則に定める		教育実習				
科目区分又は事項等						

- 1. 事前指導において、教育実習生として幼稚園の教育活動に参画する意識を高め、教育者としての愛情と使命感を深めることができる。
- 2. 教育実習後には、教育実習を経て得られた成果と課題等を省察するとともに、指導教員のもとで積んだ知識や技能等について理解を深め、実習の意義を考察できる。
- 3. 自己の能力や適性を考えるとともに、教員免許取得までに習得すべき知識や技能等について 理解することができる。

#### 授業の概要

本授業は幼稚園教育実習における観察・参加・責任実習という方法を含めて教育実習生として遵守すべき義務及び責任について自覚し、意欲的に教育実習に参加するための授業である。 基礎的な理論と方法を学び、クラスの補助的な役割や教員として相応しい指導方法を身に付ける。実習後は、得られた知識や経験を振り返り、まとめて発表することで実習の意義を理解し、さらに必要な指導方法及び知識や技能についての理解を深める。

#### 授業計画 (事前授業)

第1回:幼稚園教育と幼稚園実習の意義についての理解

第2回:園の経営方針及び特色ある教育活動

第3回: 実習にて遵守すべき事項と責任及び安全について

第4回:幼稚園環境に対して適切な観察と記録の取り方

第5回:学級担任の補助的役割について

第6回:視聴覚教材などを用いた保育とその方法

第7回:幼児の発達段階や、園環境を踏まえ、ねらいを持った部分

及び責任実習指導案の立案

第8回:保育に必要な基礎的技術(話法・保育形態・保育展開・

環境構成などを実地に即して身に付ける)

#### (事後授業)

第9回:教育実習で得られた成果と課題の話し合い

第10回:日誌を見てエピソード記録などを出し合い

第11回:園での実習評価を理解し、幼児教育への意欲を高める。

第12回:園での実習評価を踏まえて更なる課題を模索する。

第13回:実習を総合的に振り返り実習園へ感謝の気持ちを持つ。

第14回: 実習の成果と課題を後輩に伝えるようにまとめる。

第15回:実習の成果と課題を後輩に伝え、自らの学びを深める。

定期試験:パワーポイントを作成し、実習の成果と課題を発表する。

#### 授業時間外の学習

- ・実習校の園環境や方針(調書作成)・実習を受けるにあたって遵守すべきことや責任の確認(オリエンテーション依頼)・保育の観察方法と日誌の記録の取り方・教材や教具の活用法・問題発生時の対処法、安全管理、安全教育・季節や行事を踏まえた指導案(巡視用地図作成)・幼児の発達に即した指導案・保育に必要な技術獲得と発表(1時間)
- ・日誌や指導案を用いて自らの実践 を振り返る。(1時間)
- ・園の評価を聞くことで、新たな課題を見出す。(お礼の手紙) (1時間)
- ・実習を振り返り、成果と自己課題 をまとめる。(1時間) 実習の成果と課題を発表する。

(1時間)

# 授業の方法 講義。演習

#### テキスト

『平成29年告示幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領』 文部科学省・厚生労働省・内閣府 チャイルド社、『実習の手引き』埼玉純真短期大学

# 参考書·参考資料等 適宜配布

学生に対する評価 授業参画(30%)、レポート(30%)、模擬授業及び指導案などの提出物(40%) 履修上の注意

本授業は幼稚園教育実習に行くための「事前授業」とそれらを振り返る「事後授業」である。幼稚園 実習(前期・1週間)(後期・3週間)とも事前、事後指導を必ず受けること。

| 実務経験の有無 | 有 | 実務経験 | 持田:元幼稚園勤務、保育所巡回指導員

# 実務経験を活かした教育内容

持田:幼稚園勤務、公立保育所、私立保育園の巡回指導員の経験を活かして、保育者に求められる基礎的な知識と技術、現代社会における幼稚園教諭の課題、クラスづくりなどを学生が具体的に考え、実践、評価できる授業を行う。

卒業必修 幼稚園教諭必修 保育士必修 選択 担当教員名: 単位数:4単位 授業科目名: 教員の免許状取得のための 持田京子、金子智昭 教育実習(幼稚園) **Ⅱ** 必修科目 (4週間) 実習 担当形態:複数 ナンバリング:2810 科目 教育実践に関する科目 施行規則に定める 教育実習 科目区分又は事項等

# 授業の到達目標及びテーマ

- (1) 前期幼稚園教育実習(観察実習)
- ①園の環境及び指導教員と幼児に対して適切な観察を行い、事実に即して記録できる。
- ②園の経営方針及び特色ある教育活動、それらを実施する組織体制を理解できる。
- ③園実務に対する補助的な役割を担い、幼児の実態や課題を把握できる。
- (2)後期幼稚園教育実習(参加実習)
- ①幼稚園教育要領や幼児の実態を踏まえた適切な指導案を作成し、保育実践を行うことができる。
- ②必要な基礎技術を身に付け幼児の体験との関連を考慮して適切な場面で活用できる。
- ③学級担任の役割と職務内容を実施に即して理解し活動の場面で適切に幼児に関わることができる

#### 授業の概要

幼稚園での観察・参加・実習を通して教育者としての愛情と使命感を深め、将来幼稚園教員となる上での能力や適性を考え、課題を自覚する。指導教員のもとで幼児と共に生活することで、保育に対する理解を深め、実地に即しての確かな知識と指導方法を体得する。

## 授業計画「前半/基本実習」 (1週間 ・ 1年次)

- 第1回:園経営及び教育活動の特色への理解を深め、実習に参加する。
- 第2回:幼稚園教師の役割・職務や園の1日の流れ、幼児の実態について具体的に理解する。
- 第3回: 事前準備や学習を基に教師に学び、幼児との関わり方、園 記録の取り方を習得する。
- 第4回: 園実務に対する補助的な役割を知り、実践する。
- 第5回: 幼児の実態とこれらを踏まえた園経営及び教育活動の特色 への理解を深め、実習に参加する。
- 第6回: 幼児とのかかわりを通して。自らの課題を把握する。
- 第7回:部分指導案を立案し、ねらいをもって保育実践をする。 「後半/責任実習」 (3週間 ・2年次)
- 第8回: 園の1日の流れ、保育のねらいを把握し、指導教員の活動の ねらいとその指導の意図に気付き記録する。
- 第9回: 教室、園庭などの環境設定を教師の意図を理解して自ら行う。
- 第10回: 幼児同士の関わりや遊びの発展に目を向け、幼児一人ひとりの特性を理解したうえで援助する。
- 第11回: クラス担任の了承と指導のもとに、事前に責任実習のための教材研究や準備を行う。指導案(細案)を作成し提出する。
- 第12回:指導教員のもとでねらいを持った 「部分実習」を行う。
- 第13回:「部分実習」を行い個と集団に対する指導方法を身に付ける。
- 第14回:「責任実習」クラスの指導者的な立場として幼児を指導する。
- 第15回:指導教員のもとで実習を振り返り、課題を見出し、改善する。

#### 授業時間外の学習

- (1) 幼稚園教育要領を熟読して、ねらいの意味を理解する。 (1時間)
- (2) 実習先の幼稚園に関する 情報を集め。日誌に書き入れる。 (1時間)
- (3) 日誌の書き方を基に一日 の出来事を指導教員に学びつつ 丁寧に書く。(1 時間)
- (4) 幼児の発達年齢を理解 し、それぞれの特徴を踏まえて 実習に臨む。(1時間)
- (5)年齢ごとの指導案作成。(1時間)
- (6) パネルシアター、ペープ サート、絵本読み、手遊び等の 技術を場面に応じて実践できる ようにする。(1 時間)
- (7)季節の歌や生活の歌など 歌の伴奏や歌を場面や必要に応 じて指導できるようにする。(1 時間)

# 授業の方法 実習

テキスト 『よく分かる幼稚園実習』百瀬ゆかり 創成社、『実習の手引き』 埼玉純真短期大学

# 参考書・参考資料等 『幼稚園教育要領』文部科学省 フレーベル館

学生に対する評価 実習園の評価 (50%)、実習日誌・事前事後の取り組み (50%) から総合的に評価。 履修上の注意

- ○「教育実習(幼稚園)Ⅰ」を履修した上でⅡを履修する。
- ○実習資格は、幼稚園教育実習に直接かかわる所定の教科を履修し、実習資格審査によって認められた 者に与えられる。普段の学習態度、生活態度で実習生としてふさわしい生活を心がけること。

実務経験の有無 有 実務経験 持田:元幼稚園勤務、保育所巡回指導員

# 実務経験を活かした教育内容

持田:幼稚園勤務、公立保育所、私立保育園の巡回指導員の経験を活かして、保育者に求められる基礎的な知識と技術、現代社会における幼稚園教諭の課題、クラスづくりなどを学生が具体的に考え、実践、評価できる授業を行う。

# Ⅱ.2年生履修科目



卒業必修	保育士必修	幼稚園教諭必修選択			
授業科目名:	保育士資格取得のため	の 単位数:2単位 担当教員名:金美珍			
レクリエーション概論	選択科目	(半期) 講義 担当形態: 単独			
ナンバリング:1019					
系 列 教養科目					
教科目	外国語、体育以外の	外国語、体育以外の科目			

- 1. 対人支援の場におけるレクリエーションの意義や活用法について理解できる。
- 2. レクリエーション・インストラクターの役割について説明できる。
- 3. レクリエーション・インストラクターとしての具体的な支援技術を習得することができる。

#### 授業の概要

レクリエーションとは何か、レクリエーションの歴史・意義、レクリエーション・インストラクターの役割の理解など、レクリエーション・インストラクターとして必要な知識・技術を身につける。特に実際に対象・目的に合わせたレクリエーション計画の作成、レクリエーションプログラムの作成方法を身につける。

#### 授業計画

第1回:レクリエーションについて

第2回:レクリエーション支援とは

第3回:レクリエーションの理解と歴史

第4回:楽しさを通した心の元気づくり

第5回:ライフステージと心の元気づくり

第6回:レクリエーション支援におけるコミュニケーション

第7回:対象者との信頼関係

第8回:集団づくりの理解

第9回:集団の成長を通した支援者の関わり

第10回:国際交流とレクリエーション

第11回:レクリエーションプログラムの作成①

第12回:レクリエーションプログラムの作成②

第13回:レクリエーションプログラムの作成③

第14回: リスクマネジメント

第15回:レクリエーションをめぐる課題

定期試験:筆記

#### 授業時間外の学習

- ・授業時に配布した資料を参考に振り返りを行う。(1時間)
- ・学習した内容が各自の日常生活にどのように位置づいているかを調べる。(1時間)
- ・レクリエーションは、特別な 理解や技術ではなく、日常生 活を豊かに過ごすための考え 方であり、対象者に寄り添う ための支援技術であることを 普段の生活において意識し、 参考になる資料を集める。

(1時間)

授業の方法 Power Pointを用いたスライドによる講義と演習、実技、グループ作業。

テキスト 『楽しさをとおした心の元気づくり』 日本レクリエーション協会

参考書・参考資料等 適宜授業内で紹介する。

#### 学生に対する評価

定期試験 (30%) 、授業態度 (40%) 、レクリエーションプログラムの作成・実践 (30%)

#### 履修上の注意

授業内容により体育館で行うことがある。その場合、体育館シューズなどを持参すること。 積極的な態度で授業に取り組むこと。

「レクリエーション・インストラクター」を取得希望の学生は、資格取得の必修授業なので必ず受講すること。但し、レクリエーション・インストラクターを取得を希望しない学生でも受講できる。

実務経験の有無 無 実務経験

実務経験を活かした教育内容

卒業必修	保育士必修	幼稚園教諭必修 選択			
授業科目名:	保育士資格取得のため	の 単位数:2単位 担当教員名:原口政明			
子ども家庭福祉	必修科目	(半期) 講義 担当形態: 単独			
ナンバリング:2102					
系 列	保育の本質・目的に	育の本質・目的に関する科目			
教科目	子ども家庭福祉	子ども家庭福祉			

- 1. 子ども家庭福祉の意義と歴史的変遷について理解できる。
- 2. 子ども家庭福祉の制度や実施体系等について理解できる。
- 3. 子ども家庭福祉の現状と課題、動向と展望について理解できる。

#### 授業の概要

子ども家庭福祉の意義、歴史的変遷、制度、現状、動向等について自らの課題意識を持って 学び、アクティブ・ラーニングにより、専門職としての知識を定着させる。

#### 授業計画

第1回:子ども家庭福祉の理念と概念

第2回:子ども家庭福祉の歴史的変遷と諸外国の動向

第3回:子どもの人権擁護

第4回:子ども家庭福祉の制度と実施体制

第5回:子ども家庭福祉の施設と専門職

第6回: 少子化と地域子育て支援

第7回:母子保健と子どもの健全育成

第8回: 多様な保育ニーズへの対応

第9回:子ども虐待・ドメスティックバイオレンスとその防止

第10回: 貧困家庭、外国籍の子どもとその家庭への対応

第11回:社会的養護

第12回:障害のある子どもへの対応

第13回: 少年非行等への対応

第14回:次世代育成支援と子ども家庭福祉の推進

第15回:地域における連携・協働とネットワーク

定期試験:筆記

# 授業の方法 講義・発表 アクティブ・ラーニング。

#### テキスト

『新基本保育シリーズ 子ども家庭福祉』公益財団法人児童育成協会監修 中央法規出版

参考書・参考資料等 授業において適宜プリント資料を配布する。

#### 学生に対する評価

授業参画度(20%)、小テスト(20%)、小レポート(10%)、筆記試験(50%)

#### 履修上の注意

- ・教科書を使って授業を進めるので、必ず予習、復習をしておく。
- ・小レポート、小テストを重視し、全てを評価の対象とする。
- ・小レポートは提出期限を守って提出する。

実務経験の有無 有 実務経験 元中学校理科教諭・校長、元指導主事、幼保巡 回相談・教育相談

#### 実務経験を活かした教育内容

幼児や保護者への相談経験を活かし、具体的な事例を元に授業をする。

# 授業時間外の学習

教科書を使って授業を進めるので、必ず予習をしておく。 小テストは適宜、教科書及 びプリントの内容から出題するので、日常から復習をしっ かりしておく。

(予習・復習:1時間程度)

授業では、アクティブ・ラーニングを取り入れるので、 自分の考えを述べられるよう に、日常から表現力を磨いて おく。

卒業必修		保育士必修		幼稚園教諭必修	177	選択	
授業科目名:	教員の免許状取得のための		のの	単位数:2単位	担当教員名:伊藤道雄		
学校経営と管理	必修科目			(半期) 講義	担当	担当形態:単独	
ナンバリング:2107							
科目	教育の基礎的理解に関する科目						
施行規則に定める	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携						
科目区分又は事項等		及び学校安全への対応を含む。)					
Let the see to be seen as a see							

- 1. 学校を巡る近年の様々な状況の変化の変化を理解できる。
- 2. 公教育の目的を実現するための学校経営の望むべき姿を理解出来る。
- 3. 学級経営の仕組みと効果的な方法を理解できる。

#### 授業の概要

社会の状況を理解し、子どもをめぐる生活の実態を踏まえ、教育の課題や施策を学校と地域との連携や近隣市町村教育庁の講話を聴き理解する。

# 授業計画

第1回:オリエンテーション、保育者の現状と園の経営を知る

第2回:園の経営と管理の実態(子供を巡る近年の様々な状況)

第3回:園の経営と管理の実態(子供の生活の変化)

第4回: 園の経営と管理の実態(子供の課題を知り連携を理解する)

第5回:今日的な課題(クレームと子供の生活の問題点)

第6回:今日的な課題(クレームと保護者の生活)

第7回:今日的な課題(クレームへの留意すべき対応)

第8回:学校の現状と危機管理(子供の生活の変化)

第9回:学校の現状と危機管理(保護者の生活の変化と対応)

第10回:学校の現状と危機管理(学校の組織づくりの留意事項)

第11回:学校の現状と危機管理(組織間の留意事項)

第12回:学校の現状と危機管理(学校や関係機関との連携)

第13回:学校の現状と危機管理(地域との連携)

第14回:安全に関する配慮事項災害と安全教育

第15回:安全に関する配慮事項災害とまとめ

# 定期試験

# 授業時間外の学習

現状を知る(1時間)

- ・課題意識を持って調べる(1時間)
- ・調べ方を工夫する(30分)
- ・事実を整理する(1時間)
- ・クレームの意味を調べる(1時間)
- ・クレームの内容を検討する(1時間)
- ・クレームに対応の方法する(1時間)
- ・子供の事例を調べる(1時間)
- ・保護者の生活を調べる(1時間)
- ・学校の分掌を調べる(1時間)
- ・学校での実態を調べる(1時間)
- ・学校の組織間の実態を調べる(1時間)
- ・事例を調べる(1時間)
- ・問題の理解を深める(1時間)
- ・学習したことをまとめる(1時間)

#### 授業の方法

講義、グループを編成し、課題の調べ、協議、改善案を作成する。PDCAに基づき協議する。

#### テキスト

『死を招いた保育』猪熊弘子著 ひとなる書房

『クレーム対応テキスト』学校保護者関係研究会

#### 参考書 • 参考資料等

『幼稚園教育要領(最新版)』、『保育所保育指針』(最新版)

『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』(最新版)

『小学校学習指導要領』 (平成29年3月31日 文部科学省)

新聞、ニュース等

# 学生に対する評価

定期試験の成績(50%)、小テスト(20%)、受講態度等(30%)を判断して評価する。

#### 履修上の注意

実際の保育所・幼稚園の現場に即して学習を深めてほしいため、実習等の体験を充実してほしい。

# 実務経験を活かした教育内容

校長等の経験を活かし、学校経営全般に関わることを授業する。

卒業必修	保育士必修	幼稚園教諭必修 選択			
授業科目名:	保育士資格取得のため	かの 単位数:2単位 担当教員名:原口政明			
子ども家庭支援論	必修科目	(半期) 講義 担当形態: 単独			
ナンバリング:2108					
系 列	保育の本質・目的に	に関する科目			
教科目	子ども家庭支援論	庭支援論			

- 1. 子育て家庭に対する支援の意義・目的を理解できる。
- 2. 保育の専門性を活かした子ども家庭支援の意義と基本について理解できる。
- 3. 子育て家庭に対する支援の体制、子ども家庭支援の現状と課題について理解できる。

### 授業の概要

子ども家庭支援の意義・目的、子育て家庭への支援の基本姿勢・内容、実践の方法・技術、 子ども家庭支援の課題と現状について理解し、専門職としての知識を定着させる。

教科書を使って授業を進め

るので、必ず予習をしておく。

小テストは適宜、教科書及

びプリントの内容から出題す

るので、日常から復習をしっ

(予習・復習:1時間程度)

授業では、アクティブ・ラ

ーニングを取り入れるので、

自分の考えを述べられるよう

に、日常から表現力を磨いて

おく。

# 授業計画 授業時間外の学習

第1回:子ども家庭支援の意義と必要性

第2回:子ども家庭支援の目的と機能

第3回:子育て支援施策・次世代育成支援施策の推進

第4回:子育て家庭の福祉を図るための社会資源

第5回:保育の専門性を活かした子ども家庭支援とその意義

第6回:子どもの育ちの喜びの共有

第7回:保護者および地域が有する子育てを自ら実践する力の向上にかりしておく。

資する支援

第8回:保育士に求められる基本的態度

第9回:家庭の状況に応じた支援

第10回:地域の資源の活用と自治体・関係機関等との連携・協力

第11回:子ども家庭支援の内容と対象

第12回:保育所等を利用する子どもの家庭への支援

第13回:地域の子育て家庭への支援

第14回:要保護児童およびその家庭に対する支援

第15回:子育て支援に関する課題と展望

定期試験:筆記

# 授業の方法 講義・発表 アクティブ・ラーニング

## テキスト

『新基本保育シリーズ 子ども家庭福祉』公益財団法人児童育成協会監修 中央法規出版

参考書・参考資料等 授業において適宜プリント資料を配布する。

#### 学生に対する評価

授業参画度(20%)、小テスト(20%)、小レポート(10%)、筆記試験(50%)

#### 履修上の注意

- ・教科書を使って授業を進めるので、必ず予習、復習をしておく。
- ・小レポート、小テストを重視し、全てを評価の対象とする。
- ・小レポートは提出期限を守って提出する。

実務経験の有無 有 実務経験 元中学校教諭・校長、元指導主事、幼保巡回相 談・教育相談

# 実務経験を活かした教育内容

幼児や保護者への相談経験を活かし、具体的な事例を元に授業をする。

-54-

卒業必修	保育士必修	幼稚園教諭必修 選択			
授業科目名:	保育士資格取得のための	の 単位数:2単位 担当教員名:布施由起			
子ども家庭支援の	必修科目	(半期) 講義 担当形態: 単独			
心理学					
ナンバリング:2203					
系 列	保育の対象の理解に	里解に関する科目			
教科目	子ども家庭支援の心	子ども家庭支援の心理学			

- 1. 生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得し、初期体験の重要性、各時期の移行、発達 課題等について理解する。
- 2. 家族・家庭の意義や機能を理解し、子どもとその家庭を包括的にとらえる視点を習得する。
- 3. 子育て家庭をめぐる社会の状況と課題を理解し、現代の子どもの精神保健と課題を知る。

#### 授業の概要

生涯発達についての理解を深め、家族・家庭の意義や現代社会の動向などを学ぶと共に、子 どもの心の問題について学習する。

# 授業計画

第1回:生涯発達について

第2回:乳幼児期から学童期前期までの発達

第3回:学童期後期 から青年期までの発達

第4回:成人期・老年期までの発達

第5回:家族・家庭の意義と機能

第6回:親子関係・家族関係の理解

第7回:子育ての経験と親としての育ち

第8回:子育て家庭に関する現状と課題

第9回:子育てを取り巻く 社会的状況

第10回:ライフコースと仕事・子育て

第11回: 多様な家庭とその理解

第12回:特別な配慮を要する家庭(養育者のメンタルヘルス)

第13回:子どもの生活・生育歴とその影響

第14回:子どもの心の健康にかかわる問題(精神疾患)

第15回:子どもの心の健康にかかわる問題(発達障害、他)

# 定期試験

授業の方法 講義・グループ演習やワーク。

テキスト 『子ども家庭支援の心理学』 本郷一夫・神谷哲司 編集 建帛社

参考書・参考資料等 授業内で紹介する。

学生に対する評価

授業態度(20%)、小レポート(30%)、定期試験(50%)

## 履修上の注意

受講にあたっては、教科書、参考文献等を参考に事前事後の学習を行い、グループでの演習には積極 的に取り組むこと。

実務経験の有無

有 実務経験 クリニック勤務(臨床心理士、公認心理師)

実務経験を活かした教育内容

精神科クリニック勤務の経験を活かして講義を行う。

授業時間外の学習

- ・授業前に教科書、参考文献 等をもとに学習し、関心の ある点、疑問点を整理して おく。疑問点については、 調べておく。
- ・授業後は参考文献等により 関心のあるテーマについて の理解をさらに深め、学習 した内容についてまとめて おく。
- ・授業前後には、合わせて 1時間程度の自主学習を要 する。

卒業必修	保育士必修	幼稚園教諭必修 選択
授業科目名:	保育士資格取得のため	かの 単位数:1単位 担当教員名:池田夏葉
子どもの理解と援助	必修科目	(半期) 演習 担当形態: 単独
ナンバリング:2204		
系 列	保育の対象の理解は	に関する科目
教科目	子ども家庭支援の心	心理学

- 1. 子ども一人一人の心身の発達や学びを把握することの意義について説明できる。
- 2. 子どもを理解するための基本的な考え方、具体的な方法について説明できる。
- 3. 子どもの理解に基づいた保育実践における子どもへの援助について説明できる。

#### 授業の概要

子どもを援助する際、子どもの発達や学びの状態を十分に理解し、対応していくことが重要である。本授業では、子ども一人一人の発達や学びを把握する意義を理解した上で、子どもを理解するための基本的な考え方・視点、具体的な方法について学んでいく。そして、子どもの発達に応じた援助や特別な配慮を要する子どもへの援助など、子どもの理解に基づいた保育実践における援助や態度の基本について考える。

# 授業計画

第1回:子どもの発達や学びを把握・理解することの意義

第2回:子どもの理解に基づいた養護及び教育の一体的展開

第3回:子どもへの共感的理解と関わり

第4回:子どもを理解する視点(子どもの生活や遊び)

第5回:子どもを理解する視点(人的環境としての保育者)

第6回:子どもを理解する視点(子ども相互の関わり)

第7回:子どもを理解する視点(集団における経験)

第8回:子どもを理解する視点(葛藤やつまずき)

第9回:子どもを理解する視点(保育の環境)

第10回:子どもを理解する視点(環境の変化や移行)

第11回:子どもを理解する方法(観察、記録、省察・評価)

第12回:子どもを理解する方法(職員間の連携、保護者との連携)

第13回:子どもの発達の課題に応じた援助

第14回:特別な配慮を要する子どもの理解と援助

第15回: 就学への支援

# 定期試験:筆記

# 授業時間外の学習

- ・子どもの実態に応じた発達 や学びを把握することの意 義について、文献等も読ん でさらに理解を深め、レポ ートにまとめる。
- ・子どもを理解するための視点や具体的な方法について、実習での経験も振り返りレポートにまとめる。
- ・特別な配慮を要する子ども をどのように理解し、保育 実践においてどのように援 助していくかについてレポ ートにまとめる。
- ・予習、復習には1~2時間程度の時間が必要である。

病院・クリニック勤務(臨床心理士、公認心理師)

# 授業の方法 講義、グループでの演習(グループワーク、ディスカッション)

#### テキスト

『子どもの理解と援助-育ち・学びをとらえて支える』無藤隆・堀越紀香・丹羽さがの・古 賀松香編著 光生館

# 参考書・参考資料等 授業の中で紹介する。

有

実務経験

# 学生に対する評価

授業態度(20%)、小レポート(20%)、小テスト(10%)、定期試験(50%)

# 履修上の注意

実務経験の有無

・受講にあたっては、教科書、参考文献等を参考に事前事後の学習を行い、グループでの演習には 積極的に取り組むこと。

実務経験を活かした教育内容

病院・クリニックにおいて発達に課題を抱えた子どもへの援助を行っている経験を活かし、より実践的な援助について理解を深められるよう授業を行う。

-56-

卒業必修	保育士必修		幼稚園教諭必修		選択
授業科目名:	保育士資格取得のための		単位数:2単位	担当教員名:	
子どもの食と栄養	必修科目		(半期) 演習	庄司豊、庄司久美子	
ナンバリング:2206				担当	形態:オムニバス
系 列	保育の対象の理解	保育の対象の理解に関する科目			
教科目	子どもの食と栄養	子どもの食と栄養			

- 1. 五大栄養素について説明できる。
- 2. 乳児期から幼児期の栄養補給の特徴を理解し、説明できる。
- 3. 調理の際、食の安全を考え、衛生的に作業できる。

#### 授業の概要

子どもの発育・発達・健康増進のために必要な栄養学、正しい食生活のあり方、食事方法等についての基本的な知識を学習する。講義および実習から、食の大切さや食育の重要性を理解し、子どもの身体状況や栄養状態に応じた支援ができるような知識と経験を身につける。

授業計画

第1回:栄養に関する基礎知識① 糖質について

第2回:栄養に関する基礎知識② たんぱく質について

第3回:栄養に関する基礎知識③ 脂質について

第4回:栄養に関する基礎知識④ ビタミン、ミネラルについて

第5回:実習① (乳汁栄養)

第6回:実習②(離乳食)

第7回:離乳食期栄養について

第8回:実習③(幼児食・調理の基本) 第9回:実習④(幼児食・調理の基本)

第10回:実習⑤(アレルギー対応食)

第11回: 幼児期栄養について

第12回:食育について

第13回: 食の安全①(食中毒・感染症など) 第14回: 食の安全②(食物アレルギーなど)

第15回:まとめ 定期試験:筆記

授業の方法 講義、グループワークおよび実習。

プリントまたはレポートに対する講評は、授業中に伝える。

テキスト 『子どもの食と栄養』児玉浩子著 中山書店

参考書・参考資料等 関連項目に関するプリント配布など。

学生に対する評価

定期試験の成績(40%)、プリントまたはレポート(30%)、実習および受講態度等(30%)

#### 履修上の注意

- ・授業は常にしつかりと聞くこと。
- ・実習での作業手順を説明したプリントはよく読んで理解し、実行すること。
- ・課題は必ず提出すること(期限厳守)。

実務経験の有無 無 実務経験

実務経験を活かした教育内容

授業時間外の学習

授業計画に基づき、教科書の 対応箇所を事前に読んでおく

(1時間程度)。

講義および実習後に、教科書 や配布プリントを復習する。

また関連する内容につい調べ 学習を行い、理解を深める

(1 時間程度)。

実習で学んだことに関して は、各自もう一度実施するこ

とが望ましい(1時間程度)。

卒業必修 保育士必修 幼稚園教諭必修 選択 授業科目名: 単位数:1単位 担当教員名: 教員の免許状/保育士資格 保育内容 (環境) 取得のための必修科目 (半期) 小礒伸一、後藤雅浩 指導法 担当形態:オムニバス ナンバリング:2305 領域及び保育内容の指導法に関する科目/保育の内容・方法に関す 科 目/系 列 る科目 施行規則に定める 保育内容の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。) 科目区分又は事項等 /保育内容演習 /教科目

授業の到達目標及びテーマ

- 1. 子どもと環境のかかわりと成長について理解し、適切な環境設定ができる。
- 2. 保育環境の具体的なデザインの方法を身につける。
- 3. 花育や自然の遊具を作成し、その管理や体験を通して、保育に取り入れる方法を身につける。

#### 授業の概要

子どもは、身近な人々、自然、もの、に関わることで、興味や関心を増幅し新しい発見をしながら成長していく。ここでは、①子どもと環境のかかわりと成長の理解 ②保育環境の具体的なデザインの方法 ③保育者の柔軟で適切な援助のあり方の3点を中心に、保育者として理 解しておきたい「環境」について学ぶ。また、「季節感」を意識した花育や自然の遊具を作成 し、その管理や体験をとおして繊細な観察能力と優しい心を育成し、保育を取り巻く環境の改

善と工夫のできる保育者になれるようにする 授業時間外の学習 第1回:ガイダンス〜幼児教育の基本と保育内容「環境」〜 (担当:小礒) 事前に図書館で花育の理解 第2回: 幼児期にふさわしい環境と環境構成の実際 (担当:小礒) 植物の保育効果を事前学習 感動や発見を写真で提出 植物の特殊能力を事前学習 アロマの効果について事前学習 第3回: 花育と保育・植物の保育効果 (担当:小礒) 第4回:センスオブワンダーの理解①IPをカラーサンドで作成 (担当:小礒) 第5回:センスオブワンダーの理解②植物を利用した作品作り (担当:小礒) 植物栽培方法を事前に調べる 第6回:センスオブワンダーの理解③アロマテラピーの理解 保育への取り入れ方を考え、 (自然物で虫よけスプレーの作成) 指導案を作成する (担当:小礒) 第7回:自然に親しみ植物に触れる保育の実際① 植物の栽培(計画立案-指導案の作成) (担当:小礒) 第8回:自然に親しみ植物に触れる保育の実際② 保育園や幼稚園の小動物について 植物の栽培(栽培の実践-模擬保育) (担当:小礒) 事前学習テーマについての調べ学習 第9回:自然に親しみ植物に触れる保育の実際③ 動物の触れ合いの記録を情報機 器を使用しまとめる 植物の栽培(実践の振り返りと改善) (担当:小礒) 屋外体験の準備 第10回:自然に親しみ動物に触れる保育の実際① (小動物との接し方について、映像資料などで学ぶ) (担当:小礒) 第11回:自然に親しみ動物に触れる保育の実際② 屋外体験から学んだことを (ICTを活用し、観察、記録を行う。) まとめる (担当:後藤) 第12回:自然に親しむ環境体験(屋外での調理準備) (担当:後藤) (小磯) 6時間(資料収集と実施計 第13回:自然に親しむ環境体験(屋外での調理) (担当:後藤) 画及び、授業実施後の子どもの反 第14回:自然に親しむ環境体験(屋外での食事) (担当:後藤) 応など) 第15回:自然に親しむ環境体験(まとめ) (担当:後藤) (後藤)事前に参考文献などをチェ ックしたり授業で行うスピーチ 定期試験

業の方法 講義と演習・実技(作品の維持管理) 実際の山羊などに触れたり自然観察、田畑作業、

を行う。 屋外での調理など体験学習する。

『保育実践に生かす保育内容「環境」』 上田修著 保育出版社

# 参考書・参考資料等

『農と都市近郊の田園暮らし』後藤雅浩著 毎日新聞社

必要に応じて図書館で植物図鑑や動物図鑑を調べる。 『幼稚園教育要領』(最新版)、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』(最新版) 『保育所保育指針』(最新版)

## 学生に対する評価

提出物やレポート (50%)作品の維持管理、生育状況(30%)参加態度(20%)を総合して評価する。

の内容の確認及び練習(2 時間)

#### 履修上の注意

持ち帰り作品の実費@2,000円徴収(4回分)予定。

生物の維持管理にかかわる積極的な行動と適切な対応を心がけること。

また、実地、屋外での演習では、汚れてもいい服、歩きやすい踵の低い靴。観察用のノート筆記具を 持参。模擬授業、発表の場に対し、しっかりと準備して積極的に取り組むこと

実務経験の有無 実務経験 |有 小磯:花育活動

#### 実務経験を活かした教育内容

小磯:年6回から10回実施している花育活動(花の園芸講習会、保育園花育活動、大人とこどもの環境体 験(お米の生産体験)など)生かした花育活動(プランター花壇の作成と生育管理、育てた花を使った作品作 成)を行う。

卒業必修	保育士必修		幼稚園教諭必修	17.5	選択		
授業科目名:	教員の免許状/保育士資	資格	単位数:1単位	担当	教員名:細田香織		
保育内容 (言葉)	取得のための必修科目	1	(半期) 演習	担当	形態:単独		
指導法							
ナンバリング:2306							
科 目/系 列	領域及び保育内容の る科目	領域及び保育内容の指導法に関する科目/保育の内容・方法に関する科目					
 施行規則に定める	保育内容の指導法	(	機哭及び麹材	の活し	田を全む )		
科目区分又は事項等	/保育内容演習	עד מו)		V 2 1 Ц /	115 1150 /		
/教科目							

- 1. 領域「言葉」のねらい及び内容、全体構造を理解できる。
- 2. 乳幼児の発達や学びの過程を理解し、領域「言葉」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を身につけることができる。
- 3. 自らの「言葉」を内省し、保育者としての言語環境の向上に努める姿勢を培うことができる。

#### 授業の概要

領域「言葉」について理解した上で、保育実習等の実践を経ての知見も含めた意見交換を行い学びを深めながら、主体的に学ぶ。保育者として子どもの「言葉」を受け止め、かかわり、子どもが主体的に言葉で表現できるような環境づくりができるよう、具体的な指導法について考える。

## 授業計画

第1回:「言葉」の持つ力-自己肯定感と言葉の関係-

第2回:保育における「言葉」とは - 領域「言葉」のねらい及び内容-

第3回:領域「言葉」のねらいや内容を生かした指導案・週案の例 (教材研究)

第4回:「言葉」の領域を意識した指導案を作成してみよう (ICTでの情報を用いて)

第5回:言葉を育てる保育者の役割と援助

(小学校との接続~ICTでの情報を用いて~)

第6回: 実習に向けて: 保育者の言葉・子どもの言葉の観察の視点

(模擬保育)

第7回:実習を終えて (報告交流会~指導案の振り返り~)

- 子どもの言葉・保育者の言葉からの発見・学びの交流 -

第8回:「わたし」をつくる言葉(イヤイヤ期について)

第9回:乳幼児期の発達と言葉

第10回:コミュニケーション能力と発達の過程(脳科学等から)

第12回:より良い言葉がけ

- 発達障害の子どもの認知の特徴も考慮して -

第13回 : お便り帳の意義と書き方(基本的考え方・注意点等) 第14回 : 児童文化財の活用 - 素話・絵本・紙芝居・幼年童話 -

第15回:保育者が自身の「言葉」の力を高めることの必要性とその 方策

実務経験

定期試験

## 第11回:好奇心の出現-質問期の子どもへの対応と保育の展開-

## 授業の方法

グループ活動、クラスでの意見の交流、ICTの活用もして授業を行う。

テキスト 『子どもの育ちと「ことば」』横山真貴子編著 保育出版社

## 参考書・参考資料等

『子どもとことば』岡本夏木著 岩波書店、『ことばと発達』岡本夏木著 岩波書店 『幼稚園教育要領』(最新版)、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』(最新版)

#### 学生に対する評価

実務経験の有無

授業への参加度(グループ討議・毎授業振り返りプリントの内容など)(50%)、筆記試験(50%) 履修上の注意

主体的に学び、個人の学びを他者と交流することで多様な指導法の可能性を探求する意識を持つこと。

無

実務経験を活かした教育内容

# 授業時間外の学習

- ・毎回、授業の最初に一人ず つ絵本の読み聞かせを行 う。担当者は、必ず下読み をして準備をしてくるこ と。(20分程度)
- ・授業の中で実習や保育現場でよく使う漢字や、敬語、 差別語等の小テストを行う ので時間外も学習すること。(30分程度)
- ・自らの言葉遣いを内省し、 日常から用いる言葉を丁寧 に、相手に伝わるよう意識 して用いること。

卒業必修		保育士必修		幼稚園教諭必修	17.	選択
授業科目名:	教員	の免許状/保育士資	資格	単位数:1単位	担当	i教員名:小澤和恵
保育内容(音楽表現)	取得のための必修科目		丨目	(半期)演習	担当	形態:単独
指導法						
ナンバリング:2307						
科 目/系 列	領域及び保育内容の指導法に関する科目/保育の内容・方法					保育の内容・方法に関す
		る科目				
施行規則に定める		保育内容の指導法	(情幸	<b>股機器及び教材</b>	の活	用を含む。)
科目区分又は事項等		/保育内容演習				
/教科目						

- 1. 領域「表現」のねらいと内容を理解し、子どもの音楽表現における指導法を身につけることができる。
- 2. 具体的な音楽表現活動を想定して指導案を作成し、実践(模擬保育)することができる。
- 3. 音楽表現活動に、情報機器及び教材を活用することができる。

#### 授業の概要

領域「表現」のねらいと内容を理解し、子どもの表現意欲を養い、創造性を豊かにするような音楽表現の指導法を身につける。

授業時間外の学習
(毎回それぞれ指示した予
習・復習を1時間)
<ul><li>・テーマについての調べ学習</li></ul>
・毎回、順番で遊び歌の模擬
授業を行うので、指導案作
成と発表準備と練習をする
<ul><li>・合奏曲の編曲の仕上げ</li></ul>
<ul><li>・合奏曲発表の準備・練習</li></ul>
<ul><li>・テーマについての調べ学習</li></ul>
<ul><li>・テーマについての調べ学習</li></ul>
• 指導案作成
・模擬授業の準備
<ul><li>模擬授業の振り返り</li></ul>
<ul><li>・テーマについての調べ学習</li></ul>
• "
• "

## 授業の方法 講義と演習

テキスト 『実践しながら学ぶ子どもの音楽表現』石井玲子編著 教育情報出版

#### 参考書 · 参考資料等

『コンパクト版保育内容シリーズ『音楽表現』』谷田貝公昭監修 一藝社

『幼稚園教育要領』(最新版)、『保育所保育指針』(最新版)

『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』(最新版)

## 学生に対する評価

ワークシートや指導案などの提出物(30%)、授業内の発表・受講態度(20%)、定期試験の成績(50%)で評価する。

#### 履修上の注意

模擬授業発表の場に対し、しっかりと準備して積極的に取り組むこと。何事にも興味・関心をもち、心の枠を広げられるように臨んでほしい。

実務経験の有無 有 実務経験 元中学校音楽科教諭

## 実務経験を活かした教育内容

音楽授業実践の経験を活かし、具体的な歌唱、器楽合奏の授業実践方法の指導を行う。

卒業必修	保育士必修		幼稚園教諭必修	,	選択	
授業科目名:	教員の免許状/保育士資	資格	単位数:1単位	担当	教員名:小日向千秋	
保育内容(造形表現)	取得のための必修科	· 目	(半期)演習	担当	形態:単独	
指導法						
ナンバリング:2308						
科 目/系 列	領域及び保育内容の る科目	領域及び保育内容の指導法に関する科目/保育の内容・方法に る科目				
施行規則に定める	保育内容の指導法	保育内容の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)				
科目区分又は事項等	/保育内容演習					
/教科目						

- 1. 深い観察力や実素材を扱う技能を身につけ、自由な発想を具体的に表現することができる。
- 2. 造形に関する技術や知識を深め、指導者としての応用力を持つことができる。
- 3. 子供たちの創造力を養い伸ばす為に必要な、指導者としての意識と技術を習得し、造形表現 を通して子どもの成長を促す能力を身につける。

#### 授業の概要

保育の現場で必要となる造形表現の実践と共に、造形表現の根幹となる実素材による制作、 観察などの課題を通して制作力、実行力、指導力を育成する。

授業計画	授業時間外の学習
第1回:ガイダンス、教材の調査とプランニング	・次課題に関する情報を集め、
第2回:情報機器を使用しての情報収集・教材研究	アイディアを得る
第3回:ペープサート 研究及び制作	・制作に関する資料を集め、ア
第4回:ペープサート 発表と講評会	イデアスケッチ(エスキー
第5回: 陶芸 土鈴 制作	ス)を行う
第6回:陶芸 器と日用品 制作	・制作プランニングに従い、常
第7回:絵画観察と表現 植物を描く 素描	に、授業外でも完成に向け
第8回:絵画観察と表現 植物を描く 彩色 講評会	て、制作、資料収集をする。
第9回:陶芸 施釉、彩色	
第10回:木版画 多色刷りの絵葉書を作る 調査・研究	上記を含め予習、復習に1~2
第11回:木版画 制作 (下絵・色分割・トレース)	時間程度
第12回:木版画 制作 (彫刻)	
第13回:制作活動に関する指導案を作成する	・時間内に完成しなかった制
	作は次回までに自主的に完
第14回 : 保育における制作活動発表(模擬保育)	成させる
第15回:発表の振り返り・講評会	
定期試験:レポート	・制作活動に関する指導案を
	作成する

## 授業の方法

実技、演習。

前課題の提出を義務付ける。

## テキスト 適宜プリントを配布する。

#### 参考書・参考資料等

適宜プリントを配布する。図書館等での資料収集を各課題ごとに適宜指導する。 『幼稚園教育要領』(最新版)、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』(最新版) 『保育所保育指針』(最新版)

## 学生に対する評価

提出作品(40%)、受講態度(20%)、創作への意欲(20%)、レポート(20%)を総合的に評価する。

## 履修上の注意

怪我等の事故が起こらないよう安全に留意すること。汚れても良い服装で授業に臨むこと。 授業終了時に必ずかたづけ、清掃を行うこと。

実務経験の有無 無 実務経験

実務経験を活かした教育内容

卒業必修	保育士必修	幼稚園教諭必修	選択		
授業科目名:	教員の免許状/保育士賞	<b>資格</b> 単位数:1単位	担当教員名:村松知香		
保育内容(身体表現)	取得のための必修科目	(半期)演習	担当形態:単独		
指導法					
ナンバリング:2309					
科 目/系 列	領域及び保育内容の指導法に関する科目/保育の内容・方法に る科目				
施行規則に定める	保育内容の指導法	(情報機器及び教材	の活用を含む。)		
科目区分又は事項等					
/教科目					

- 1. 領域「表現」のねらいと内容を理解し、子どもの身体表現における指導法を身につけることができる。
- 2. 具体的な身体表現活動を想定して指導案を作成し、実践できる。
- 3. 様々な動きを応用し、子どもの身体表現活動に活用することができる。

## 授業の概要

領域「表現」のねらいと内容を理解し、子どもの表現意欲を養い、創造性を豊かにするような身体表現の指導法を身につける。

授業計画	授業時間外の学習
第1回:領域「表現」における身体表現	
第2回:身体を使ったコミュニケーション遊び	・日頃から表現としてのジェ
第3回:身体を使ったコミュニケーション遊びの指導法	スチャーや動作に意識をも
第4回:用具を用いた運動遊び	つ。 (毎日 10~15 分)
第5回:用具を用いた運動遊びの指導法	・コミュニケーション遊びの
第6回:リズムに合わせた身体表現	レパートリーを広げる。
第7回:リズムに合わせた身体表現の指導法	(1 時間)
第8回:身体表現活動の指導案作成、模擬保育の準備	・指導案の作成。(3 時間)
第9回:身体表現活動模擬保育 Aグループ発表と振り返り	・模擬保育の準備。(2 時間)
第10回:身体表現活動模擬保育 Bグループ発表と振り返り	
第11回:身体表現創作①テーマを決める	
第12回:身体表現創作②パート創作	・ステージ発表に向けて、グ
第13回:身体表現創作③全体練習(撮影-動きの確認と改善)	ループ、クラスで自主練習。
第14回:身体表現創作④全体練習	(2 時間)
第15回:身体表現創作⑤ステージ発表	・ステージスタッフとの打ち
定期試験:パート創作の実技試験、レポート	合わせ。 (1 時間)

## 授業の方法 実技、演習。

## テキスト なし

## 参考書・参考資料等

適宜、必要な資料を配布する。

『幼稚園教育要領』(最新版)、『保育所保育指針』(最新版)

『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』(最新版)

## 学生に対する評価

定期試験(50%)、授業への取り組み姿勢(50%)で評価する。

## 履修上の注意

必ず時間までに指定のジャージに着替え、シューズを履いていること。

また、ネックレス及び指輪、イヤリング等の装飾品は外すこと。

実務経験の有無 無 実務経験

## 実務経験を活かした教育内容

卒業必修	保育士必修	幼稚園教諭必修	ry.	選択		
授業科目名:	教員の免許状/保育士	資格 単位数:1単位	担当都	<b>教員名:小澤和恵</b>		
保育内容応用指導法	取得のための必修科	目 (半期)演習	担当开	形態:クラス分け		
ナンバリング:2310						
科 目/系 列	領域及び保育内容	<b>具育の内容・方法に関す</b>				
	る科目	る科目				
施行規則に定める	保育内容の指導法	保育内容の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)				
科目区分又は事項等						
/教科目						

- 1. オペレッタに取り組み、保育内容5領域を総合的に捉えた指導法を身につけることができる。
- 2. 台詞、歌、動きの練習と衣装や大道具、小道具制作をとおし、想像力、創造力、表現力をつけることができる。
- 3. 協力してひとつの作品を作り上げる過程の中で、協調性・社会性を高めながら、問題解決能力や課題遂行能力を身につけることができる。

#### 授業の概要

保育内容5領域に対応した横断的、総合的指導法を学習する授業としてオペレッタに取り組む。台詞、歌、それに伴う動き、衣装や大道具、小道具制作、様々な体験の中から、想像力、創造力、表現力、協調性が養われ、幼児教育者としての資質を高めていく。

授業計画	授業時間
第1回:オリエンテーション	(各回指
(授業の進め方、この授業で何を学ぶか、演目の決定)	1 時間
第2回:台本読み合わせ、作品の理解、配役と役割分担	
第3回:歌、台詞の練習(役ごとに練習)	
第4回:歌、台詞の練習(場面ごとに練習)	演目に関
第5回: 歌、台詞の練習(全体練習)	時代書
第6回:歌、台詞の練習後、意見交換	原作を
第7回:歌、台詞に動きをつける練習(役ごとに練習)	
第8回:歌、台詞に動きをつける練習(場面ごとに練習)	個々の名
第9回:歌、台詞に動きをつける練習(全体練習)	歌、台
第10回:歌、台詞に動きをつける練習後、意見交換	衣装、
第11回:小道具、大道具を使用しての練習(場面ごとに練習)	, , ,
第12回:小道具、大道具を使用しての練習(全体練習)	
第13回:衣装をつけ、小道具、大道具を使用しての練習	
(撮影-演出方法の工夫と改善)	
第14回:リハーサル(全体練習)	
第15回:表現発表会での上演	ステーシ

受業時間外の学習

(各回指示した内容を 1時間程度)

演目に関する資料収集 時代背景を調べる 原作を読む

個々の役割に応じて

歌、台詞、動きの自主練習 衣装、小道具、大道具制作

ステージスタッフとの打ち合わせ

授業の方法 実技、演習。履修者全員で話し合いながら作り上げていく。

## テキスト 決定演目の台本

## 参考書 · 参考資料等

定期試験:レポート

演目の原作や演目に関する資料

学生自身も、表現力を高めるための関係資料を収集し情報交換を行う。

『幼稚園教育要領』(最新版)、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』(最新版) 『保育所保育指針』(最新版)

## 学生に対する評価

「取り組み表」と「振り返りアンケート」(50%)

受講態度と発表(表現力と協調性という観点から)(50%)を判断して評価する。

#### 履修上の注意

発表に向けて、意欲的に取り組むこと。

実務経験の有無 有 実務経験 元中学校音楽科教諭

## 実務経験を活かした教育内容

授業実践の経験を活かし、企画・運営の方法と具体的な練習方法を取り入れていく。

卒業必修		保育士必修		幼稚園教諭必修	0.5	選択	
授業科目名:	教員	の免許状/保育士賞	译格	単位数:1単位	担当	教員名:持田京子	
保育内容応用指導法	取得のための必修科目			(半期) 演習	担当	形態:クラス分け	
ナンバリング:2310							
科 目/系 列		領域及び保育内容の指導法に関する科目/保育の内容・方法に関す					
		る科目					
施行規則に定める		保育内容の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)					
科目区分又は事項等							
/教科目							

- 1. 幼児教育の基本と保育内容5領域のねらいと内容を総合的に理解した上で、それらをもとに幼 児期における豊かな感性と表現力を育むための指導方法を探求できる。
- 2. 幼児期の特性や幼児の体験とを関連付けた様々な指導方法を自分なりの視点から考案し、指 導案を立て、そのねらいや内容とその意義を説明することができる。
- 3. 幼児教育者として幼児の前で発表するための、豊かな表現力や技法(話法、環境構成、保育 技術とその展開の在り方)を身につけ、具体的な指導場面を想定し、その発表までの過程を 計画して実際の保育現場でも活用することができる。

#### 授業の概要

この授業では幼児が園生活の中で、豊かな感性と表現力を育むための指導方法を探求する。 そして教師の表現技術を通して、幼児が教師と関わる体験の重要さを知る。そして、様々な指 導技術を応用する方法を情報機器活用も含めて学ぶと同時に、自ら必要と思われる技術を選択 し、文献や実践を調べてその発表準備をする。発表にあたっては発表及びその後の振り返りま での過程に目を向けて記録し、取り組みレポートを作成して保育現場で活かせるようにする。

#### 授業計画

## 第1回: 幼児教育を行うための基本を理解し、幼児主体の保育方法に ついて考察する。

- 第2回: 幼児の資質・能力を育成するためにはどの様な保育を行えば よいのか、各領域から討議し、まとめる。
- 第3回:各領域のねらいと内容を踏まえ、幼児が身につけていくべき 内容と指導上の留意点について理解する。
- 第4回:各領域のねらいと内容を活かした指導方法を調べ、その成果 を発表する。
- 第5回: 幼児教育においては、何を評価するのか、何の為に評価する のか、それらをどう生かすのか、評価の考え方を理解する。
- 第6回: 幼児の活動の見方、そして小学校へとつながる幼児教育は何 かを領域ごとに理解する。
- 第7回:幼児期の特性は何か、それらを基にした幼児主体の遊びを通 した幼児教育がどのような形で成されているか、様々な保育 方法について調べて発表する。
- 第8回:保育を行う上での情報活用能力と幼児期の在り方について 話し合い、活用及び育成について発表する。
- 第9回:保育を行う上での基礎的な技術を自分で選び、教材研究を行 い製作準備をする。 (例 お誕生会の劇発表)

第10回:保育を行う上での基礎的な指導方法を自分で選び、長 期的、短期的な指導計画を立案し、実践、発表する準・グループで課題を決め、発表計画

#### 授業時間外の学習

- ・幼稚園教育要領「遊びを通しての 総合的な指導」を熟読する。(1
- ・幼児の資質・能力を育成するため の方法を自分なりに考えてまと める。(1時間)
- 各領域のねらいと内容を活かした 指導方法を調べ、発表準備をす る。(1時間)
- ・幼児の活動とその評価の意味を考 えまとめる。(1時間)
- ・映像から、幼稚園における評価の 意味を考えまとめる。(1時間)
- ・学びを小学校へどうつなげればよ いか、テキストや資料を参考にま とめる。(1時間)
- ・実際に行われている様々な指導法 を調べる。(1時間)
- ・様々な情報機器の指導方法と活用 方法を考える。(1時間)
- ・グループで課題を決め、教材研究 をした上で指導案を作成する (例・劇発表) (1 時間)

備をする。

(例 秋の音楽会開催)

第11回:実際に、幼児が発表する、そのねらいや内容及び意義を他者に理解できるように工夫して発表する。

第12回:実際に、幼児が発表する、そのねらいや内容及び意義を他者に理解できるように工夫して発表する。また自ら評価す

る視点を持ち発表すると同時に他の発表に学ぶ。 第13回:自らの発表の過程を振り返り、話し合い、意見交換する。

第14回: 幼児の興味・関心ある体験を学びに活かすにはどうしらよいか、今後に向けての改善を考える。

第15回:子どもたちが豊かに育つための指導方法の課題をまとめる。

定期試験:レポート

を立てる。日案(1時間)

- ・グループで話し合い、発表準備を する。(1時間)
- ・実際に子どもたちが演じることを 想定して準備をする。(1 時間)
- ・発表準備をする。(1時間)
- ・他の発表を評価して、その良さと 課題をまとめる。(1 時間)
- ・発表までの過程を振り返り、 皆で話し合い、さらなる改善や 修正に努める。(1時間)
- ・幼児の体験を学びに活かすための 方法についてまとめる。(1 時間)
- ・今後の指導方法の課題をまとめる。 (1時間)

#### 授業の方法 講義・演習。

#### テキスト

『幼稚園教育要領』(最新版)、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』(最新版) 『保育所保育指針』(最新版)

## 参考書・参考資料等 適宜配布

## 学生に対する評価

発表までの取り組み(70%)、レポート(30%)を判断して評価する。

#### 履修上の注意

本教科は、既に学んだ保育内容の基本的な考え方をもとに、どのように保育を展開したらよいのかを 実践的に学び発表する授業である。真摯に取り組み、十分な準備をして授業を受けてください。また、 学生同士協力して良い学びと発表ができるように取り組んでください。

実務経験を活かした教育内容

実務経験の有無 有 実務経験 元幼稚園勤務、保育所巡回指導員

幼稚園勤務、公立保育所、私立保育園の巡回指導員の経験を活かして、保育者に求められる基礎的な知識と技術、現代社会における保育士の課題、クラスづくりなどを学生が具体的に考え、実践、評価できる授業を行う。

## -65-

卒業必修		保育士必修		幼稚園教諭必修	17.5	選択	
授業科目名:	教員	の免許状/保育士賞	译格	単位数:1単位	担当	教員名:小日向千秋	
保育内容応用指導法	取	7得のための必修科目		(半期)演習	担当	形態:クラス分け	
ナンバリング:2310							
科 目/系 列		領域及び保育内容の指導法に関する科目/保育の内容・方法に関す					
		る科目					
施行規則に定める		保育内容の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)					
科目区分又は事項等							
/教科目							

- 1. 美術分野という視点から保育内容を捉え、各自がテーマを決めて自由制作を行うことができる。
- 2. 自身の興味を追求し、豊かな感性とそれに見合う実現能力をもつことができる。
- 3. 各自が企画・制作をおこない、自主性と実行力を身につけることができる。

## 授業の概要

美術分野という視点から保育内容を捉え、各自がテーマを決めて自由制作を行うことにより、 創造力と表現力 自主性と実行力が養われ 幼児教育者としての資質を高めていく

創造刀と表現刀、目王性と実行刀か養われ、幼児教育者として	<b>の質質を高めていく。</b>
授業計画	授業時間外の学習
第1回:ガイダンス(授業の進め方、この授業で何を学ぶか)	
第2回:テーマの決定	テーマを考える。
第3回:保育現場における制作活動に関する指導案作成	テーマに関する情報を集め、
第4回:制作に関する資料集め、材料準備	アイディアを得る。
第5回:制作1-① 下書き、下絵、設計図、型紙づくり	制作に関する資料を集める
第6回:制作1-② 裁断、組み立て等	材料を調達する。
第7回:制作1-③ 制作続き	制作プランニングに従い、常
第8回:制作1-④ 制作1の完成、発表、ミーティング	に、授業外でも完成に向けて、
第9回:制作2-① 下書き、下絵、設計図、型紙づくり	制作、資料収集をする。
第10回:制作2-② 裁断、組み立て等	
第11回:制作2-③ 制作続き	上記に関し1~2時間程度の時
第12回:制作2-④ 発表を見立てての制作	間が必要である。
第13回:制作2-⑤ 制作の仕上げ	
第14回:発表会場でのリハーサル、展示準備	会場スタッフとの打ち合わせ
第15回:表現発表会での上演、展示	

## 授業の方法

実技、演習。期間の中で2点(2分野)以上の作品を完成させること。 制作した作品は表現発表会において発表する。

## テキスト なし

## 参考書・参考資料等

定期試験:レポート

テーマ制作に関する資料を各自用意。

『幼稚園教育要領』(最新版)、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』(最新版) 『保育所保育指針』(最新版)

## 学生に対する評価

提出作品(40%)、受講態度(20%)、創作への意欲(20%)、レポート(20%)を総合的に評価する。

## 履修上の注意

材料は、基本的に各自で購入すること。

与えられた課題制作とは異なるため、自主性と積極性が求められる。

授業終了時に必ずかたづけ、清掃を行うこと。

実務経験の有無 無 実務経験

実務経験を活かした教育内容

卒業必修		保育士必修		幼稚園教諭必修	17.4	選択
授業科目名:	教員の免許状取得のための			単位数:2単位	担当	教員名:
幼児教育方法論	必修科目			(半期) 講義	持田	京子、金子智昭
ナンバリング:2311					担当	形態:クラス分け
科 目	科 目 道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、			生徒指導、教育相談等に		
	関する科目					
施行規則に定める		教育の方法及び技術 (情報機器及び教材の活用を含む。)				舌用を含む。)
科目区分又は事項等						

- 1. 幼児期に育みたい資質・能力を育成するための基本的な考え方に基づいて保育の環境構成を 考えることができる。
- 2. 幼稚園教育要領に基づく基礎的な幼児指導、幼児理解の考え方を踏まえた保育の目的に適し た指導技術を身につけることができる。
- 3. 幼児の興味、関心を高めるための適切な教材活用(情報機器の活用も含め)などを踏まえた模 擬実践を行い、それらを基に、計画-実践-評価-改善のあり方を省察し他者に説明できる。

#### 授業の概要

これからの社会を担う子どもに求められる資質・能力を育成するために必要な、教育の方法 教育の技術、情報機器及び教材の活用について様々な視点から考察し、幼稚園や保育所、認 定こども園における保育者の役割を考え、具体的な援助や指導の方法を学ぶ。

#### 授業計画

- 第1回: 幼児期に育みたい資質・能力を育成するための基本的な考え 「幼稚園教育要領解説とポイント 方を学ぶ。
- 第2回:教育方法の基本を通して遊びの中で、幼児が主体となり、協一・「幼稚園教育要領解説とポイント」 同的な学びのある保育について理解する。
- 第3回:保育を構成する基本的な環境について理解して、現場に即し て実践を考える。
- 第4回:様々な保育形態と保育方法について理解し、幼児にとって必 要な教材、教具や環境について考察する。(視聴覚教材を用 いて
- 第5回:幼児理解に基づいた評価の基礎的な考え方を身につける。
- 第6回:5領域の考え方を理解した上で、幼児が興味・関心を持てる 課題を自らつかむための、幼児教育の方法を考案する。
- 第7回:基礎的な幼児教育の考え方を踏まえて、ねらい、内容を考え 教材・教材意義とその指導方法を考える。
- 第8回:小学校教育との接続も踏まえた幼児の指導方法を考える。
- 第9回 : 幼児との環境との関係を考慮しながら、情報機器の効果的な 活用について考察する。
- 第10回:季節や行事も踏まえ幼児の発達に沿った幼児の興味関心を

#### 授業時間外の学習

- と解説」「総則」を熟読してまと める。(1時間)
- を熟読して「遊びを通した総合的 な指導」についてまとめる。 (1 時間)
- ・「幼稚園教育要領解説とポイント」 を熟読して「環境を構成する視 点」についてまとめる。(1時間)
- ・保育における評価の考え方をまと める。(1時間)
- ・「幼稚園教育要領解説とポイント」 を熟読し「各領域に示す事項」に ついてまとめる。(1時間)
- ・様々な教材研究をする。(1時間)
- ・小学校以降の生活・学習とその接 続についてまとめる。(1時間)
- ・幼児の情報機器活用について調べ
  - る。(1時間)

ひき、学びにつながる指導案を立案する。

第11回:作成した指導案を基に、ねらいを基に教師の話法、保育展 開の方法、保育技術の活用を考え模擬保育の準備をする。

第12回:模擬授業を体験する。(幼児・教師・観察者・助言者)① ・3歳児の指導案を作成する。(1時間)

第13回:模擬保育を体験する。(幼児・教師・観察者・助言者)②|・5歳児の指導案を作成する。(1時間)

第14回:模擬保育を通して振り返り、計画-実践-評価-改善を

考察する。環境の再構成を考える。

第15回:模擬保育を通して振り返り、自らの幼児教育の方法につい

ての今後の課題を話し合い、発表する。

定期試験:レポート

・発達年齢を踏まえた指導案を立案 する。(運動・制作・遊び・音楽 など) (1時間)

・4 歳児の指導案を作成する。(1 時間)

・模擬保育の準備をする。(1 時間)

・模擬保育を通してさらなる環境の

再構成についてまとめる。そして

、模擬保育を省察し、それらの課

題を踏まえた保育展開をするた

めの課題を考え、まとめる。

(1時間)

## 授業の方法 講義、演習、アクティブラーニング型。

#### テキスト

『幼稚園教育要領』(最新版)、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』(最新版) 『保育所保育指針』(最新版)

#### 参考書・参考資料等 適宜配布する。

## 学生に対する評価

模擬保育の成績(40%)、小テスト(20%)、受講態度等(20%)、レポート(20%)を判 断して評価する。

#### 履修上の注意

幼児教育の方法を理論より理解した上で、指導案を作成し、模擬保育を行う。各授業のまとめ、指導 案などの提出物は必ず期限内に提出すること。また、模擬保育は、環境構成、服装、言葉、振り返り発 表など全てを含めて教員評価及び学生評価を行う。真摯に準備して実践に向かうこと。

実務経験 持田:元幼稚園勤務、保育所巡回指導員 実務経験の有無 有

## 実務経験を活かした教育内容

持田:幼稚園勤務、公立保育所、私立保育園の巡回指導員の経験を活かして、保育者に求められる基礎 的な知識と技術、現代社会における保育士の課題、クラスづくりなどを学生が具体的に考え、実践、評 価できる授業を行う。

卒業必修	保育士必修	幼稚園教諭必修 選択
授業科目名:	保育士資格取得のための	の 単位数:2単位 担当教員名:加藤房江
乳児保育 I	必修科目	(半期) 講義 担当形態:単独
ナンバリング:2312		
系 列	保育の内容・方法に	こ関する科目
教科目	乳児保育 I	

- 1. 乳児保育の意義・目的と歴史的変遷及び役割等について理解できる。
- 2.3歳未満児の発育・発達・保育内容や運営体制について、理解できる。
- 3. 乳児保育の職員間の連携・協働、保護者や地域の関係機関との連携、乳児保育の現状・ 課題等を理解できる。

#### 授業の概要

乳児保育の意義・目的と歴史的変遷及び役割、乳児院等多様な保育の場における乳児保育の現状・課題等を理解する。3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育内容と運営体制について理解や乳児保育における職員間の連携・協働及び保護者や地域の関係機関との連携について学び、理解することも重要である。

#### 授業計画

第1回:オリエンテーション、乳児保育の意義と目的

第2回:乳児保育の歴史的変遷と役割・機能

第3回:乳児保育における養護及び教育

第4回:乳児保育及び子育て家庭への支援と課題

第5回:保育所における乳児保育

第6回:乳児院等保育所以外の児童福祉施設における乳児保育

第7回:家庭的保育等における乳児保育

第8回:3歳未満児や家庭を取り巻く環境と子育て支援の場

第9回:3歳未満児児の生活と環境

第10回:3歳未満児の遊びと環境

第11回:3歳未満児の保育に移行する時期の保育

第12回:3歳未満児の発達・発育を踏まえた援助や関わり

第13回:3歳未満児の発達・発育を踏まえた保育における配慮

第14回:乳児保育における計画・記録・評価とその意義

第15回:職員間の連携・協働、保護者や地域の関係機関との連携

定期試験:筆記

## 授業時間外の学習

予習、復習には1~2時間程度の時間が必要であり、テキストを精読する。

予習プリントの課題がある 場合は、事前に記入して、授 業に臨むこと。

授業終了後は、1時間程度 の復習を行う。

## 授業の方法

講義、ビデオを通して乳児保育の意義や歴史的変遷、乳児を取り巻く社会状況、保育の方法を理解する。小テスト等を行い学習の定着を図る。ロールプレイを通して能動的に実践することで、保育を構成する力を身につける。

## テキスト

『見る・考える・創りだす「乳児保育Ⅰ・Ⅱ」』CHS子育て文化研究所 迫田圭子ら 萌文書林

『平成29年度告示 幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園·教育保育要領<原本>』内閣府・文部科学省・厚生労働省 チャイルド社

## 学生に対する評価

試験(50%)、授業における参加意欲・発表(30%)、授業内提出物(20%)等で判断する。

#### 履修上の注意

実務経験の有無

- ・保育士になるための大切な授業であり、自ら調べ積極的姿勢で学ぶこと。
- ・グループワークや模擬保育は協力して行い、演習に必要な持参物品を忘れない。
- ・受講にあたって、事前事後の学習を行い、積極的態度で授業に臨むことを期待する。

有

保育士の経験を活かし、実践で子どもとのかかわりに役立つ授業を行う。

実務経験

実務経験を活かした教育内容

元保育士・元主任保育士

卒業必修	保育士必修	幼稚園教諭必修 選択	
授業科目名:	保育士資格取得のため	りの 単位数:1単位 担当教員名:加藤房江	
乳児保育Ⅱ	必修科目	(半期) 演習 担当形態: 単独	
ナンバリング:2313			
系 列	保育の内容・方法に	に関する科目	
教科目	乳児保育 II		

- 1.3歳未満児の発育・発達を踏まえた援助や関わりの基本的考え方について理解できる。
- 2. 養護及び教育の一体性を踏まえ、3歳未満児の子どもの生活や遊びと保育の方法や環境について理解できる。
- 3. 乳児保育における配慮の実際について学び、指導計画の作成について理解できる。

#### 授業の概要

3歳未満児の発育・発達を踏まえた援助や関わりの基本的考え方や養護及び教育の一体性を踏まえ、3歳未満児の子どもの生活や遊びと保育の方法や環境についての理論と実際をすり合わせて理解し、計画の作成ができるよう考察を深めていく。

#### 授業計画

第1回: オリエンテーション、乳児保育の基本と保育士等との関係の 重要性

第2回:個々の子どもに応じた援助や受容的・応答的関わり

第3回:子どもの主体性の尊重と自己の育ち

第4回:子どもの体験と学びの芽生え

第5回:子どもの1日の生活の流れと保育の環境

第6回:子どもの生活や遊びを支える環境の構成

第7回:子どもの体験と学びの芽生え

第8回:子どもの1日の生活の流れと保育の環境

第9回:3歳未満児の発育・発達を踏まえた生活と援助の実際

第10回:3歳未満児の発育・発達を踏まえた遊びと援助の実際

第11回:子ども同士の関わりとその援助の実際

第12回:子どもの心身の健康・安全と情緒の安定を図るための配慮 てそれに向かって学習するこ

第13回:集団での生活における配慮

第14回:環境の変化や移行に対する配慮

第15回:長期的な指導計画と短期的な指導計画

個別的な指導計画と集団の指導計画

定期試験:筆記

#### 授業の方法

乳児人形を使い実際の技術を学び、保育実践を行う。また、ビデオを通して実際の現場の様子を把握し、子どもの様子や保育の仕事内容を理解する。ロールプレイを通して能動的に実際の保育者役・子ども役を体験することで、保育を構成し、計画、立案する力を身につける。

## テキスト

『見る・考える・創りだす「乳児保育Ⅰ・Ⅱ」』CHS子育て文化研究所 迫田圭子ら 萌文書林 参考書・参考資料等

『平成29年度告示 幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園・教育保育要領<原本>』内閣府・文部科学省・厚生労働省 チャイルド社

#### 学生に対する評価

試験(50%)、授業における参加意欲・発表(30%)、授業内提出物(20%)等で判断する。

## 履修上の注意

- ・保育士になるための大切な授業であり、「乳児保育 I」で学んだことを基礎として、乳児保育の学びを深められるよう積極的姿勢で学ぶこと。
- ・グループワークや模擬保育は協力して行い、演習に必要な持参物品を忘れない。
- ・受講にあたって、事前事後の学習を行い、積極的態度で授業に臨むことを期待する。

実務経験の有無有実務経験

## 実務経験を活かした教育内容

保育士の経験を活かし、実践で子どもとのかかわり保育士の職務内容を学ぶ等に役立つ授業を行う。

元保育士、元主任保育士

授業時間外の学習

課題プリントやロールプレイ、グループワークにおいて主体的に臨む姿勢が大切になるので、事前学習と事後学習に1~2時間程度の時間が必要である。

自らが将来的課題を見つけてそれに向かって学習することが重要である。

卒業必修	保育士必修	ž	幼稚園教諭必修		選択
授業科目名:	保育士資格取得のため	の	単位数:1単位	担当	教員名:鈴木雅子
子どもの健康と安全	必修科目		(半期) 演習	担当	形態:単独
ナンバリング:2314					
系 列	保育の内容・方法に	保育の内容・方法に関する科目			
教科目	子どもの健康と安全	子どもの健康と安全			

- 1. 保育における保健的観点を踏まえた保育環境や援助について理解できる。
- 2. 保育における衛生管理・事故防止及び安全対策・危機管理・災害対策について具体的に理解できる。
- 3. 子どもの健康及び安全の管理にかかわる、組織的取組や保健活動の計画及び評価等について 具体的に理解できる。

#### 授業の概要

この授業は保健的観点を踏まえた保育環境や援助、衛生管理・事故防止及び安全対策・危機 管理・災害対策・感染症対策、発達や状態等に即した適切な対応、体調不良等に対する適切な 対応や健康及び安全の管理の実施体制を理解することである。

## 授業計画

第1回:子どもの健康と安全 授業の進め方

第2回:子どもの健康と発育

第3回:子どもの健康と子育てに必要な養護・しつけ

第4回:子どもの事故とその予防①(応急処置実技)

第5回:子どもの事故とその予防②(救急蘇生法実技)

第6回:子どもに多い病状・病気とその対処及び予防

第7回:子どもに多い感染症と予防対策(感染防御実技)

第8回:子どもの慢性疾患とその対処

第9回:個別的な配慮を要する子どもへの対応

第10回:障害を持つ子どもと家族へのかかわり方

第11回:児童虐待

第12回:災害と子どもの健康

第13回:災害時の子どもの救護

第14回:地域との連携・協働

第15回:まとめ 定期試験:筆記

#### 授業時間外の学習

- ・実技については課題を出す ため60分程度の予習が必 要である。
- ・授業の復習は教科書による 復習や配布プリントの整理 など60分程度の時間が必 要である。

授業の方法 実技・ディスカッションのレポートを提出。レポートにはコメントを記入し返却する。

テキスト 『子どもの健康と安全』大西文子編著 中山書店

## 参考書・参考資料等

「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」(平成23年3月、厚生労働省)、

「2018 年改訂版 保育所における感染症対策ガイドライン」 (平成30 年3月、厚生労働省) 「教育・保育施設等における事故防止及び事故発生時の対応のためのガイドライン」 (平成

28 年 3 月、内閣府・文部科学省・厚生労働省)

## 学生に対する評価

定期試験(50%) 課題提出(30%) 受講態度(20%)

## 履修上の注意

授業は演習が中心となるため目的意識をもって主体的に取り組むこと。

実務経験の有無 有 実務経験 元病院勤務(助産師)、元小学校・中学校・高 等学校養護教諭

#### 実務経験を活かした教育内容

病院・学校現場の経験を活かし実務に沿った内容の授業展開を行う。

卒業必修	保育士必修	幼稚園教諭必修 選択
授業科目名:	保育士資格取得のため	かの 単位数:2単位 担当教員名:齋藤光男
特別支援保育	必修科目	(半期)演習 担当形態:単独
ナンバリング:2316		
系 列	保育の内容・方法に	に関する科目
教科目	障害児保育	

- 1. 障害児保育の理念を踏まえ、子どもの発達や環境との関係について理解できる。
- 2. 障害児や特別な配慮を要する子どもの援助方法や支援計画の作成について理解できる。
- 3. 障害児や特別な配慮を要する子どもの現状と課題を元に、家庭支援や専門機関等との連携について理解できる。

#### 授業の概要

障害児や特別な配慮を要する子どもの保育の考え方や特性に応じた支援の在り方について、 疑似体験や討議活動等を通し理解を深める。個別の支援計画の作成や家庭支援の在り方、専門機関等との連携について、実践的な学びを重視し、自ら考え援助できる力を身につける。

機関等との連携について、実践的な学びを重視し、自ら考え援助	<b>めできる力を身につける。</b>
授業計画	授業時間外の学習
第1回:障害児や特別な配慮を要する子どもの理解	
第2回:インクルーシブ保育と歴史的変遷	・授業前に教科書を読み、疑問点
第3回:身体面の支援の必要な子どもの理解と援助	について調べておく。
第4回:感覚面の支援の必要な子どもの理解と援助	(週1時間以上)
第5回:知的な面の支援の必要な子どもの理解と援助	
第6回:愛着面の支援の必要な子どもの理解と援助	・授業後は教科書や配布したプリ
第7回:発達障害児の理解と援助①(LD傾向・ADHD傾向)	ントをもとに、内容を整理し、ま
第8回:発達障害児の理解と援助② (ASD傾向)	とめておく。
第9回:情緒面の支援の必要な子どもの理解と支援(選択緘黙傾向)	(週1時間以上)
第10回:重度心身障害児・医療的ケア児の理解と援助	
第11回:個別の指導計画の作成	・実習や日常生活の中で気になっ
第12回:子どもの発達を促す環境や子ども同士の関わり	た子ども達の様子を記録し、演習
第13回:保護者や家族の理解と援助	等に活かせるようにしておく。
第14回:地域の専門機関の連携と小学校等との連携	(3時間以上)

## 授業の方法 ICTを活用し、協同学習を取り入れた演習。

第15回:特別支援保育の現状と課題

テキスト 『インクルーシブ保育論』伊丹昌一編著 ミネルヴァ書房

## 参考書 • 参考資料等

定期試験:筆記

『障害児保育』 秋田喜代美他編 中央法規

『よくわかる障害児保育』 尾崎康子編 ミネルヴァ書房

## 学生に対する評価

授業への参画 (20%)、レポート (20%)、定期試験 (60%) をもとに総合的に判断し評価する。

#### 履修上の注意

受講に当たっては教科書を参考に事前、事後の学習を行い、演習には積極的に取組むこと。

実務経験の有無	有	実務経験	元小学校教諭発達障害通級指導教室担当、元就
·			学相談員 巡回相談員

#### 実務経験を活かした教育内容

就学相談などの経験を活かし、適切な支援ができるように授業を行う。

卒業必修	保育士必修	幼稚園教諭必修 選択
授業科目名:	保育士資格取得のため	の 単位数:1単位 担当教員名:髙橋努
社会的養護Ⅱ	必修科目	(半期)演習 担当形態:単独
ナンバリング:2317		
系 列	保育の内容・方法に	こ関する科目
教科目	社会的養護Ⅱ	

- 1.1年次に学んだ「社会的養護」の理解を深めることができる。
- 2. 子どもの権利、家庭や社会のあり方について理解できる。
- 3. 保育士の専門性について理解できる。

#### 授業の概要

保育実習 I (施設) で体験・経験してきた、障害児・者への対応や、児童養護施設、乳児院等児童福祉施設で生活している子どもたちに対する支援の方法など、保育士として必要な「ソーシャルワーク」や保育士の専門性について演習課題を中心に学び、理解を深める。

#### 授業計画

第1回:子どもの権利擁護

第2回:社会的養護における保育士等の倫理および責務

第3回:施設養護(乳児院、児童養護施設、母子生活支援施設)の特性

および実際①

第4回:施設養護(情緒障害児短期治療施設、児童自立支援施設、

障害児施設)の特性および実際②

第5回:家庭養護(里親制度・養子縁組制度等)の特性および実際

第6回: 社会的養護におけるケアマネジメント

第7回:保育実習Ⅰの振返り①(グループワーク1:ブレーンストーミング)

第8回:保育実習 I の振返り②(グループワーク2:ブレーンストーミング)

第9回:保育実習Iの振返り③ (グループワーク3:ポスター作成)

第10回:保育実習Iの振返り④(ポスター発表)

第11回:グループ発表の準備①(パワーポイントの作成等)

第12回:グループ発表の準備②(パワーポイントの作成等)

第13回:グループ発表の準備③(パワーポイントの完成・提出)

第14回:グループ発表

第15回:グループ発表振り返り 定期試験:グループ発表、レポート

## 授業時間外の学習

- ・授業前の予習をしっかりと 行うことと、課題提出の期 限を守ること。(2時間)
- ・実習を行った「児童福祉施設等」に関する振り返りとそこで身に付けた対応方法などについて、グループワーク等を活用して理解を深める。(3時間)
- ・施設実習の実習日誌(課題 について)を活用して振り 返りを行う。各自で整理し ておくこと。(3時間)

#### 授業の方法

グループワークを中心とした、演習形式。

前半はテキストを使用、後半は「保育実習 I (施設)」の振り返り。実習の振り返りを題材に、レポートの作成やパワーポイントの作成、発表技法の習得などを行う。

#### テキスト

『社会的養護 II 』 公益財団法人児童育成協会 監修/相澤仁、大竹智 編集 中央法規

## 参考書 · 参考資料等

授業内で適宜プリント等配布する。

#### 学生に対する評価

レポート作成(A4・・・2枚、2,000文字以上必須) (50%) 、グループ発表 (50%)

## 履修上の注意

- ・「保育実習 I (施設)」の振り返りレポートの作成。(実習課題の達成度やレポートのまとめ方)
- ・グループ発表は、メンバーと協力して、資料作成や発表を行うこと。(1年生への資料として活用することを前提に作成すること。)

実務経験の有無 有 実務経験 元施設勤務(社会福祉士)

#### 実務経験を活かした教育内容

施設での相談業務の経験を活かし、実際の施設での子どもたちなどの状況などを説明し、社会的養護Iで学んだことをさらに深められるよう事例などを取り入れた授業を行う。

卒業必修	保育士必修	幼稚園教諭必修 選択
授業科目名:	保育士資格取得のため	の 単位数:1単位 担当教員名:髙橋努
子育て支援	必修科目	(半期)演習 担当形態:単独
ナンバリング:2318		
系 列	保育の内容・方法に	こ関する科目
教科目	子育て支援	

- 1. 保護者に対する相談、助言、情報提供、行動見本の提示等の支援の特性と展開を具体的に理解できる。
- 2. さまざまな場面、対象に即した支援内容と方法・技術について、実践事例等を通して具体的に理解できる。
- 3. 保育士の行う保育の専門性を理解し、多角的な視点を持った保育について理解できる。

#### 授業の概要

保育士の行う保護者に対する相談、助言、情報提供、行動見本の提示等の支援の特性と展開を具体的に学び、様々な場面に即した支援の内容と方法及び技術を、実践事例を通して具体的に理解する。

#### 授業計画

第1回:子どもの保育とともに行う保護者の支援

第2回:日常的・継続的なかかわりを通じた保護者との相互理解と

信頼関係の形成

第3回:保護者や家庭のかかえる支援のニーズへの気づきと多面的な理解

第4回:子どもおよび保護者の状況・状態の把握

第5回:支援の計画と環境構成

第6回: 支援の実践・記録・評価・カンファレンス

第7回:職員間の連携・協働

第8回:社会資源の活用と自治体・関係機関や専門職との連携・協働

第9回:保育所等における支援

第10回:地域の子育て家庭に対する支援

第11回:障害のある子ども及びその家族に対する支援

第12回:特別な配慮を要する子ども及びその家庭に対する支援

第13回:子ども虐待の予防と対応

第14回:要保護児童等の家庭に対する支援

第15回: 多様な支援ニーズをかかえる子育て支援家庭の理解

定期試験:筆記

#### 授業の方法

テキストを中心とした、講義形式で授業を行う。

各授業の予習を各自がしっかりと行い、事前の調べ学習、レポート作成等アサインメントの提出が重要である。また、授業ノートをきちんと作成すること。 (ノートの提出・確認を実施する。)

## テキスト

『子育て支援』 公益財団法人児童育成協会監修/西村重稀・青井夕貴編集 中央法規

## 参考書・参考資料等

授業内で指示する。

## 学生に対する評価

筆記試験(50%)、アサインメントの提出(25%)、小テスト(25%)を総合的に評価。

#### 履修上の注意

・授業ごとに、小テストを実施。授業の振り返りに役立てること。

実務経験の有無 有 実務経験 元施設勤務(社会福祉士)

## 実務経験を活かした教育内容

施設での相談業務経験を活かし、児童福祉施設の現状や職員としての心構えなどを習得できるよう視聴覚教材なども活用して授業を行う。

## 授業時間外の学習

授業前にテキストを読み、 調べ学習等で事前学習をしっ かり行い、授業に備えること。 (2時間)

特に日頃から児童福祉に関するニュースをチェックしておくこと。(1時間)

卒業必修 保育士必修 幼稚園教諭必修 選択 担当教員名:小澤俊太郎、 単位数:1単位 授業科目名: 教員の免許状取得のための 高野恵允(恵美)、浅見彩賀、 音楽Ⅲ 小川弥輪、野本裕美子、松井ひかる 選択科目 (半期) 演習 担当形態:クラス分け、オム ナンバリング:2327 ニバス 大学が独自に設定する科目 科目 施行規則に定める 科目区分又は事項等 授業の到達目標及びテーマ 1.ハ、ト、ヘ、ニ、変ロ長調、各調の3コードを理解できる。 2. 弾き歌い5曲と独奏曲2曲を弾くことができる。 3. 春、夏、生活の歌の模擬授業ができる。 授業の概要 1.合同授業 「音楽Ⅰ」「音楽Ⅱ」で学んだ内容をもとに、保育現場でよく使われる曲に伴奏づけが できるようになることを目標とする。簡単なコードネームによる伴奏法を身につけ、多様な即興表現を 楽しむ。 2.個人レッスン 幼児教育、保育現場で必要とされるピアノ演奏の基礎技術と知識の習得を目指 す。学生一人一人のレベル、能力に合わせてマンツーマンでレッスンを行う。 授業時間外の学習 授業90分のうち、45分を合同授業(担当:高野) 45分を4クラスに分けて個人レッスン(担当:小澤、野本、松井、小 川、浅見) 〈合同授業〉 〈合同授業〉 第1回:オリエンテーション 第2回:春の歌 Aグループによる模擬授業 模擬授業のための準備・練習(1時間) 第3回:春の歌 Bグループによる模擬授業 模擬授業のための準備・練習(1時間) 第4回:コードネーム① ハ長調3コードの説明 ハ長調3コードの練習(1時間) 第5回:コードネーム② 楽曲を用いたハ長調3コードの指導 ハ長調3コードの練習(1時間) 第6回:コードネーム③ ト長調3コードの説明 ト長調3コードの練習(1時間) 第7回:コードネーム④ 楽曲を用いたト長調3コードの指導 ト長調3コードの練習(1時間) 第8回:夏の歌 Aグループによる模擬授業 模擬授業のための準備・練習(1時間) 第9回:夏の歌 Bグループによる模擬授業 模擬授業のための準備・練習(1時間) 第10回:コードネーム⑤ へ長調3コードの説明 へ長調3コードの練習(1時間) 第11回:コードネーム⑥ 楽曲を用いたへ長調3コードの指導 へ長調3コードの練習(1時間) 第12回:コードネーム⑦ ニ長調3コードの説明 ニ長調3コードの練習(1時間) 第13回:コードネーム⑧ 楽曲を用いたニ長調3コードの指導 ニ長調3コードの練習(1時間) 第14回:生活の歌 模擬授業 模擬授業のための準備・練習(1時間) 第15回:3コードのまとめ 3コードによる伴奏づけの練習(1時間) 定期試験:実技(3コードによる伴奏づけ) 〈個人レッスン〉 〈個人レッスン〉 第1回:オリエンテーション 毎回のレッスンで課題となった 第2回~第15回:マンツーマンによるレッスン 曲の練習(1日15分以上、1週間 に合計1時間以上) 授業の方法 合同授業と個人レッスン(ピアノ実技指導) テキスト 個人レッスン レベルに合わせて選曲 合同授業 『こどものうた100』小林美実監修 チャイルド社 参考書 • 参考資料等 個人レッスンでは個人のレベルに合わせた曲を紹介する。 コードネームに関する資料と課題を配布する。 学生に対する評価 合同授業内の課題(3コード)試験(30%)、模擬授業発表(20%) 個人レッスンの受講態度(受講上の注意を守る)(20%) 個人レッスンの課題の習熟度(個人カルテ配布)と実技試験(30%) 履修上の注意 自己学習の予習、復習が大変重要である。 個々にレベルアップを目指し、実践できる力をつけられるよう練習すること

実務経験

ピアノ講師の経験を活かし、各学生の能力に沿って指導できるよう授業を行う。

有

実務経験の有無

実務経験を活かした教育内容

ピアノ講師

卒業必修 保育士必修 幼稚園教諭必修 選択 担当教員名:小澤和恵、 単位数:1単位 授業科目名: 教員の免許状取得のための 小澤俊太郎、浅見彩賀、小川弥輪、 野本裕美子、松井ひかる 音楽IV 選択科目 (半期) 演習 担当形態:クラス分け、オム ナンバリング:2328 ニバス 大学が独自に設定する科目 Ħ 施行規則に定める 科目区分又は事項等

## 授業の到達目標及びテーマ

- 1. 保育・教育現場でよく使われる曲を自由に伴奏できる。
- 2. 曲にあったコードがつけられ、伴奏形が工夫できる。
- 3. 弾き歌い5曲と独奏曲2曲をレパートリーとし、その中の1曲以上を演奏発表できる。

## 授業の概要

- 1.合同授業 「音楽Ⅰ」「音楽Ⅱ」「音楽Ⅲ」で学んだ内容をもとに、保育・教育現場でよく使われる曲を 自由に伴奏できるようになる。コードネームによる伴奏法を発展させ子どもの表現活動を導く即興演 奏ができるようになる。
- 2.個人レッスン 幼児教育の為に必要とされるピアノ演奏の基礎技術と知識の習得を目指し、

#### 学生一人一人のレベル、能力に合わせてマンツーマンでレッスンを行う。 授業時間外の学習 授業90分のうち、45分を合同授業(担当:小澤)、 45分を4クラスに分けて個人レッスン(担当:野本、松井、小川、浅見) <合同授業> <合同授業> 第1回:オリエンテーション・コードネームの復習 第2回:コードネームによる伴奏法の応用(ハ長調課題) 課題練習(1時間) 第3回:コードネームによる伴奏法の応用(ト長調課題) " (1時間) 第4回:秋の歌 模擬授業 模擬授業のための準備・練習(1時間) 課題練習(1時間) 第5回:コードネームによる伴奏法の応用(へ長調課題) 第6回:コードネームによる伴奏法の応用(ニ長調課題) (1時間) 11 第7回:コードネームによる伴奏法の応用(変ニ長調) (1時間) 第8回:移調の方法 課題曲を移調する練習(1時間) 第9回:冬の歌 模擬授業 模擬授業のための準備・練習(1時間) 第10回:模擬クリスマスコンサートの実施 コンサート演奏曲の練習(1時間) 第11回:編曲法について 課題曲を編曲する(1時間) 第12回:編曲した曲の発表 編曲した曲の練習(1時間) 第13回:メッセージソングの練習 メッセージソングの練習(1時間) 第14回:模擬卒園式 (メッセージソングの発表) (1時間) 第15回:まとめ 発表会の曲の練習(1時間) 定期試験:実技(「音楽IV履修者によるピアノ発表会」) <個人レッスン> <個人レッスン> 第1回:オリエンテーション 毎回のレッスンで課題となった 第2回~第15回 : マンツーマンによるレッスン 曲の練習(毎日10分程度、1週 間に合計1時間以上)

## 授業の方法 合同授業と個人レッスン(ピアノ実技指導)

## テキスト

個人レッスン レベルに合わせて選曲

合同授業 『こどものうた100』小林美実監修 チャイルド社

### 参考書 • 参考資料等

個人レッスンでは個人のレベルに合わせた曲を紹介する。

合同レッスンでは課題に関する資料や楽譜を紹介する。

## 学生に対する評価

合同授業内の課題(ワークシート)遂行と提出(30%)模擬授業発表(20%)

個人レッスンの受講態度(受講上の注意を守る) (20%)

個人レッスンの課題の習熟度(個人カルテ配布)

## 履修上の注意

個々にレベルアップを目指し、練習をしてレッスンに臨むこと。

実務経験の有無 有 実務経験 ピアノ講師

#### 実務経験を活かした教育内容

ピアノ講師の経験を活かし、各学生の能力に沿って指導できるよう授業を行う。

卒業必修		保育士必修		幼稚園教諭必修	5	選択
授業科目名:	仴	<b>R育士資格取得のため</b>	カ	単位数:2単位	担当	教員名:布施由起
カウンセリングⅡ	選択科目			(半期)演習	担当	形態:単独
ナンバリング:2330						
科目		保育の内容・方法に	-関す	一る科目		
施行規則に定める						
科目区分又は事項等						

- 1. カウンセリングの理論を説明できる。
- 2. ファシリテーターとして、エンカウンターグループを実践できるようになる。
- 3. ピアヘルピングを実践できる。

#### 授業の概要

ピアヘルピングを実践するために必要となるカウンセリングの理論と技法についての理解を さらに深めロールプレイやグループワーク演習、サポート体験を通して実践力の向上を目指す。

## 授業計画

第1回:イントロダクション カウンセリングとは

第2回:カウンセリングの理論と技法① 第3回:カウンセリングの理論と技法②

第4回:ロールプレイ、グループワーク演習①

第5回:ロールプレイ、グループワーク演習

第6回: 小テスト ピアサポートとは

第7回:ピアサポートの導入、計画

第8回:ピアサポートの方法① 第9回:ピアサポートの方法1

第10回:ピアサポートの方法1

第11回: 小テスト ピアサポート体験①

第12回:ピアサポート体験の振り返り

第13回:ピアサポート体験②

第14回:ピアサポート体験の振り返り

第15回:全体のまとめ 定期試験:レポート

## 授業時間外の学習

- ・教科書や授業内で配布した プリントをもとに、前回の 内容を確認し、次回の学習 内容についても確認してお くこと。
- ・カウンセリングの理論、技 法について、教科書や授業 内で配布したプリントをも とに理解したことをまとめ る。
- ・ロールプレイ、グループワーク演習、ピアサポート体験を振り返り、今後の課題、 改善点をまとめる。
- ・授業前後には、合わせて 1時間程度の自主学習を要 する。

授業の方法 講義、グループ演習、ロールプレイを行う。

テキスト 授業中に資料を配布する。

## 参考書・参考資料等

『ピアヘルパーワークブックーやって身につくカウンセリング練習帳』

日本教育カウンセラー協会編 図書文化社

#### 学生に対する評価

授業参画(40%)、小レポート(20%)、定期試験(40%)

## 履修上の注意

・受講にあたっては、事前事後の学習を行い、グループ演習やロールプレイには積極的に取り組むこと

事前に「カウンセリング I」を受講していることが望ましい。

実務経験の有無有実務経験クリニック勤務(臨床心理士、公認心理師)

### 実務経験を活かした教育内容

精神科クリニック勤務の経験を活かしてロールプレイなどを取り入れた実践的な授業を行う。

卒業必修	保育士必修		幼稚園教諭必修	·	選択
授業科目名:	教員の免許状取得のため	りの	単位数:2単位	担当	教員名:原口政明
教育相談と幼児理解	必修科目		(半期) 講義	担当	形態:単独
ナンバリング:2401					
科目	道徳、総合的な学習 関する科目	の時	<b>時間等の指導法</b>	及び生	生徒指導、教育相談等に
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育相談(カウンセ 及び方法 幼児理解の理論及び			<b></b> е的л	な知識を含む。)の理論

<テーマ>

幼児理解は、幼稚園教育のあらゆる営みの基本となるものであり、幼稚園における幼児の生活や遊びの実態に即して、幼児の発達や学び及びその過程で生じるつまずき、その要因を把握するための原理や対応の方法を考えることができる。そして、幼児、児童及び生徒の発達の状況に即しつつ、個々の心理的特質や教育的課題を適切に捉え、支援するために必要な基礎的知識(カウンセリングの意義、理論や技法に関する基礎的知識を含む)を身に付ける。 <到達目標>

- 1. 幼児理解から発達や学びを捉える原理を理解できる。
- 2. 幼児のつまずきを周りの幼児との関係やその他の背景から理解できる。
- 3. 学校における教育相談の意義と課題を理解できる。
- 4. 幼児、児童及び生徒の不適応や問題行動の意味並びに幼児、児童及び生徒の発するシグナルに気づき把握する方法を理解できる。

#### 授業の概要

幼稚園等における教育相談についての理論や実践的な体系について学び、子どもの発達や幼児期から思春期までの発達を見通した視点からの教育相談を進められるよう、幼児期の問題や課題などの事例を交えながら学んでいく。

#### 授業計画 授業時間外の学習 第1回:保育者の行う教育相談の考え方 図書館などを活用して、授 第2回:学校教育相談実践の歴史的変遷 業準備や調べ学習を30時間 第3回:相談実践の整理とその意義 以上行うこと。 第4回:隣接する学問や実践現場から学ぶ 特に、教育相談に関する歴 史的背景や変遷、カウンセリ 第5回:日本における学校教育相談の実践整理 第6回:教育相談の進め方(1)教育相談実践の捉え方 ングに関する書籍等を読んで 第7回:教育相談の進め方(2)観察方法 おくことが必要である。 第8回:教育相談の進め方(3)面接への視点 事前・事後学習で学んだこ 第9回:幼稚園における教育相談の考え方 とを必ずまとめておき、規定 第10回:幼児理解のために(1)(子どもの発達) の授業回数を終了したのちに 第11回:幼児理解のために(2)(幼児期の問題・課題) 提出すること。 第12回:実践例(1)保護者との信頼関係 第13回:実践例(2)保護者の養育力の向上 第14回:実践例(3)幼小連携の観点から考える 第15回:実践例(4)外部専門機関との連携 定期試験

#### 授業の方法 講義形式、グループ討議、ロールプレイ。

#### テキスト

『教師のための学校カウンセリング』小林正幸・橋本創一・松尾直博編著 有斐閣アルマ 『幼稚園教育要領』(最新版)、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』(最新版) 『教師・保育者のための教育相談』 大野精一編著 萌文書林

## 参考書・参考資料等

『幼稚園教育要領比較対象表』(最新版)、『幼稚園教育要領解説』(最新版)、『幼保連 携型認定こども園教育・保育要領解説』(最新版)、『保育所保育指針および同解説』(最新 版)

#### 学生に対する評価

定期試験の成績(50%)、小テスト(25%)、課題(25%)を総合判断して評価する。

## 履修上の注意

子どもの発達や成長を理解できるよう様々な文献等を活用し、事前・事後学習を行うこと

実務経験の有無 有 実務経験 元中学校理科教諭・校長、元指導主事、幼保巡回相談・教育相談

## 実務経験を活かした教育内容

幼児や保護者への相談経験を活かし、具体的な事例を元に授業をする。

卒業必修		保育士必修		幼稚園教諭必修	5	選択
授業科目名: 教職実践演習(幼) ナンバリング: 2501	教員	員の免許状取得のた& 必修科目	かの	単位数:2単位 (半期)演習	教職 教員	教員名: 担当教員と教科担当 がチームで担当 形態:オムニバス
科目		教育実践に関する科	月		,——	77274
施行規則に定める 科目区分又は事項等		教職実践演習				

- 1. 子どもに対する使命感・責任感・教育的愛情を持って教育活動にあたる意識や姿勢・態度を身につけることができる。
- 2. 子どもはもとより、同僚や保護者とも良好な関係を保持でき、チームの一員として行動できる社会性とその基本ともいえるコミュニケーション能力を身につけることができる。
- 3. 保育内容と学級経営に関する知識や技術を具体的事例から追求することにより、保育現場における総合的指導力を身につけることができる。

## 授業の概要

保育者(幼稚園教諭)として本学で学習し身につけた知識や技術を統合して、保育現場で活躍できるよう実践的に学ぶ。現役保育者などからの具体的事例をもとに保育者としての職務の具体的内容や保育者としての職業意識を理解し身につけ、現場密着の実践的授業から信頼される保育者としての資質を身につける。

#### 授業計画

目的を達成のため授業は学生主体で、次の方法で実施する。

- 1) 授業は学生主体の演習で行う。学生はそれぞれの学問的興味や 関心にあわせて、上記目標にあわせた課題を事例研究・フィー ルド・ ワークなどで調査研究をおこなう。
- 2) それに基づき、グループ討議、ロールプレイやプレゼンテーションを模擬授業の形式で行う。
- 3) これらを現場の現役教員あるいは経験者を招いて、現場の立場から意見やコメントを求める。
- 4) 保育現場に出向き現場での指導力を身につけるように努める。
- 第1回:授業オリエンテーション(本授業の目的と方法の説明)
- 第2回:教育に対する抱負の発表(グループごと)
- 第3回:グループでの研究テーマと計画案を作成(発表)
- 第4回: 文献・現場調査・教材研究などの詳細計画の作成(発表)
- 第5回:文献・現場調査または教材研究などの活動①
- 第6回:文献・現場調査または教材研究などの活動②
- 第7回:文献・現場調査または教材研究などの活動③
- 第8回:グループでの研究発表(他グループとの質疑応答)①
- 第9回:グループでの研究発表(他グループとの質疑応答)②
- 第10回:研究成果のマイクロティーチングの準備(教材と指導案作成)①
- 第11回:研究成果のマイクロティーチングの準備(教材と指導案作成)②
- 第12回:研究成果のマイクロティーチング①
- 第13回:研究成果のマイクロティーチング②
- 第14回:保育現場に必要な知識と技術とは何か
- 第15回:幼稚園教諭に必要な要件(資質・技術など)とは何か(討議)
- 定期試験:全体発表(どのような幼稚園教諭になりたいか)

#### 授業の方法

グループワークを中心に行う。授業は教室を離れてフィールドでも行う。

そのため、保育現場を見学し、調査をするほか、外部の現役保育者を授業に招聘するなど実際的な授業を展開する。

テキスト 授業において指示する。

## 参考書・参考資料等 適宜紹介

#### 学生に対する評価

授業参画度(50%)、マイクロ・ティーチングと準備資料等(30%)、発表(20%)

#### |履修上の注意

学生主体の演習で行うので、学生はそれぞれの学問的興味や関心にもとづき、目標設定をし、事例研究・フィールドワークなどの調査・研究を通して、教育現場での指導力を身につけるよう努めること。

実務経験の有無無実務経験

実務経験を活かした教育内容

#### 授業時間外の学習

(毎回 90 分程度)

保育現場で即戦力として子どものがに立てるよう実践的な、毎と技術を身につけるため、毎回の授業では、単位制度の意味をよく理解して、事前学習と事後学習を行うこと。

調査研究などは事前の準備と 事後の検証が非常に重要である。

マイクロティーチングは、準備とフィードバックなしには効果が期待できない。この準備と 検証には時間をかけることが重要である。

毎回の授業の振り返りと次回 に向けての事前準備と他者との 意見交換なくしては、この授業 は成立しないので準備は怠りな

課題は担当者からも指示するが、自らが将来的課題を見つけてそれに向かって学習することが重要である。

卒業必修	保育士必修	幼稚園教諭必修 選択
授業科目名:	保育士資格取得のため	の 単位数:2単位 担当教員名:伊藤道雄
保育実践演習	必修科目	(半期) 演習 担当形態: クラス分け
ナンバリング:2601		
系 列	総合演習	
教科目	保育実践演習	

- 1. 保育の課題を知り、自ら課題を選択したり、研究実践を行うことができる。
- 2. 保育への理解を深め、生き方と関連させ、自らの保育観を立案できる。
- 3. 障害のある子どもの具体的な生きにくさと対応を知り、自らの見識を広げることができる。

## 授業の概要

大学近隣にある小学校の放課後児童教室との交流、障害のある子に関わる諸施設の見学、保育を目指す学生同士の情報交換を通して、自らの保育観の確立を図る。

#### 授業計画

第1回:授業の概要を知り、オリエンテーション等の実施。

第2回:授業全体の計画を立案する。

第3回:小学校の放課後児童教室との交流会の事前の計画を行う。

第4回:放課後児童教室の子どもとの交流会の実践を行う。

第5回:交流会の成果・反省を行い、学んだことをまとめる。

第6回:療育機関、教育機関(学校等)の視察の準備を行う。

第7回:療育機関、教育機関(学校等)の視察の実施。

第8回:療育機関、教育機関(学校等)の役割の理解を行う。

第9回:保育者になるための保育課題の理解と話し合い。

第10回:小学校放課後児童教室との交流会の事前の計画を行う。

第11回:放課後児童教室の子どもとの交流会の実践を行う。

第12回:交流会の成果・反省を行い、学んだことをまとめる。

第13回:保育者になるための保育課題の理解と話し合い。(2回)

第14回:保育者になるための保育課題の理解と話し合い。(3回)

第15回:自らの保育課題のまとめ。

定期試験:レポート、意見発表

## 授業時間外の学習

- ・次回の準備(1時間)
- ・授業検討の準備(1時間)
- ・次回の準備(1時間)
- ・成果と課題の分析(1時間)
- ・次回に向けて検討(30分)
- ·次回交流会計画検討(1時間)
- ・成果と課題の分析(1時間)
- ·次回交流会計画検討(30分)
- ・次回の準備(1時間)
- ・成果と課題の分析(1時間)
- ・視察の調べ(1時間)
- ・視察先の役割調べ(1時間)
- ・成果と課題の分析(1時間)
- ・総括まとめ(1時間)

## 授業の方法

話し合い、小学校の放課後児童教室との交流会、療育機関、教育機関(学校等)の視察等

## テキスト なし

#### 参考書・参考資料等

プリント等適宜配布する。

#### 学生に対する評価

授業への参加姿勢・態度・子どもとの係わり方(60%)、研究発表(40%)等総合的に評価する。

## 履修上の注意

自分で視点を決め、考え研究するという積極的な態度で参加する。

実務経験の有無 有 実務経験 元小学校教諭

#### 実務経験を活かした教育内容

小学校教諭の経験を活かして、小学生との交流会の立案・準備・まとめについて教授する。

卒業必修	保育士必修	幼稚園教諭必修 選択
授業科目名:	保育士資格取得のため	のの 単位数:2単位 担当教員名:小澤和恵
保育実践演習	必修科目	(半期) 演習 担当形態: クラス分け
ナンバリング:2601		
系 列	総合演習	
教科目	保育実践演習	

- 1. 一人ひとりの音楽表現の可能性を広げ、保育者、教育者として必要な豊かな感性と表現力を身につけることができる。
- 2. 「音楽」という現象を捉えることから「音楽のもつ力」を考え、「音楽」する楽しみを理解できる。
- 3. 楽しい音楽会を企画できる発想力を養い、実際に、企画、運営することができる。

#### 授業の概要

「音楽」とは何かを学び、「音楽のもつ力」を考え、様々な音楽活動に取り組む。保育者、 教育者として必要な感性と表現力を身につけ、子どもにとって楽しい音楽活動を展開できるよ うにする。

## 授業計画

第1回:オリエンテーション

第2回:話題提供①「音楽の起源」「音楽の力」

第3回:話題提供②「子どもと音楽」-各自課題設定

第4回:「子どもと音楽」 活動のための研究

第5回:「子どもと音楽」 研究発表・意見交換会①

第6回:「子どもと音楽」 研究発表・意見交換会②

第7回:季節や行事にあわせたコンサート企画・練習①

第8回:季節や行事にあわせたコンサート企画・練習②

第9回:季節や行事にあわせたコンサート

第10回:アンサンブルを楽しむ

第11回:合奏を楽しむ

第12回:季節や行事にあわせたコンサート企画・練習①

第13回:季節や行事にあわせたコンサート企画・練習②

第14回:季節や行事にあわせたコンサート

第15回:まとめと今後への課題発見

定期試験:課題の発表会

授業時間外の学習

(各課題に対し1時間程度) 話題に対しての調べ学習

教材研究

IJ

教材研究の見直し

IJ

企画・練習

IJ

コンサートに向けての練習

アンサンブル練習

合奏練習 企画・練習

コンサートに向けての練習

課題発表の準備

授業の方法
教員からの話題提供とディスカッションで授業を進める。

音楽活動については、演習と発表によって、表現力を高めていく。

#### テキスト なし

## 参考書・参考資料等 授業内で指示

### 学生に対する評価

- ・授業への参画度、調べ学習の成果、音楽活動に対しての練習と発表に取り組む姿勢と企画力・表現力を評価する。(50%)
- ・個人に達成度が記入できる評価票を配布し、それを基準に評価する。(50%)

#### 履修上の注意

音楽表現に対する興味・関心をもち、積極的な取り組みを期待する。

実務経験の有無 有 実務経験 元中学校音楽科教諭

#### 実務経験を活かした教育内容

音楽授業実践の経験を活かし、音楽活動の楽しさを伝えられるよう授業を行う。

卒業必修		保育士必修		幼稚園教諭必修		選択
授業科目名:	保	保育士資格取得のための		単位数:2単位	担当	教員名:小澤俊太郎
保育実践演習		必修科目		(半期)演習	担当	形態:クラス分け
ナンバリング:2601						
系 列	総合演習					
教科目	保育実践演習					
授業の到達目標及びテーマ 1. 「音楽」、「IT」、「映像」の歴史を理解し、これからの社会で活用するための力を身につける。 2. 保育の現場で生かせる、映像技術を身につけ、作品を制作することができる。 3. 自分で制作した作品について、説明をし、発表をすることができる。						

## 授業の概要

- 1. 「音楽」、「映像」、「情報技術(IT)」をキーワードに、これらの歴史について理解し、これからの社会でどのように生かしていくかを研究する。
  2. 様々な分野からの視点を持ち、学ぶことで保育における新たな音楽の関わりやITの活用について研究し、保育現場で生かすことのできる力を養う。

授業計画

第1回:オリエンテーション(保育現場でこれから問われる力)

第2回:音楽の歴史を学ぶ

第3回:映像の世界について学ぶ

第4回:ITの歴史を学び、未来について考える

第5回:映像制作の基礎を学ぶ

第6回:映像の撮影と編集作業を学ぶ

第7回:テーマごとに映像を撮影する

第8回:撮影した映像をもとに、編集を行う

第9回:制作した作品の発表を行う

第10回:楽譜作成ソフトの基本操作を学ぶ

第11回:楽譜作成ソフトを使用して、オリジナルの楽譜を作成する

第12回:これまでの学習内容をもとに保育現場での活用を考える

第13回:手遊びの動画制作

第14回:パネルシアターの動画制作

第15回:制作した映像作品を上映し発表を行う

授業時間外の学習

シラバスを事前に確認する (30分)

事前に講義資料を理解する (1時間)

事前に講義資料を理解する (1時間)

事前に講義資料を理解する (1時間)

講義内容の復習

(1時間)

講義内容の復習

(1時間)

制作する作品のテーマ決め

(1時間)

編集の仕上げと書き出し

(1時間)

発表に向けた準備

(1時間)

各自楽譜を用意しておく

(1時間)

制作する楽曲の楽譜の準備

(1時間)

学習内容の復習

(1時間)

手遊びの事前練習

(1時間)

パネルシアターの事前練習

(1時間)

作品の発表に向けた準備

(1時間)

#### 作品発表

(定期試験:研究発表)

#### 授業の方法

教員から具体例などの提供を行い、授業を展開していく。そして、学生が中心となり、ディスカッシ ョン等を通して、学びを深めていく。また、実際に楽曲の演奏、情報機器の操作、映像制作など実技を 通して学んだことを実践する。

## テキスト なし(適宜、講義資料を提供する)

#### 参考書・参考資料等 授業内で紹介する。

#### 学生に対する評価

制作した作品と発表の質(50%)。 また、活動に意欲的であったか、準備への取り組み方を見て 判断する(30%)。授業毎に配布するプリントへのコメントを評価する(20%)。

「得意・不得意」は問わないが、音楽、映像、ITに対し「興味・関心」を持ち、自発的な活動ができ る学生の履修を期待する。保育の技術を学ぶのではなく、これからの保育における関わり方を学ぶ授業 である。

実務経験の有無 実務経験

## 実務経験を活かした教育内容

卒業必修	保育士必修	幼稚園教諭必修 選択
授業科目名:	保育士資格取得のため	りの 単位数:2単位 担当教員名:加藤房江
保育実践演習	必修科目	(半期) 演習 担当形態: クラス分け
ナンバリング:2601		
系 列	総合演習	
教科目	保育実践演習	

- 1. 保育士として必要な専門的知識及び技術、深い教養、総合的な判断力、倫理観等を修得することができる。
- 2. 保育に関する現代の課題・現場を分析し、それらの対応として、保育士、保育の現場、地域、 社会に求められることは何か、多様な視点から考察することができる。
- 3. 自己の課題を明確にし、保育実践に際して必要な基礎的な資質・能力を定着させることができる。

#### 授業の概要

本授業では、子どもの活動や発達を予測し、保育に必要な専門的知識及び技術、教養、総合的な判断力、倫理観等を修得する。保育士に求められることは何か、考察し、保育実践に必要な基礎的な資質・能力を定着していく。また、教材や遊びなどの児童文化財を考えて制作し、演じ方などを研究していく中で、保育現場で活用出来る教材の制作や保育技術を考察する。そして、保育現場で実際に活かせる制作物や技術を習得し、子どもへの援助をするには、どのような方法があるかを学んでいく。

#### 授業計画

第1回:オリエンテーション

第2回:保育士の意義や役割、職務内容、子どもに対する

責任、倫理観について

第3回: 社会性、対人関係能力について

第4回:子どもやその家族の理解、職員間の連携、関係機関と

の連携について

第5回:保育や子育て家庭に対する支援の展開について

第6回:各自テーマをもとに課題解決向け内容や方法

第7回:研究活動・制作①

第8回:ゼミ内発表会・他のゼミとの交流

第9回:自己の課題の明確化と研究活動

第10回:研究活動・制作②

第11回:研究活動・制作③

第12回:研究活動·発表準備①

第13回:研究活動・発表準備②

第14回:ゼミ内発表会

第15回:まとめと今後の課題発見

定期試験:研究発表

#### 授業時間外の学習

- ・保育士の意義や役割、職務内容、 小友に対する責任、倫理観につい て今まで学んだことを復習して おく(1~2時間程度)。
- ・研究活動の多くは、授業時間外の 学習や活動である。そのため日頃 から研究し、計画的に取り組むこ と(予習、復習に1~2時間程度 の時間)。
- ・実習や保育者になった時のことを 意識しながら、教材研究を行い、 アイディアを集めておく。
- ・幼稚園・保育所実習に向けて準備 や制作などを進める。
- ・ゼミ内でロールプレイや成果の発表を行うため、発表においては身近な人などに模擬演習をしておく(1~2時間程度)。

## 授業の方法

保育士として必要な専門知識や技術を確かなものにするためのテーマについて、グループ討論やロールプレイング等を交え研究活動を進める。教員からの話題提供や自己課題を把握する中で、各自調べ学習を行い、研究したものを発表することにより、実践力を高める。

## テキスト 必要に応じ適宜プリントを配布する。

#### 参考書・参考資料等 各自必要な本について案内する。

## 学生に対する評価

研究に取り組む意欲・態度(40%)、制作物(30%)、成果発表(30%)を総合的に評価する。

#### 履修上の注意

研究に必要な事前の予習・準備を行い臨むこと。

保育現場を意識し、主体的に授業に臨み、活動を楽しむこと。

#### 実務経験の有無 有 実務経験 元保育士、元主任保育士

## 実務経験を活かした教育内容

保育士の経験を活かし、保育現場に必要な知識や技術の修得ができるような内容を行うことで、職場 に出た時に必要となる力を身に付けられること見据えて授業を行う。

卒業必修	保育士必修	幼稚園教諭必修 選択
授業科目名:	保育士資格取得のため	の 単位数:2単位 担当教員名:金子智昭
保育実践演習	必修科目	(半期) 演習 担当形態: クラス分け
ナンバリング:2601		
系 列	総合演習	
教科目	保育実践演習	

- 1. 保育者に必要な専門的知識や技術、教養及び判断力、倫理観などを総合的に理解できる。
- 2. 保育実習や講義の学びに基づき、保育の課題を分析し、その課題への対応策を説明できる。
- 3. 保育者としての自己課題を明確化し、保育実践力を身につけて発揮できる。

#### 授業の概要

本授業では、様々なワークショップに取り組み、自己発見や他者理解、心地良いコミュニケーションのあり方などを探求する。また、科学遊びを研究し、子どもの意欲や好奇心を育む遊びのレパートリーを増やす。更に、各自(または、グループ)の興味・関心に沿った研究テーマを設定し、実際に調査を行い、研究成果を発表する。こうした主体的な研究活動を通して保育者としての基礎的な資質能力を養う。

## 授業計画

第1回:授業ガイダンス、研究テーマの発表、研究活動の進め方

第2回:アイスブレイキング:お互いを知り合うためのエクササイズ間外の学習である。そのため、

第3回:自己理解を深める:エゴグラムなど

第4回:コラージュによる自己分析

第5回:人間関係の中の自己に気づく:四面鏡など

第6回:科学遊びの探求:身近な物を活かした遊び(1)

第7回:科学遊びの探求:身近な物を活かした遊び(2)

第8回:科学遊びの探求:身近な物を活かした遊び(3)

第9回:研究活動の中間報告と討議(全員発表)

第10回: 学生によるワークショップの企画・実施(1)

第11回: 学生によるワークショップの企画・実施(2)

第12回:調查·研究活動(1)

第13回:調査・研究活動(2)

第14回:発表準備

第15回:研究成果の発表と講評

定期試験:レポート

## 授業時間外の学習

研究活動の多くは、授業時間外の学習である。そのため、 文献収集やレポートにまとめるなどの作業は、日頃から計画的に取り組むこと。

(週1~2時間程度の時間が必要である)

実習は自らの研究課題を深める絶好の機会である。そのため、実習前に研究課題を明確にすること。(実習前、2時間程度の時間が必要である)

研究発表やワークショップ の実施に当たり、事前準備を 入念に行うこと。(週1~2時 間程度の時間が必要である)

#### 授業の方法

PBL(課題解決型学習)、プレゼンテーション、フィールドワークを行う。レポートにはコメントを記入して返却する。

## テキスト なし

#### 参考書 · 参考資料等

適宜プリント等を配布する。

### 学生に対する評価

レポート(60%)、研究活動や授業への参画度(40%)から評価する。

#### 履修上の注意

授業に当たり、仲間と共に学び合う姿勢を大切にして、探求心を忘れないようにして欲しい。 研究活動や授業に関する質問は、オフィスアワーなどの時間でも受け付ける。また、調査に必要なフィールドは可能な限り紹介したい。

実務経験の有無 有 実務経験 元保育所勤務(保育補助員)

#### 実務経験を活かした教育内容

保育所での保育経験を活かし、保育現場に即した実践的な授業を行う。

卒業必修	保育士必修	幼	力稚園教諭必修	:	選択
授業科目名:	保育士資格取得のため	の 単	単位数:2単位	担当	教員名:金美珍
保育実践演習	必修科目		(半期) 演習	担当	形態:クラス分け
ナンバリング:2601					
系 列	総合演習				
教科目	保育実践演習				

- 1. 子どもの遊びや運動の重要性を理解できる。
- 2. 子どもたちが心と体をイキイキさせながら遊びや運動を行うために保育者はどのように支援すべきかを考えることができる。
- 3. 運動遊びのプログラムを作成し、模擬保育と振り返りを通して、子どもたちへの運動遊びの支援方法を身につけることができる。

#### 授業の概要

現代の子どもは体を使った遊びや運動をする機会が減っている。その結果、子どものこころと身体に様々な影響を与えている。そこで本授業では、子どもの運動や遊びに焦点を当て、社会的背景を視野に入れた遊びの変遷や、その影響について考察するとともに、子どもたちの遊びへの支援方法を身につける。

会的背景を視野に入れた遊びの変遷や、その影響について考察するとともに、子どもたちの遊びへの支援方法を身につける。		
授業計画	授業時間外の学習	
第1回:オリエンテーション	・話題についての自主学習(1時間)	
第2回:現代社会における子どもの体と遊び①	・指導案作成の資料収集(1時間)	
第3回:現代社会における子どもの体と遊び②	・発表準備(1時間)	
第4回:現代社会における子どもの体と遊び③	・成果発表の振り返り(1時間)	
第5回:体を使った遊びの指導案作成①	・話題についての自主学習(1時間)	

第6回: 体を使った遊びの指導案作成② 第7回: 体を使った遊びの指導案作成③

第8回: 発表準備 第9回: 成果発表① 第10回: 成果発表②

第11回:成果発表の振り返り 第12回:子どものスポーツ① 第13回:子どものスポーツ② 第14回:子どものスポーツ③

第15回:領域「健康」をめぐる課題と保育実践まとめ

定期試験:筆記

授業の方法 演習、ディスカッション、グループワーク作業・発表。

## テキスト 特に指定しない。

参考書・参考資料等 授業内で適宜紹介する。

## 学生に対する評価

指導案発表(40%)、授業への取り組み・討論への貢献度(30%)、発表(30%)

#### 履修上の注意

- ・子どもの体や遊び、そして現代社会における諸問題について関心を持ち、自主的に授業に臨むこと。・必ず大学指定のジャージと運動シューズで出席すること。
- ・積極的な態度で演習に取り組むこと。

実務経験の有無無実務経験

実務経験を活かした教育内容

卒業必修	保育士必修	幼稚園教諭必修 選択
授業科目名:	保育士資格取得のため	うの 単位数:2単位 担当教員名:髙橋努
保育実践演習	必修科目	(半期) 演習 担当形態: クラス分け
ナンバリング:2601		
系 列	総合演習	
教科目	保育実践演習	

- 1. 児童虐待の現状や対応策等について理解し、実践できる。
- 2. 「オレンジリボン運動」の啓発等に関する研究や活動を行うことで、将来、施設保育士として勤務するために必要な技術と理論を身につけることができる。
- 3. 支援計画・記録・評価の方法や内容について理解し、具体的に表現できる。

## 授業の概要

保育実習等を通じた自らの体験をもとに、保育者として必要な専門的知識、技術、教養、判断力、倫理観等を習得する。保育の実践に際して必要となる基礎的な資質・能力を定着させる。

## 授業計画

第1回:学習の進め方について、研究テーマ・研究計画書の作成

第2回:調査・研究活動(児童福祉施設について)(1)

第3回:調査・研究活動(児童福祉施設について)(2)

第4回:調査・研究活動(他大学の活動について)

第5回:調査・研究活動(過去のオレンジリボン運動について)

第6回:調査・研究活動(論文等の検索)

第7回:中間報告

第8回:レポート作成の流れについて

第9回:レポート作成(1)

第10回:レポート作成(2)

第11回:発表準備(調査・研究活動の成果発表) (1)

第12回:発表準備(調査・研究活動の成果発表) (2)

第13回:発表会(ポスター発表)

第14回:まとめ(レポート発表 前半)

第15回:まとめ(レポート発表 後半)

定期試験:レポート

## 授業時間外の学習

- 1. 児童虐待防止に関する情報を集める(2時間)
- 2. 児童虐待やオレンジリボ ン運動の情報を集め、その 対応方法等について理解を 深める(2時間)
- 3. 文献資料等を参考に、児 童虐待防止の歴史的背景や オレンジリボン運動・子ど も食堂等についても学習を する(2時間)

これら調べ学習が必須であり、 図書館などを活用し率先して 学習すること。

授業の方法 演習形式で行う。調べ学習を中心に、調査した資料等のディベート等を行う。

テキスト 授業内で必要な書籍を紹介していく。

#### 参考書 • 参考資料等

授業内で適宜プリント等配布する(過去のオレンジリボン活動等の報告書等)

## 学生に対する評価

授業の中間で行う報告会(50%)、レポート課題(50%)

実務経験

#### 履修上の注意

実務経験の有無

- ・調査・研究が中心となる。図書館やインターネット等の活用と必要な資料の取捨選択ができるように なることを目標とする。
- ・学生が自ら考え行動することで、体験から学びとってゆくプロセスが重要である。 それぞれが問題意識をしっかりと持ち、積極的・主体的に準備を進めること。

\_\_\_\_\_\_ 実務経験を活かした教育内容

施設での相談業務経験を活かし、施設保育士の必要性や実践力が身につくよう、施設等と連携した実践に近い授業を行う。

元施設勤務(社会福祉士)

## -86-

卒業必修	保育士必修	幼	]稚園教諭必修		選択
授業科目名:	保育士資格取得のため	の単	单位数:2単位	担当	教員名:原口政明
保育実践演習	必修科目	(	(半期) 演習	担当	形態:クラス分け
ナンバリング:2601					
系 列	総合演習				
教科目	保育実践演習				

- 1. 幼児期の問題や課題などの事例を理解し、テーマを設定することができる。
- 2. テーマに沿って、アクティブ・ラーニングにより課題を追求していくことができる。
- 3. 困っている幼児・保護者へのかかわり方・相談支援について理解できる。

#### 授業の概要

困っている幼児・保護者の実態とかかわり方・相談支援の方法等について理解し、設定した テーマに沿った調査研究をし、研究発表を行う。

## 授業計画

第1回:オリエンテーション

第2回:話題提供① 幼児期の問題や課題の現状

第3回:話題提供② 幼児・保護者への教育相談の実際

第4回:各自のテーマ・研究デザインの設定・資料収集①

第5回:各自のテーマ・研究デザインの設定・資料収集②

第6回:研究デザイン発表

第7回:調査研究①

第8回:調査研究②

第9回:調査研究③

第10回:研究中間発表

第11回:調査研究④

第12回:調查研究(5)

第13回:発表準備①

第14回:発表準備②

第15回:全体のまとめ

定期試験:研究発表

#### 授業時間外の学習

研究活動は、授業時間外の調査研究が大半を占めるので、課題意識を持って、日頃から研究に取り組む姿勢を大切にする。

(授業毎に2時間程度)

授業では、アクティブ・ラーニングを取り入れるので、 自分の考えを述べられるよう に、日常から表現力を磨いて おく。

教育相談の現場への見学やボランティア参加などにより、困っている幼児・保護者の実態についての理解を深めておくことが望ましい。

(日数は適宜)

授業の方法 演習、発表、文献研究、アクティブ・ラーニング(プレゼンテーション・ディスカッション)

# テキスト なし 参考書・参考資料等

授業において適宜プリント資料を配布する。

#### 学生に対する評価

授業参画度(20%)、レポート(10%)、研究デザイン発表(10%)、中間発表(20%)、 研究発表(40%)

#### 履修上の注意

・課題意識を持って、自分から積極的に調査研究を行う。

実務経験の有無 有 実務経験 元中学校理科教諭・校長、元指導主事、幼保巡 回相談・教育相談

#### 実務経験を活かした教育内容

幼児や保護者への相談経験を活かし、具体的な事例を元に授業をする。

卒業必修	保育士必修	幼稚園教諭必修 選択	
授業科目名:	保育士資格取得のため	の 単位数:2単位 担当教員名:布施由起	
保育実践演習	必修科目	(半期) 演習 担当形態:クラス分け	
ナンバリング:2601			
系 列	総合演習		
教科目	保育実践演習		

- 1. 特別な配慮を要する子どもの心情が理解できる。
- 2. 保育場面で特別な配慮を要する子どもの対応を、遊びや環境調整を通して実践できる。
- 3. 特別な配慮を要する子どもの保護者に支援方法を説明できる。

#### 授業の概要

特別な配慮を要する子ども(被虐待児、場面緘黙、発達障がい児、他)に対する心理的支援 について学ぶ。保育の集団場面でどのように関わっていくべきか、どのような遊びを通して心 の成長を育むかについて探求し、実際に支援に使えるアイテムの作成なども行う。

## 授業計画

第1回:オリエンテーション

第2回: 教員による話題提供・各自テーマの選定

第3回:具体的な支援方法についての学び

第4回:遊びを通した支援方法についての学び

第5回:調查·研究活動①

第6回:調査・研究活動②

第7回:調查・研究活動③

第8回:中間報告・ディスカッション

第9回:調査・研究活動④

第10回:調査・研究活動⑤

第11回:調査・研究活動⑥

第12回:発表準備①

第13回:発表準備②

第14回:発表準備③・ディスカッション

第15回:全体のまとめ

定期試験:研究発表

## 授業時間外の学習

- ・各自気になる子どものテーマに関する文献を読み学習を進め、計画的に研究活動を行うこと。
- ・保育実習などで様々な子ど もの観察を行い、定型発達 の子どもの理解も深めてお く。
- ・施設見学やボランティア活動を積極的に行い、特別な配慮を要する子どもの理解を深められるよう自主的に学ぶ。
- ・授業前後には、合わせて1時間程度の自主学習を要する。

授業の方法 各自テーマを設定し、調査・研究を進める。

#### テキスト

なし

## 参考書・参考資料等

必要に応じて適宜プリントを配布する。参考図書は授業内で指示する。

## 学生に対する評価

授業参画度(40%)、レポート・製作(20%)、研究発表(30%)

#### 履修上の注意

事前の準備、事後のまとめをしっかり行い、積極的に調査・研究活動に取り組むこと。

実務経験の有無 | 有 | |実務経験 | |クリニック勤務(臨床心理士、公認心理師)

#### 実務経験を活かした教育内容

精神科クリニック勤務の経験を活かして、具体的な対応方法について学ぶなど実践的な授業を行う。

卒業必修	保育士必修	幼稚園教諭必修 選択		
授業科目名:	保育士資格取得のため	のの 単位数:2単位 担当教員名:細田香織		
保育実践演習	必修科目	(半期) 演習 担当形態: クラス分け		
ナンバリング:2601				
系 列	総合演習	—————————————————————————————————————		
教科目	保育実践演習			

- 1. 読み聞かせについての知識・技術を向上させ、実習や保育現場で活用することができる。
- 2. 昔話や絵本、童話を題材にして各自がテーマ設定を行い研究することで、物語に対する深い 洞察力を養い、その成果を他者に発表することができる。
- 3. お話に対する興味・関心や学びを深め、さまざまな楽しみ方を知り、幼稚園や保育所で効果的に楽しみながら読み聞かせたり語ったりすることができる。

#### 授業の概要

絵本や昔話、幼年童話等の児童文化財を主に研究対象とし、実践と研究の両側面から学びを深める。実践では、絵本の読み聞かせや素話を学ぶ。研究では、昔話絵本や、昔話を題材として映画と原作との比較なども行い、学生の興味に基づき知識と技術を向上させる。

## 授業計画

第1回:オリエンテーション

第2回:読み聞かせについて(絵本の選び方・絵本の種類)

第3回:実習で絵本を読むことを意識した質疑応答、実践演習

第4回:ストーリーテリング(語り)について

第5回:物語に登場する食べ物を実際に作って食べる

第6回:物語(絵本)研究の方法・実際の研究についての講義

第7回:書籍の探し方・参考図書の紹介

第8回: 学外研修① 第9回: 学外研修②

第10回:学外研修のまとめ(レポート作成)

第11回:学外研修の学び報告会①

第12回:学外研修の学び報告会②

第13回:ゼミ発表会の準備(研究発表の方法決定・準備開始)

第14回: ゼミ発表会の準備 第15回: ゼミ発表会予行練習 第16回: ゼミ発表会・論文提出

## 授業時間外の学習

- ・論文にまとめるための調べ 学習や情報収集 (30分程度)
- ・授業の時間以外で、ストー リーテリングの練習を行 い、最後までに最低一つは 語れるようにする。日々の 練習が大切である。 (20分程度)

#### 授業の方法

- ・最初は講義形式で学び、その後は調べ学習を中心とした演習形式。
- ・ICT学習(プレゼンテーション)、ディスカッション、学生発表も行う。
- ・図書館等に赴く学外研修での学びも行う。

テキスト 特になし。適宜資料を配布する。

#### 参考書・参考資料等 適宜配布する。

#### 学生に対する評価

授業参画度(20%)、レポート(20%)、論文(30%)、発表(30%)

#### 履修上の注意

主体的に学ぶ意欲と、論文にまとめる根気が必要になる。

実務経験の有無有実務経験元高等学校国語科教諭

## 実務経験を活かした教育内容

国語科教諭の経験を活かし、本を学習教材として考察したり論文にまとめるための援助を行う。

卒業必修	保育士必修	幼稚園教諭必修 選択		
授業科目名:	保育士資格取得のため	うの 単位数:2単位 担当教員名:丸山アヤ子		
保育実践演習	必修科目	(半期) 演習 担当形態: クラス分け		
ナンバリング:2601				
系 列	総合演習	総合演習		
教科目	保育実践演習			

- 1. 保育環境としての遊びの役割や「子どもの発達を促す遊びとは何か」を理解することができる。
- 2. 子どもの年齢・発達に即した保育教材作りをし、その配慮点・留意点及び教育的効果を理解できる。
- 3. 子育て家庭に対する支援の展開が理解できる。

#### 授業の概要

保育現場に求められる保育者としての高い資質向上のため、現場に役立つ保育教材作りをし、 保育者に必要な知識・技能を修得する。なつまつりを通して子育て支援を学ぶ。

## 授業計画

第1回:オリエンテーション

研究テーマや役割分担を決め、活動計画を作成する

第2回: 研究に基づいた保育教材を使った指導計画を作成する

第3回:保育研究活動·制作活動 I

第4回:保育研究活動・制作活動Ⅱ

第5回:保育教材研究活動・中間発表

第6回:保育教材研究活動・模擬保育

第7回:現場における保育研究:行事について

第8回:「絵本の読み聞かせ」の研究

第9回:子育て家庭に対する支援の種類と子育て支援の実際

第10回: なつまつりの教育的効果と子育て支援としての役割

第11回: なつまつり研究・計画 第12回: なつまつり研究・準備I 第13回:なつまつり研究・準備II

第14回:なつまつり研究・発表

第15回:研究成果のまとめ

定期試験:研究発表

## 授業時間外の学習

・事前学習:2~3時間 実習や保育現場での保育教 材の種類・内容などを事前 準備しておく。

・事前学習:2~3時間 子育て支援の実態について 日頃から関心を持ち、自分 の周りにどのような子育て 支援があるか、調べておく。

・事前・事後学習:30分~1時間 日頃から自分の研究テーマ を意識し、どのように新聞・ニュースで扱われている か、調べておく。

## 授業の方法

自分がやりたい「遊び」の保育研究テーマを明確にし、研究、制作活動を行い、発表に向けてグループ活動をする。子育て支援の実際を体験し、子どもや保護者への理解を深める。

#### テキスト

『幼稚園教育要領解説書』文部科学省 フレーベル館

『保育所保育指針解説書』厚生労働省 フレーベル館

『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説書』内閣府、文部科学省、厚生労働省 フレーベル館

## 参考書 • 参考資料等

『よくわかる幼稚園実習』『よくわかる保育所実習』百瀬ユカリ 創成社 必要に応じてプリントを配布する。

#### 学生に対する評価

研究に取り組む態度・相互協力の姿勢(50%)、製作活動・発表内容(50%)等で評価する。

#### 履修上の注意

- 1. 研究に必要な調査・制作活動は、保育現場・子育て支援でどのように活かされるのか、見通しを持って取り組む。
- 2. 「保育者になる!」という自覚を持ち、研究における自分の役割と責任を果たす。

実務経験の有無 有 実務経験 元保育士・所長、児童センター長、福祉こども課

#### 実務経験を活かした教育内容

公立保育所や児童センター、福祉こども課の経験を活かし、保育計画(実習指導案)作成・おもちゃ作りや子育て支援における保育士の役割等について研究し実践するための授業を行う。

卒業必修	保育士必修		幼稚園教諭必修	:	選択
授業科目名:	保育士資格取得のため	の	単位数:2単位	担当	教員名:持田京子
保育実践演習	必修科目		(半期) 演習	担当	形態:クラス分け
ナンバリング:2601					
系 列	総合演習				
教科目	保育実践演習				

- 1. 保育士として必要な専門知識及び技能についての力を総合的に身につけることができる。
- 2. 実習を通した体験をもとに、保育における現代的な課題について理解し、地域や社会に求め られている保育について広い視野から理解することができる。
- 3. 実習や実践を通して、それらを振り返り、自己の課題を明確にできる。さらにそれらを次の 実践力につなげるための課題と具体的な方法を考えることができる。

#### 授業の概要

保育士として必要な保育に関する専門的知識及び技術、幅広く深い教養及び総合的な判断力 専門職としての倫理観等を習得、形成するために、討議、ロールプレイ、実践を用いて考察を 深める。また保育実習等を通じた自らの体験や収集した情報に基づき、保育に関する現代的課 題についての現状を分析し、その課題への対応として保育士、保育の現場、地域、社会に求め られることは何か、多様な視点から考察する力を習得する。これらの学びを踏まえ、自己の課 題を明確化し、保育の実践に際して必要となる基礎的な資質・能力を定着して、自らの学びを 振り返り、さらなる実践につなげる力を身につける。

#### 授業計画

第1回:保育者として必要な専門知識を考える。(1)

第2回:保育者として必要な専門知識を討議する。(2)クラス運営 1.保育所保育指針の熟読(60分程度)

第3回:保育者として必要な技術を具体的に挙げて考える。

第4回:保育者が必要な技術について意見交換と学び合いをする。

第5回:保育者に必要な技術について制作実践をして、学び合う。(1)

第6回:保育者に必要な技術について制作実践をして、学び合う。(2)

第7回:地域社会から保育者に求められるものについての意見交換をする。

第8回:実習の学びを踏まえ、自己の課題を明確にする。

第9回:自己課題について発表する。意見交換をする。

第10回:現代の保育に求められる人間関係についてのロールプレイ

第11回:自らの得意な保育分野の研究発表の準備をする。

第12回:得意分野の研究発表をする。(1)

第13回:得意分野の研究発表をする。(2)

第14回: 実践に対する、評価、反省、について学ぶ。

第15回:発表後、保育者としての知識、実践力ついて話し合う。

定期試験:研究発表

#### 授業時間外の学習

(毎回事後にまとめる 30分程度)

2. 次週でのクラス運営調べ(60分)

3. 保育技術を考える(40分程度)

4. 保育技術の実践準備をする(90分)

5. 保育技術発表の準備(90分)

6. 保育技術の発表準備(90分)

7. 保育者に求められるものの考察(40分)

8. 実習を踏まえた自らの課題の追 求と発表準備<u>(90 分)</u>

9. 実習を踏まえた自己課題とその解決 について<u>発表準備</u>(60 分程度)

10. 現代に求められる保育考察(40分)

11. 得意分野の研究発表計画(90分)

12. 得意分野の研究発表準備 (90分)

13. 得意分野の研究発表準備と振り 返り(90分)

14. 保育計画実践の評価と反省(60分)

15. 保育者としての知識と実践力に

ついてまとめる(90分)まとめ提出

#### 授業の方法 演習

#### テキスト

『平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育 要領』文部科学省・厚生労働省・内閣府 チャイルド社

## 参考書・参考資料等 必要に応じて適宜配布する。

学生に対する評価 実践発表(30%)、受講態度等(50%)、レポート(30%)を判断して評価する。 履修上の注意

予習・復習を必ず行い、内容を理解した上で授業に臨むこと。積極的に授業に参加して活発な発言や 演習を行うこと。

元幼稚園勤務、保育所巡回指導員 実務経験の有無 有 実務経験

#### 実務経験を活かした教育内容

幼稚園勤務、公立保育所、私立保育園の巡回指導を活かして、保育者に求められる基礎的な知識と技 術の教授、現代社会における保育士の課題、クラスづくりなど学生が具体的に考え、実践できる授業を 行う。

卒業必修	保育士必修	幼稚園教諭必修	選択
授業科目名:	保育士資格取得のた	上めの 単位数:2単位	担当教員名:
保育実習I(保育所)	必修科目	(11日間)実習	加藤房江、丸山アヤ子
ナンバリング:2801			担当形態:複数
系 列	保育実習		
教科目	保育実習I		

- 1. 保育所等の役割や機能を具体的に理解し、子どもの観察や関わりを通して、子どもへの理解 を深めることができる。
- 2. 講義で学んで内容を踏まえ、子どもの保育及び保育者への支援について総合的に理解できる。
- 3. 保育の計画・観察・記録及び自己評価等について具体的に学び、保育士の業務内容や職業倫 理について理解できる。

#### 授業の概要

本授業は、実習生として遵守すべき義務及び責任について自覚し、意欲的に保育所実習に臨 むための授業である。授業で学んだことを基礎として具体的に保育所の社会的役割をはじめ、 保育者の役割、子どもの実態などについて理解し、保育実践を行うことが重要である。子ども の保育や保護者の支援、保育の計画・観察・記録等を実践的に理解を深める。

## 授業計画

#### 保育所実習(前半)

実習は2年次の7月に協力保育所にて11日間行う。

前半実習においては、観察型実習及び参加型実習を中心に行う。 観察型実習

保育実践の現場や保育の様子を観察することにより、保育所の 保育方針や一日の流れなどを知る。また、保育者と子どもとの 関わりを通して保育者の社会的役割や子どもとの接し方を学ぶ。

#### 参加型実習

保育士の補助として、保育の一部に参加したり、担当したりする ことで、子どもの生活と保育士の援助や関わり、保育の展開を理解し、発達に合わせた保育技術を する。子どもの発達過程を理解し、援助や関わりを学ぶ。

全体的な計画に基づく指導計画の理解、記録の省察・自己評価を 行い、保育方針や保育計画に基づく日々の保育活動との関連を理解

専門職としての保育士の業務内容、職員間の役割や連携、保育士の 役割と職業倫理を理解する。

## 授業時間外の学習 (各1~2時間程度)

- ・事前に実習先の保育所に 関する情報を集める。
- ・実習先の保育所についての 情報を集め、保育方針等の 理解を深める。
- 高めて、実践できるように 十分準備をしておく。
- 実習を行なったクラスの 子どもの発達の様子や健康 管理、安全対策、食育の取 り組み等、指針や教科書を みて理解を深めておく。

## 授業の方法 協力保育所にての実習。

『実習の手引き』埼玉純真短期大学 テキスト

## 参考書・参考資料等

- ・実習先にて配布されるしおりや実習の心得、楽譜等。
- ・『平成29年度告知 幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園・教育保育要 領<原本>』内閣府・文部科学省・厚生労働省 チャイルド社
- ・『よくわかる保育実習』百瀬ユカリ 創成社

#### 学生に対する評価

実習園からの評価(50%)、実習日誌・事前事後指導の取り組み(50%)から総合的に評価

#### 履修上の注意

- ・「保育実習指導I」を必ず履修すること。
- ・実習後、速やかに実習日誌の記入を丁寧に行い、次の日の朝には、実習園に日誌を提出すること。
- ・保育士の役割を理解し、主体的に授業に臨み、活動を楽しむこと。

実務経験の有無 実務経験 加藤:元保育士、元主任保育士 有 丸山:元保育士・所長、児童センター長、福 祉こども課

## 実務経験を活かした教育内容

保育士の経験を活かし、実習園からの相談等がある場合は速やかに対応を行う。

卒業必修	保育士必修		幼稚園教諭必修	÷	選択
授業科目名:	保育士資格取得のため	の	単位数:1単位	担当	教員名:
保育実習指導 I	必修科目		(半期) 演習	加藤	房江、丸山アヤ子
(保育所)				担当	形態:クラス分け
ナンバリング:2802					
系 列	保育実習				
教科目	保育実習指導 I				

- 1. 保育実習の意義・目的を理解し、実習内容と課題を明確にできる。
- 2. 子どもの人権と最善の利益、実習生としての心構えや守秘義務等を理解できる。
- 3. 実習の計画・実践・記録・評価について、実践的な力を身につけ、今後の実習に向けた課題や目標を明確にできる。

#### 授業の概要

具体的な保育所の社会的役割をはじめ、保育者の役割、子どもの実態などについて理解し、 実践的な力を身につける。また、子どもの保育や保護者の支援、観察・記録等を実践的に学ぶ 中で、保育所実習に臨む力を学ぶ。

## 授業計画

第1回:オリエンテーション 保育実習の意義・目的とは

第2回:保育士の使命と役割 実習生調書作成1 第3回:0·1歳児の保育 実習生調書作成2

第4回:2歳児の保育 オリエンテーションについて

第5回:3歳児の保育 実習日誌の書き方1 第6回:4歳児の保育 指導計画の立て方1 第7回:5歳児の保育 指導計画の立て方2

第8回:実習に際しての留意事項

第9回:実習日誌の書き方2

第10回:乳幼児の発達と遊び

第11回:実習における計画と実践1

第12回:実習における計画と実践2

第13回:実習における観察、記録及び評価1

第14回:実習における観察、記録及び評価2

第15回:事後指導における実習の総括と課題の明確化

定期試験:レポート・指導案等

#### 授業時間外の学習

- ・実習関係の書類を揃え、実 習先に関する情報を収集し 整理する(1~2時間程度)
- 保育所保育指針を熟読し、 ねらいの意味を理解する。
- 保育技術の向上と教材研究 と考察
- ・指導案を作成する
- ・日誌のの記述方法を学ぶ。
- 季節の歌や場面に応じた曲のピアノレッスンを常に行う。
- ・メディア等における保育関 連記事に興味を持って、読 み込む。

授業の方法 テキストや参考資料を活用し、講義形式で行う。必要に応じて課題作成を行う。

テキスト 『実習の手引き』 埼玉純真短期大学

#### 参考書 · 参考資料等

実習日誌、 適宜プリントを配布、『よくわかる保育実習』百瀬ユカリ 創成社

『平成29年度告知 幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園·教育保育要領<原本>』内閣府・文部科学省・厚生労働省 チャイルド社

## 学生に対する評価

授業意欲・態度(50%)、制作物・レポートや課題の内容(50%)

## 履修上の注意

## 保育実習I(保育所)を必ず履修すること。課題の提出等は、必ず期限を守ること。

本科目は、保育所実習のための授業であり、原則欠席をしないこと。やむをえず欠席する場合は、必ず 欠席届を提出する。後日欠席した授業のレポートも提出すること。実習を通して何を学ぶのかを常に念 頭におき積極的態度で学習に臨むこと。

実務経験の有無 有 実務経験 加藤:元保育士、元主任保育士 丸山:元保育士・所長、児童センター長、福 祉こども課

## 実務経験を活かした教育内容

保育士の経験を活かし、実習に必要な準備や実習生としての学ぶ態度、保育の実際について、実践的に学べる授業を行う。

卒業必修		保育士必修		幼稚園教諭必修 選		選択
授業科目名:	保	育士資格取得のため	の	単位数:2単位	担当	教員名:
保育実習Ⅱ(保育所)		選択必修科目		(11日間)実習	加藤	房江、丸山アヤ子
ナンバリング:2805					担当	形態:複数
系 列		保育実習				
教科目		保育実習Ⅱまたは保育実習Ⅲ				

- 1. 保育所の役割や機能、保育の理解や認識、具体的な実践を通して学び、子どもの観察や 関わりの視点を明確にして、理解を深めることができる。
- 2. 授業や実習を踏まえ、子どもの保育及び子育て支援、保育士の業務内容や職業倫理について、 具体的な実践に結びつけて理解することができる。
- 3. 保育の計画・実践・観察・記録及び自己評価等について、実際に取り組み、理解を深めると ともに、実習における自己の課題を明確化できる。

#### 授業の概要

「保育実習I(保育所)」で学んだ知識や技術を更に深め、保育実践力を身につける。

#### 授業計画

#### 保育所実習(後半)

実習は2年次の9月に協力保育所にて11日間行う。

後半実習においては、参加型実習及び指導型実習を中心に 行う。

#### 参加型実習

保育士の補助として、保育の一部に参加したり、担当したりする ことで、子どもの生活と保育士の援助や関わり、保育の展開の理解 を深める。子どもの発達過程を理解し、援助や関わりを理解する。 保育方針や全体的な計画に基づく指導計画と日々の保育活動との 関連を理解する。環境を通して行う保育・生活や遊びを通して総合 的に行う保育を理解する。登園・降園時における保護者との関わり を経験し、子育て支援について学ぶ。

## 指導型実習

配属されたクラスの全体的な計画に基づく指導計画を立案し、指 導者として保育を担当する。準備・実践・省察・評価の全過程を経 験し、指導者としての職務を体感し理解する。保護者に対する子育|・年齢に合わせた、指導案の て支援や地域社会等の連携を理解する。自己の課題を明確化する。

#### 授業時間外の学習

発達に合わせた保育技術を 高めて、実践できるように十 分準備をしておく(実習まで の期間毎日 2~3 時間程度の 時間が必要)

- ・目的意識・実習の課題を踏 まえ、実習日誌の記入を丁 寧に行い、翌日提出し指導 を受ける。
- ・実習担当の先生の指導を仰 ぎながら、実習準備を行う。
- 作成を行う。

授業の方法 協力保育所にての実習。

## テキスト 『実習の手引き』埼玉純真短期大学

## 参考書•参考資料等

- ・実習先にて配布されるしおりや実習の心得、楽譜等。
- ・『平成29年度告知 幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園・教育保育要 領 <原本>』内閣府・文部科学省・厚生労働省 チャイルド社
- ・『よくわかる保育実習』百瀬ユカリ 創成社

#### 学生に対する評価

「実習園からの評価(50%)、実習日誌·事前事後指導の取り組み(50%)から総合的に評価

## 履修上の注意

- ・「保育実習指導Ⅱ」を必ず履修すること。
- ・実習後、速やかに実習日誌の記入を丁寧に行い、次の日の朝には、実習園に日誌を提出すること。
- ・保育士の役割を理解し、主体的に授業に臨み、活動を楽しむこと。

有 実務経験 加藤:元保育士、元主任保育士 実務経験の有無 丸山:元保育士・所長、児童センター長、福 祉こども課

## 実務経験を活かした教育内容

保育士の経験を活かし、実習園からの相談等がある場合は速やかに対応を行う。

卒業必修	保育士必修	幼稚園教諭必修	選択		
授業科目名:	保育士資格取得のため	の 単位数:1単位	担当教員名:		
保育実習指導Ⅱ	選択必修科目	(半期) 演習	加藤房江、丸山アヤ子		
ナンバリング:2806			担当形態:クラス分け		
系 列	保育実習				
教科目	保育実習指導Ⅱまた	保育実習指導Ⅲまたは保育実習指導Ⅲ			

- 1. 保育について総合的に学び、講義で学んだ内容や「保育実習 I (保育所)」の経験を踏まえ、 保育の実践的な力や保育士の専門性、職業倫理について理解できる。
- 2. 事後指導や自己評価を通し、保育に対する課題や認識を理解するとともに将来の保育者としての活動に役立つような資料を作成できる。
- 3. 実習を通して自らの課題をまとめ、1年生に伝えることにより、学びを深化することができる。

#### 授業の概要

本授業は保育について理解を深め、保育の実践的な力や保育士の専門性、職業倫理について 遵守するべき内容について自覚し、子どもへの深い愛情と使命感を持って、将来の保育者とし ての活動に役立つよう確かな知識・技能・保育技術の修得を深める。実習後は、自己の課題を 明確化し、得られた知識や技術をまとめて発表することで、保育の現場で必要な力を身につけ る。

## 授業計画

第1回:オリエンテーション、実習の自己評価

第2回:子どもの最善の利益を考慮した保育の具体的理解

第3回:子どもの保育と保護者支援

第4回:子どもの状態に応じた適切な関わり

第5回:保育の知識・技術を活かした保育実践

第6回:保育所実習に関するレポート作成

第7回:制作に関する指導計画作成① 第8回:制作に関する指導計画作成②

第9回:保育の全体計画に基づく具体的な計画と実践

第10回:保育の観察、記録、自己評価に基づく保育の改善

第11回:保育実践力の育成(指導要録等の記載方法について)

第12回:実習の総括と課題の明確化

第13回: 実習伝え合いのため資料作成

第14回:実習伝え合い

第15回:保育士の専門性と職業倫理 定期試験:レポート・制作物、課題等

## 授業時間外の学習

(各1~2時間程度)

- ・お礼状の作成を行う。
- ・自己評価や課題の明確化を認識し、発表準備を行う。
- ・子どもの前で演じるものの 制作を通して、教材研究を 行う。
- ・就職先を意識した「月のおたより」の作成を行う。
- ・就職先を意識した月案作成を行う。
- ・保育者としての実践力を 高めるための知識や技術を 深める。
- ・自己評価や課題をまとめ 成果と技術の獲得を発表する。

## 授業の方法

演習。各自の主体的な授業参加が求められる。

ディスカッション等を取り入れ、学びを深化させる。

#### テキスト 『実習の手引き』 埼玉純真短期大学

#### 参考書 · 参考資料等

実習日誌、 適宜プリントを配布、『よくわかる保育実習』百瀬ユカリ 創成社

『平成29年度告知 幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園・教育保育要領<原本>』内閣府・文部科学省・厚生労働省 チャイルド社

## 学生に対する評価

授業意欲・態度(50%)、制作物・レポートや課題の内容(50%)

#### 履修上の注意

## 保育実習Ⅱ(保育所)も必ず履修すること。課題の提出等は、必ず期限を守ること。

本科目は、保育所実習のための授業であり、原則欠席をしないこと。やむをえず欠席する場合は、必ず欠席届を提出する。後日欠席した授業のレポートも提出すること。保育所実習を通して学んだのかを常に念頭におき積極的態度で学習に臨むこと。

実務経験の有無 有 実務経験 加藤:元保育士、元主任保育士 丸山:元保育士・所長、児童センター長、福 祉こども課

## 実務経験を活かした教育内容

保育士の経験を活かし、実習に学んだことを基に保育現場に出た時に必要となる内容を見据えて授業を行う。

卒業必修	保育士必修	幼稚園教諭必修	選択		
授業科目名:	保育士資格取得のため	の 単位数:2単位	担当教員名:		
保育実習Ⅲ(施設)	選択必修科目	(12日間)実習	髙橋努		
ナンバリング:2807			担当形態:単独		
系 列	保育実習	保育実習			
教科目	保育実習Ⅱまたは係	保育実習Ⅱまたは保育実習Ⅲ			

- 1. 「保育実習 I (施設)」で学んだことを実践できる。
- 2. 児童福祉施設(保育所以外)、その他社会福祉施設における社会的養育の実情を理解できる。
- 3. 施設保育士として必要な資質・能力・技術を習得し、実践できる。

#### 授業の概要

既に学んだ教科目や保育実習の経験を踏まえ、児童福祉施設等の役割や機能、業務内容、職 業倫理について理解する。地域と家庭との連携、保護者や家庭支援のための知識、技術、判断 力を習得し、実習における自己の課題を理解し今後につなげていく。

#### 授業計画

2年次の9月以降、施設との調整のうえ12日間(休日を含む)の実 専門分野的な実習になる。 習を行う。

## 【実習課題(実習テーマ)】

「保育実習I」において、理解できた点、残された課題等を整理して 、自らのテーマを選定し、日々の記録をおこない、課題達成に向けて 努力すること。そのために、課題は明確であり、かつ、簡潔であるこ|事前学習は、「利用者理解」 とが望ましい。

#### 【参加型実習】

本実習は、「保育実習 I 」において学んだことをもとに、担当者の補| (4時間) 助的役割を果たしながら、施設養護や支援の方法について実践的な理 解を深める。

## 定期試験:レポート

授業の方法 児童福祉法にある児童福祉施設(保育所を除く)及び障害者施設等での実習。

テキスト 『施設実習 パーフェクトガイド』 守巧ほか著 わかば社

#### 参考書 · 参考資料等

- ・実習先でのオリエンテーション及び実習において、実習のしおり、実習生の心得等の資料を配布。
- ・チェックリストをもとに、事前準備等を行う。

## 学生に対する評価

施設実習の評価(50%)、課題(50%)

## 履修上の注意

- ・年度初めに「保育実習Ⅱ」と「保育実習Ⅲ」との希望調査を実施する。その際、「保育実習Ⅲ」を選 択した学生が履修することになる。
- ・「**保育実習指導Ⅲ」を必ず履修**すること。
- ・将来、施設保育士等を目指す学生が履修することが望ましい。
- ・児童虐待や発達障害に関する相談支援等について、理解を深めたいと思う学生が望ましい。
- ・副読本として、本学の『実習の手引き』を使用する。

有 実務経験 元施設勤務(社会福祉士) 実務経験の有無

#### 実務経験を活かした教育内容

施設での実習生指導の経験を活かし、実習日誌の記入方法や実習目標の考え方などを説明する。実習 先の種別に合わせた目標設定ができるよう授業を行う。

## 授業時間外の学習

「保育実習指導Ⅲ」で基礎的 な知識をしっかりと学習した うえで、実習に臨むこと。

|(2時間)

と「家族支援」など多岐にわ たる。文献検索など事前学習 をしっかりと進めること。

卒業必修	保育士必修	幼稚園教諭必修	選択			
授業科目名:	保育士資格取得のため	の 単位数:1単位	担当教員名:			
保育実習指導Ⅲ	選択必修科目	(半期) 演習	髙橋努			
ナンバリング:2808			担当形態:単独			
系 列	保育実習	保育実習				
教科目	保育実習指導Ⅱまた	保育実習指導Ⅲまたは保育実習指導Ⅲ				

- 1. あいさつや服装など生活全般のマナーなどを身につけ、実践できる。
- 2. 将来、施設保育士として勤務するために必要な技術と理論を身につけることができる。
- 3. 支援計画・記録・評価の方法や内容について理解し、具体的に表現できる。

#### 授業の概要

児童福祉施設等における実習の意義と目的について理解を深め、施設保育・社会的養育について総合的に理解する。既習の実習や教科目の内容や関連性を踏まえ、保育の実践力を習得し、観察、記録および自己評価等から施設保育士の専門性と職業倫理につい理解を深める。事後指導では、総括と自己評価を行い、今後の課題を明確にする。

#### 授業計画

第1回:オリエンテーション(実習の心得、マナー、実習先の確認等)

第2回:児童福祉施設について(振返り)(1)

第3回:児童福祉施設について(振返り) (2)

第4回: 実習目標の考え方と実習生調書の書き方(1)

第5回: 実習目標の考え方と実習生調書の書き方(2)

第6回:児童発達支援センター等体験学習(1)

第7回:児童発達支援センター等体験学習(2)

第8回:児童発達支援センター等体験学習(3)

第9回:外部講師(施設職員)による講演(児童館館長)

第10回:模擬授業(グループワーク実践①チーム)

第11回:模擬授業(グループワーク実践②チーム)

第12回:模擬授業(グループワーク実践③チーム)

第13回:実習の振返り(グループワーク)

第14回:実習の振返り(プレゼンテーション資料の作成)

第15回:実習の振返り(プレゼンテーション)

定期試験:レポート

#### 授業時間外の学習

「保育実習Ⅲ(施設)」が スムーズに実施できるよう、 以下の学習が必要となる。

- 1. 配属先の施設に関する情報を集める(1時間)
- 2. 配属先の利用者や児童に ついての情報を集め、理解 を深める(2時間)
- 3. 文献資料等を参考に、児 童福祉施設の歴史的背景等 についても学習をする。

(2時間)

これら調べ学習が必須であ り、図書館などを活用し率先

して学習すること。

授業の方法 講義形式で行う。また、児童発達支援センター等児童福祉施設での体験学習を行う。

テキスト 『施設実習 パーフェクトガイド』 守巧ほか著 わかば社

## 参考書・参考資料等

授業内で適宜プリント等配布する(実習チェックリスト、施設パンフレット等)。

## 学生に対する評価

授業の中間で行う筆記テスト(50%)、提出課題(50%)

#### 履修上の注意

- ·保育実習Ⅲの履修を必ず忘れないこと。
- ・施設実習は学生が自ら考え行動することで、体験から学びとってゆくプロセスが重要である。 それぞれが問題意識をしっかりと持ち、積極的・主体的に準備を進めること。
- ・履修登録時、記載漏れが多いので、チェックを忘れずに行うこと。

実務経験の有無 有 実務経験 元施設勤務(社会福祉士)

## 実務経験を活かした教育内容

施設での相談業務経験を活かし、施設保育士の必要性や実践力が身につくよう、施設と連携した実践 に近い授業を行う。

卒業必修		保育士必修		幼稚園教諭必修	12.	選択
授業科目名:	教	員の免許状取得のため	の	単位数:1単位		教員名: 京子、金子智昭
教育実習(幼稚園) I ナンバリング:2809		必修科目		(通年)演習	担当	形態:クラス分け
科目		教育実践に関する科	半目			
施行規則に定める		教育実習				
科目区分又は事項等						

- 1. 事前指導において、教育実習生として幼稚園の教育活動に参画する意識を高め、教育者としての愛情と使命感を深めることができる。
- 2. 教育実習後には、教育実習を経て得られた成果と課題等を省察するとともに、指導教員のもとで積んだ知識や技能等について理解を深め、実習の意義を考察できる。
- 3. 自己の能力や適性を考えるとともに、教員免許取得までに習得すべき知識や技能等について 理解することができる。

#### 授業の概要

本授業は幼稚園教育実習における観察・参加・責任実習という方法を含めて教育実習生として遵守すべき義務及び責任について自覚し、意欲的に教育実習に参加するための授業である。 基礎的な理論と方法を学び、クラスの補助的な役割や教員として相応しい指導方法を身に付ける。実習後は、得られた知識や経験を振り返り、まとめて発表することで実習の意義を理解し、さらに必要な指導方法及び知識や技能についての理解を深める。

## 授業計画 (事前授業)

第1回:幼稚園教育と幼稚園実習の意義についての理解

第2回:園の経営方針及び特色ある教育活動

第3回:実習にて遵守すべき事項と責任及び安全について

第4回:幼稚園環境に対して適切な観察と記録の取り方

第5回:学級担任の補助的役割について

第6回:視聴覚教材などを用いた保育とその方法

第7回:幼児の発達段階や、園環境を踏まえ、ねらいを持った部分

及び責任実習指導案の立案

第8回:保育に必要な基礎的技術(話法・保育形態・保育展開・

環境構成などを実地に即して身に付ける)

#### (事後授業)

第9回:教育実習で得られた成果と課題の話し合い

第10回:日誌を見てエピソード記録などを出し合い

第11回:園での実習評価を理解し、幼児教育への意欲を高める。

第12回:園での実習評価を踏まえて更なる課題を模索する。

第13回:実習を総合的に振り返り実習園へ感謝の気持ちを持つ。

第14回: 実習の成果と課題を後輩に伝えるようにまとめる。

第15回:実習の成果と課題を後輩に伝え、自らの学びを深める。

定期試験:パワーポイントを作成し、実習の成果と課題を発表する。

#### 授業時間外の学習

- ・実習校の園環境や方針(調書作成)・実習を受けるにあたって遵守すべきことや責任の確認(オリエンテーション依頼)・保育の観察方法と日誌の記録の取り方・教材や教具の活用法・問題発生時の対処法、安全管理、安全教育・季節や行事を踏まえた指導案(巡視用地図作成)・幼児の発達に即した指導案・保育に必要な技術獲得と発表(1時間)
- ・日誌や指導案を用いて自らの実践 を振り返る。(1時間)
- ・園の評価を聞くことで、新たな課題を見出す。(お礼の手紙)(1時間)
- ・実習を振り返り、成果と自己課題 をまとめる。(1時間) 実習の成果と課題を発表する。 (1時間)

## 授業の方法 講義。演習

#### テキスト

『平成29年告示幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領』 文部科学省・厚生労働省・内閣府 チャイルド社、『実習の手引き』埼玉純真短期大学

## 参考書・参考資料等 適宜配布

学生に対する評価 授業参画(30%)、レポート(30%)、模擬授業及び指導案などの提出物(40%) 履修上の注意

本授業は幼稚園教育実習に行くための「事前授業」とそれらを振り返る「事後授業」である。幼稚園 実習(前期・1週間)(後期・3週間)とも事前、事後指導を必ず受けること。

| 実務経験の有無 | 有 | 実務経験 | 持田:元幼稚園勤務、保育所巡回指導員

## 実務経験を活かした教育内容

持田:幼稚園勤務、公立保育所、私立保育園の巡回指導員の経験を活かして、保育者に求められる基礎的な知識と技術、現代社会における幼稚園教諭の課題、クラスづくりなどを学生が具体的に考え、実践、評価できる授業を行う。

卒業必修 保育士必修 幼稚園教諭必修 選択 担当教員名: 単位数:4単位 授業科目名: 教員の免許状取得のための 持田京子、金子智昭 (4週間) 実習 教育実習(幼稚園) Ⅱ 必修科目 担当形態:複数 ナンバリング:2810 教育実践に関する科目 科目 教育実習 施行規則に定める 科目区分又は事項等

## 授業の到達目標及びテーマ

- (1) 前期幼稚園教育実習(観察実習)
- ①闌の環境及び指導教員と幼児に対して適切な観察を行い、事実に即して記録できる。
- ②園の経営方針及び特色ある教育活動、それらを実施する組織体制を理解できる。
- ③園実務に対する補助的な役割を担い、幼児の実態や課題を把握できる。
- (2)後期幼稚園教育実習(参加実習)
- ①幼稚園教育要領や幼児の実態を踏まえた適切な指導案を作成し、保育実践を行うことができる。
- ②必要な基礎技術を身に付け幼児の体験との関連を考慮して適切な場面で活用できる。
- ③学級担任の役割と職務内容を実施に即して理解し活動の場面で適切に幼児に関わることができる。

#### 授業の概要

幼稚園での観察・参加・実習を通して教育者としての愛情と使命感を深め、将来幼稚園教員となる上での能力や適性を考え、課題を自覚する。指導教員のもとで幼児と共に生活することで、保育に対する理解を深め、実地に即しての確かな知識と指導方法を体得する。

## 授業計画「前半/基本実習」 (1週間 • 1年次)

- 第1回:園経営及び教育活動の特色への理解を深め、実習に参加する。
- 第2回:幼稚園教師の役割・職務や園の1日の流れ、幼児の実態について具体的に理解する。
- 第3回: 事前準備や学習を基に教師に学び、幼児との関わり方、園 記録の取り方を習得する。
- 第4回:園実務に対する補助的な役割を知り、実践する。
- 第5回: 幼児の実態とこれらを踏まえた園経営及び教育活動の特色 への理解を深め、実習に参加する。
- 第6回: 幼児とのかかわりを通して。自らの課題を把握する。
- 第7回:部分指導案を立案し、ねらいをもって保育実践をする。 「後半/責任実習」 (3週間 ・2年次)
- 第8回: 園の1日の流れ、保育のねらいを把握し、指導教員の活動の ねらいとその指導の意図に気付き記録する。
- 第9回: 教室、園庭などの環境設定を教師の意図を理解して自ら行う。 第10回: 幼児同士の関わりや遊びの発展に目を向け、幼児一人ひ
- 第10回: 切児向士の関わりや遊びの発展に目を向け、切児一人の とりの特性を理解したうえで援助する。
- 第11回: クラス担任の了承と指導のもとに、事前に責任実習のための教材研究や準備を行う。指導案(細案)を作成し提出する。
- 第12回:指導教員のもとでねらいを持った 「部分実習」を行う。
- 第13回:「部分実習」を行い個と集団に対する指導方法を身に付ける。
- 第14回:「責任実習」クラスの指導者的な立場として幼児を指導する。
- 第15回:指導教員のもとで実習を振り返り、課題を見出し、改善する。

## 授業時間外の学習

- (1) 幼稚園教育要領を熟読して、ねらいの意味を理解する。 (1時間)
- (2) 実習先の幼稚園に関する 情報を集め。日誌に書き入れる。 (1時間)
- (3) 日誌の書き方を基に一日 の出来事を指導教員に学びつつ 丁寧に書く。(1 時間)
- (4) 幼児の発達年齢を理解 し、それぞれの特徴を踏まえて 実習に臨む。(1時間)
- (5)年齢ごとの指導案作成。(1時間)
- (6)パネルシアター、ペープサート、絵本読み、手遊び等の技術を場面に応じて実践できるようにする。(1時間)
- (7)季節の歌や生活の歌など 歌の伴奏や歌を場面や必要に応 じて指導できるようにする。
  - (1 時間)

## 授業の方法 実習

テキスト 『よく分かる幼稚園実習』百瀬ゆかり 創成社、『実習の手引き』 埼玉純真短期大学

参考書・参考資料等 『幼稚園教育要領』文部科学省 フレーベル館

学生に対する評価 実習園の評価(50%)、実習日誌・事前事後の取り組み(50%)から総合的に評価。 履修上の注意

- ○「教育実習(幼稚園) Ⅰ レを履修した上でⅡを履修する。
- ○実習資格は、幼稚園教育実習に直接かかわる所定の教科を履修し、実習資格審査によって認められた 者に与えられる。普段の学習態度、生活態度で実習生としてふさわしい生活を心がけること。

実務経験の有無 有 実務経験 持田:元幼稚園勤務、保育所巡回指導員

## 実務経験を活かした教育内容

持田:幼稚園勤務、公立保育所、私立保育園の巡回指導員の経験を活かして、保育者に求められる基礎的な知識と技術、現代社会における幼稚園教諭の課題、クラスづくりなどを学生が具体的に考え、実践、評価できる授業を行う。



本学は「こども学」単科の大学で、保育士・幼稚園教諭などの保育者養成を目的 としていることから、本学の学園訓に則り、次のことを意図して教育課程の編成と 授業展開をしています。

- ① 「愛情」「健康」「明るさ」など保育者としての基本的資質の上に、保育・ 教育に必要な専門的知識と技術の修得を確実なものとするため、理論と実践の 科目をバランス良く配置するとともに、社会人として職業人としての責任を 自覚し、広い視野で行動できるように科目を設けている。
- ② 子どもを取り巻く環境に興味と関心の目を向け、豊かな知識と技術に裏付けられた責任感や行動力を備えた保育者を目指し、問題発見や問題解決に積極的に取り組む意識と能力を養成するため、アクティブ・ラーニング方式で学ぶ科目を多く配置している。
- ③ 現代的諸問題に常に関心を持ち、社会の問題を自己の問題として捉え、考え、 地域に貢献できる保育者となれるよう、外部講師招聘・キャンパス外での授業、 地域の子ども達と交流を深める授業など多角的な授業展開ができるような科目 を配置している。

## ディプロマ・ポリシー

本学は「気品・知性・奉仕」の学園訓(建学の精神)に基づき、「健康にして良識ある人格高き社会の指導的人物を養成すること」を使命としています。この学園訓の具現化を意図して教育課程を編成しています。

この教育課程における単位認定基準(知識・技術・態度等の達成度)によって 認定された単位が卒業要件を満たし、かつ、社会人、職業人として自覚と責任を 持った行動ができると判断した学生に学位を授与します。

- ① 学園訓(建学の精神)に基づき、信頼される保育者としての専門的知識と技術を習得し、子どもの教育や保育に貢献できる能力と社会人・職業人としての責務を果たすことができる。
- ② 子どもを取り巻く環境や成長と発達についての深い理解と知識を修得し、強い使命感と深い教育的愛情、豊かな教養とピュアな精神で多面的に諸問題を解決できる信頼される保育者となることができる。
- ③ 社会の事象に常に関心を抱き、的確に捉え、地域における課題を発見し、自らの問題として捉え、修得した知識や技術でこれらを解決することなどを通して地域社会に貢献することができる。

# 2020 年度 シラバス

2020年4月1日発行 編集・発行 埼玉純真短期大学 〒348-0045 埼玉県羽生市下岩瀬430番地 電話 048-562-0711(代)



埼玉純真短期大学 初代学長 福田敏南先生



埼玉純真短期大学